

令和元年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

一人暮らし高齢者等の生活課題と
互助組織による支援に係る調査研究事業

《報告書》

採択事業者：株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

令和 2（2020）年 3 月

目次

I. はじめに.....	3
1. 事業名	3
2. 老人保健健康増進等事業の概要	3
3. 本調査研究事業の目的.....	3
4. 本調査研究事業の体制.....	4
5. 本調査研究事業の進め方	4
6. 本調査研究事業のスケジュール	5
II. 先行研究・統計情報の調査	6
1. 先行研究・統計情報の収集・整理	6
2. 調査仮説の設定	23
III. 実態調査1（市区町村を対象としたアンケート調査）	25
1. 調査概要	25
2. 調査結果	33
IV. 実態調査2（市区町村老人クラブ連合会等を対象としたアンケート調査）	55
1. 調査概要	55
2. 調査結果（単位老人クラブ調査）	64
3. 調査結果（市区町村老人クラブ連合会調査）	74
V. 実態調査3（モデル地域を対象としたヒアリング調査）	79
1. 調査概要	79
2. 調査結果	82
VI. 地域における一人暮らし高齢者等の支え合いのあり方に関する検討	99
1. 検討委員会の設置と協議	99
2. 検討委員会における主な意見	100
VII. 総括	104
1. 調査結果のまとめ.....	104
2. 生活支援の充足に向けて.....	107

I. はじめに

1. 事業名

一人暮らし高齢者等の生活課題と互助組織による支援に係る調査研究事業
(以下、「本調査研究事業」という。)

2. 老人保健健康増進等事業の概要

本調査研究事業は、厚生労働省の老人保健健康増進等事業の一つとして採択された事業である。

老人保健健康増進等事業は、高齢者の介護、介護予防、生活支援、老人保健及び健康増進等に関する先駆的、試行的な事業に対して補助を行い、老人保健福祉サービスの一層の充実や介護保険制度の基盤の安定化に資することを目的とする厚生労働省が推進する補助金事業である。

「老人保健健康増進等事業評価委員会」による評価を受け、実施要綱に基づき都道府県及び市町村が行う事業及び厚生労働大臣が特に必要と認めた法人が行う事業が交付の対象となる事業である。

3. 本調査研究事業の目的

高齢単独世帯の急増に対して、地域互助的な役割を担う住民組織の全国的な実態把握と、その果たす役割についてのより深い調査を行うことによって、地域における一人暮らし高齢者等の支え合いのありかたを考察・取りまとめることを目的とする。

わが国では 65 歳以上の高齢単独世帯が急増しており、2040 年には約 900 万世帯 (= 人) にのぼると予測されている。一人暮らしであっても高齢者が安心して住み続けられる体制構築のため、医療・介護・福祉・住宅・街づくりにおいて、官民協働による対策が必要である。

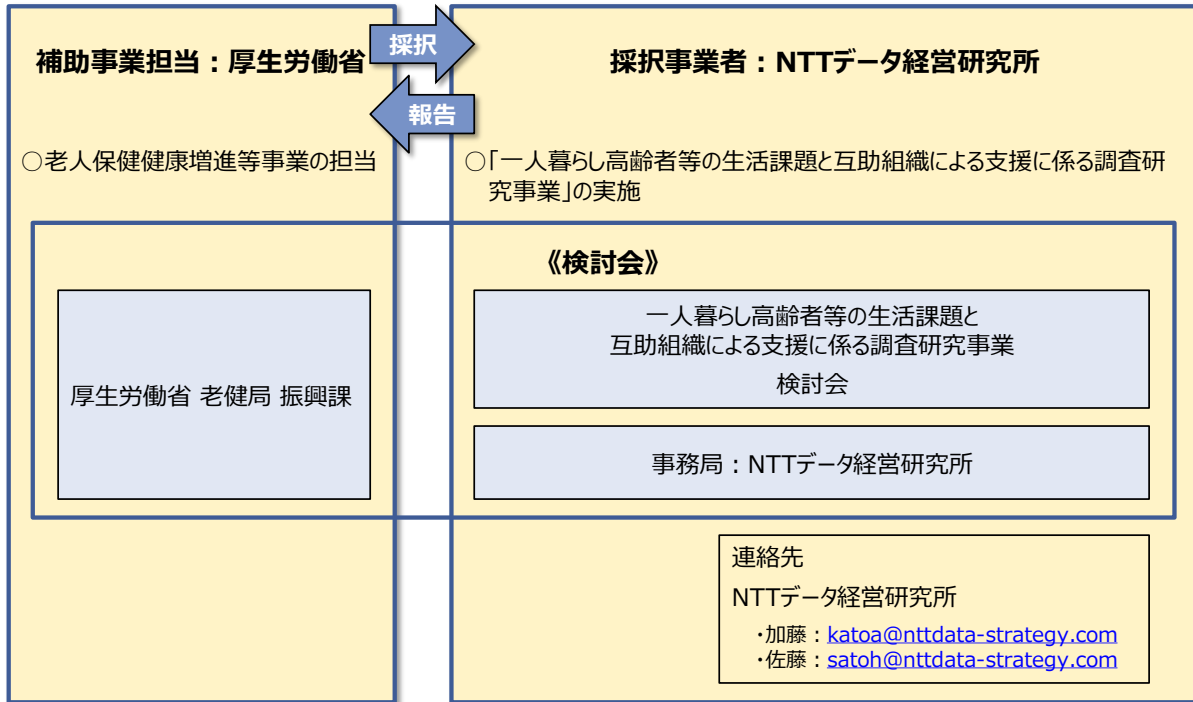
現在でも、高齢単独世帯等と地域をつなぐために、地域の居場所づくりや見守り等の様々な取り組みが行われている。しかし、対象世帯の増大に対して地域の人口が一層減少していく中において、これらの生活支援サービスの担い手が次第に不足することが懸念されており、地域を支える人材については、幅広い視点から確保を検討し、政策を組み立てていくことが必要である。

一方、老人福祉法において位置づけられている老人クラブをはじめとして、地域には様々な地域互助的な役割を担う住民組織が存在しており、ふれあい・いきいきサロンやコミュニティカフェ、地域ボランティア等の活動は近年増加しているといわれている。

そこで、これらの地域互助的な役割を担う住民組織の全国的な実態把握と、その果たす役割についてのより深い調査を行うことによって、地域における一人暮らし高齢者等の支え合いのありかたを考察・取りまとめ、広範な地域における取組の推進に資するよう調査研究を実施した。

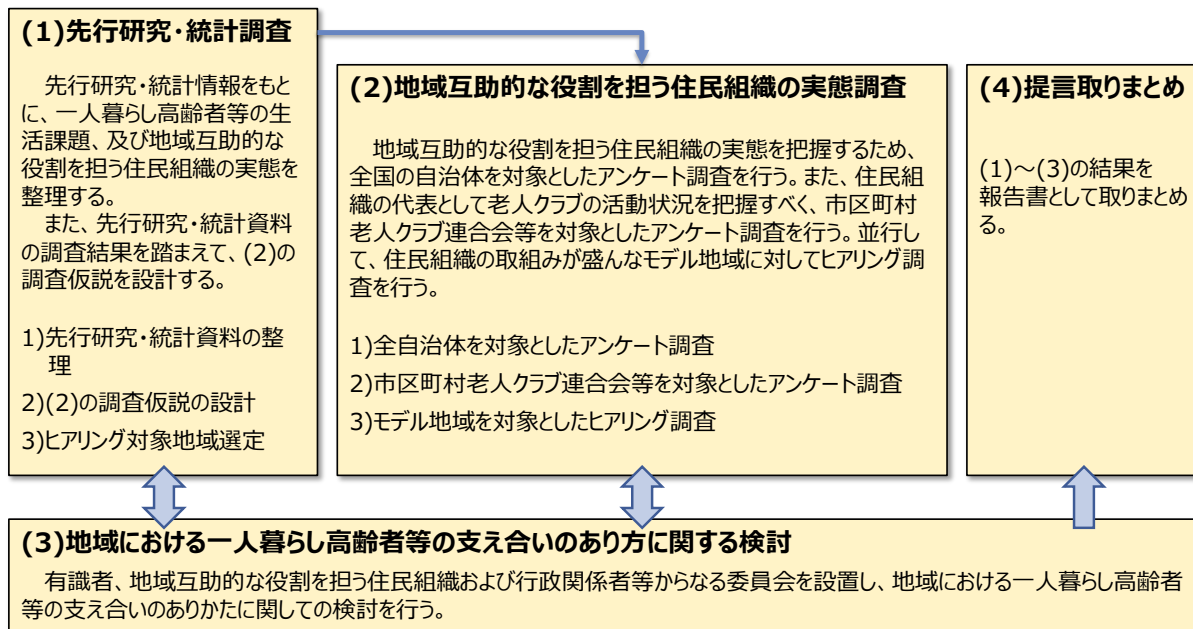
4. 本調査研究事業の体制

本調査研究事業の推進に際しては、「老人保健健康増進等事業」の補助事業担当である厚生労働省の関連部局と連携しつつ、官民のステークホルダーによる「検討会」を設置し、協議を行った。



5. 本調査研究事業の進め方

先行研究・統計情報調査、実態調査（アンケート調査・ヒアリング調査）等を踏まえ、地域における一人暮らし高齢者等の支え合いのあり方について検討し、提言の取りまとめを行った。



6. 本調査研究事業のスケジュール

先行研究等の調査を行った上で、互助的な役割を担う住民組織の実態調査を行い、計2回の検討会を通して地域における一人暮らし高齢者等の支えあいの在り方の検討を行った。

	令和元年					令和2年		
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 先行研究・統計調査	[Blue bar spanning from August to September]							
1) 先行研究・統計資料の整理	[Blue bar spanning from August to September]							
2) (2)の調査仮説の設計	[Blue bar spanning from August to September]							
3) ヒアリング対象地域の選定	[Blue bar spanning from August to September]							
(2) 地域互助的な役割を担う住民組織の実態調査	[Blue bar spanning from October to December]							
1) 全自治体を対象としたアンケート調査	[Blue bar spanning from October to December]							
2) 市区町村老人クラブ連合会等を対象としたアンケート調査	[Blue bar spanning from October to January]							
3) モデル地域を対象としたヒアリング調査	[Blue bar spanning from October to December]							
(3) 地域における一人暮らし高齢者等の支えあいのありかたの検討	[Blue bar spanning from January to March]							
(4) 提言取りまとめ	[Blue bar spanning from January to March]							
○ 検討会	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>第1回</p> <p>第1回検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究、統計資料調査の報告 ・アンケート調査票、ヒアリングシートの確認 ・ヒアリング対象地域の確認 </div> <div style="text-align: center;"> <p>第2回</p> <p>第2回検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果報告 ※老人クラブアンケートは中間報告 ・ヒアリング調査の結果報告 ・課題及び提言内容に関する検討 </div> <div style="text-align: center;"> <p>報告書取りまとめ</p> <p>座長と報告書内容を取りまとめ</p> </div> </div>							
第1回：令和元年9月25日10:00～ 第2回：令和元年12月20日10:00～								
会場：NTTデータ経営研究所 永田町オフィス 会議室								

Ⅱ. 先行研究・統計情報の調査

1. 先行研究・統計情報の収集・整理

一人暮らし高齢者等の生活課題及び地域互助的な役割を担う住民組織の実態についての概要を把握するため、以下に示す先行研究・統計情報を収集し、整理した。

- (1) 地域包括ケア研究会（2013）地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点
- (2) 藤原佳典（2014）『高齢者のシームレスな社会参加と世代間交流—ライフコースに応じた重層的な支援とは』日本世代間交流学会誌 第4号
- (3) 厚生労働省（2015）「平成26年度生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）に関わる中央研修」テキスト
- (4) 厚生労働省、農林水産省、経済産業省（2016）地域包括ケアシステム構築に向けた公的介護保険外サービスの参考事例集 保険外サービス活用ガイドブック
- (5) 東京都福祉保健局（2016）平成27年度「高齢者の生活実態」報告書
- (6) 川越雅弘、備酒伸彦（2011）『一般高齢者の生活機能の特徴と生活支援ニーズ』神戸学院総合リハビリテーション研究 第6巻2号
- (7) 佐藤惟（2015）『独居後期高齢者の将来を見据えた生活支援ニーズに関する研究—本人が語る不安と希望の分析から』社会福祉学評論 第15号
- (8) 直井道子（2005）『都市における老後の不安』季刊・社会保障研究 第41巻1号
- (9) 小山尚美ほか（2009）『過疎農山村地域に暮らす後期高齢者の現在および今後の生活に対する思い』山梨県立大学看護学部紀要 第11号
- (10) 総務省地域力創造グループ地域振興室（2016）暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業
- (11) 総務省（2014）第1回 都市部におけるコミュニティの発展方策に関する研究会「参考資料1 自治会・町内会等について」
- (12) 公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会（2018）シルバー人材センター事業の概要2018
- (13) 公益財団法人全国老人クラブ連合会（2016）老人クラブの地域づくり2016

先行研究・統計情報から見てきた実態や課題を以下に整理した。なお、参照した各資料の概要は次頁以降にて整理した。

○一人暮らし高齢者の生活実態

一人暮らし高齢者は独力での解決が困難な生活課題に直面するため、様々な支援が必要である。生活課題には、生活不安の解消を目的とした「生活支援」と、高齢期の生活をより豊かにする「生きがい創出」に大別することができる。前者については、様々な調査研究が重要性を強調してきた一方、後者については調査対象としてあまり注目されてきていない。

○高齢者の抱える生活課題の性差

性別による生活課題の差異として、女性に比べると男性の方が近所との付き合いが少なく、地域性の高い活動に参加していないことが挙げられる。この傾向は年齢が若いほど顕著である。

○高齢者の抱える生活課題の地域差

地域による生活課題の差異として、都市部では「住居」「経済的不安」「移動」「話し相手・相談相手」「要介護時対応」「災害時対応」、地方では「移動」「災害時対応」といった課題が挙げられている。

○生活機能に応じた社会参加活動の変化

高齢期の社会参加活動は、ライフコースに応じた生活機能の低下に伴い、「就労」「ボランティア活動」「自己啓発・生涯学習」「友人・近所づきあい」「通所サービス」と、シームレスに状態に応じた無理のない活動につながるのが望ましい。

○地域互助的役割を担う住民組織の活動状況

地域互助的役割を担う住民組織の活動としては、「家事支援」「買い物支援」「配食」「移動支援」「交流」「見守り・声かけ」「雪かき・雪下ろし」等が挙げられている。老人クラブでは友愛活動等の活動を行っている。特に、地域資源の少ない地方における通いの場や、都市部におけるメンバー間の支え合い等、地域において重要な役割を果たしている。

○地域互助的役割を担う住民組織の都市部と地方における活動状況

地域互助的役割を担う住民組織の活動状況の地域による差異としては、都市部では「家事支援」、地方では「買い物支援」「雪かき・雪下ろし」を実施している団体が多い傾向にある。また、都市部と地方では地域資源に違いがある。都市部では、市場サービスの選択肢が多い一方、地方では、地縁型の支え合いによって市場サービスを補完している。

(1) 地域包括ケア研究会（2013）地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点

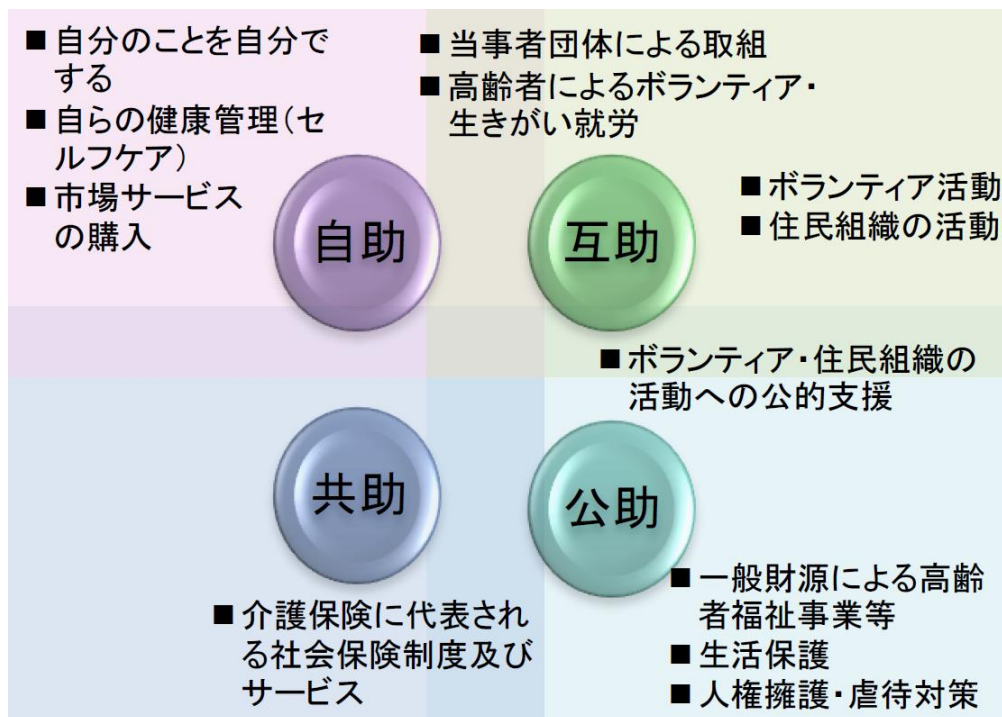
- 「公助」は公的な負担（一般財源等）による取り組み、「共助」は介護保険に代表される社会保険制度に基づく取り組み、「自助」は自らによる取り組みや自費負担での市場サービス購入であると整理することができる。
- 一方、「互助」は、相互に支え合っているという意味で「共助」と共通するものの、制度的に裏付けられていない自発的な費用負担で賄われていること（寄付等）や、住民等による物心両面の支援提供によって支えられていることが多い。

2012 年度の地域包括ケア研究会の報告書では、高齢者を地域で支える具体的な方法と「自助」「互助」「共助」「公助」（以下、「四助」という。）を取り上げ、誰の費用負担で支援を提供するのか、という視点から、以下のように定義を整理している。

- ・自助：自分のことを自分でする。自らの健康管理（セルフケア）。市場サービスの購入。
- ・互助：ボランティア活動。住民組織の活動。
- ・共助：介護保険に代表される社会保険制度及びサービス。
- ・公助：一般財源による高齢者福祉事業等。生活保護。人権擁護・虐待対策。

また、自助と互助の中間として「当事者団体による取組」「高齢者によるボランティア・生きがい就労」、互助と公助の中間として「ボランティア・住民組織の活動への公的支援」が挙げられている。

■ 四助にかかわる活動



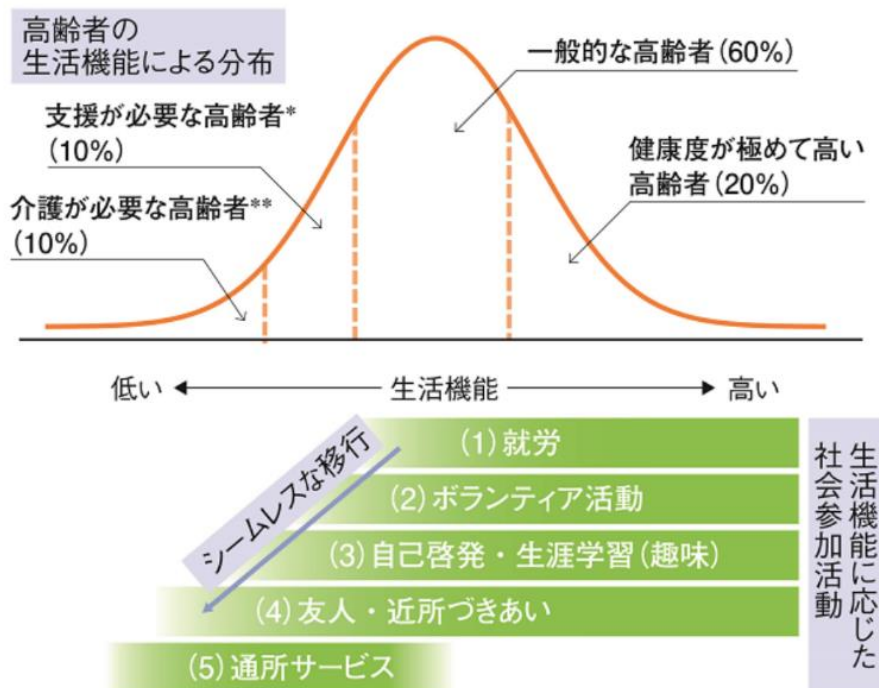
(2) 藤原佳典 (2014) 『高齢者のシームレスな社会参加と世代間交流-ライフコースに応じた重層的な支援とは』日本世代間交流学会誌第 4 号

○高齢期の社会参加は心身両面に影響を与えることから、ライフコースに応じて、「就労」「ボランティア活動」「自己啓発・生涯学習」「友人・近所づきあい」「通所サービス」と、シームレスに変化していくことが望ましい。

他者との相互関係を伴う活動に参加することを「社会参加」と定義し、高齢者の社会参加を「就労」「ボランティア活動」「自己啓発・生涯学習」「友人・近所づきあい」「通所サービス」の 5 つのステージに分類した上で、ライフコースに応じた社会参加が健康に及ぼす影響を整理している。

- ・就労：高齢期の就労継続は精神・生活機能の両面に対してよい影響を与える。
- ・ボランティア活動：ボランティア活動と心理的・身体的健康度は関連していることがわかっている。一方で、心身社会的に健康度の高い高齢者がボランティア活動に参加する傾向にあるというバイアスも認められる。
- ・自己啓発・生涯学習：主要な活動と考えられる余暇活動は、認知機能の低下抑制に有効であることがわかっている。ボランティア活動との階層性がある一方で、重複している部分も多いことから、相乗効果を期待しやすい。
- ・友人・近所づきあい：外出しない「閉じこもり」も、コミュニケーションを伴わない単独行動も、ともに生活機能の低下に関連がある。男性は「交流なき外出」、女性は「外出なき交流」に留意する必要がある。
- ・通所サービス：要介護期における介護サービスの利用をいう。

■ 高齢者のライフコースに応じた重層的な支援



注釈) *、**は生活機能による一般的な分布であり、介護保険における要介護認定基準の「要支援」「要介護」とは異なる。

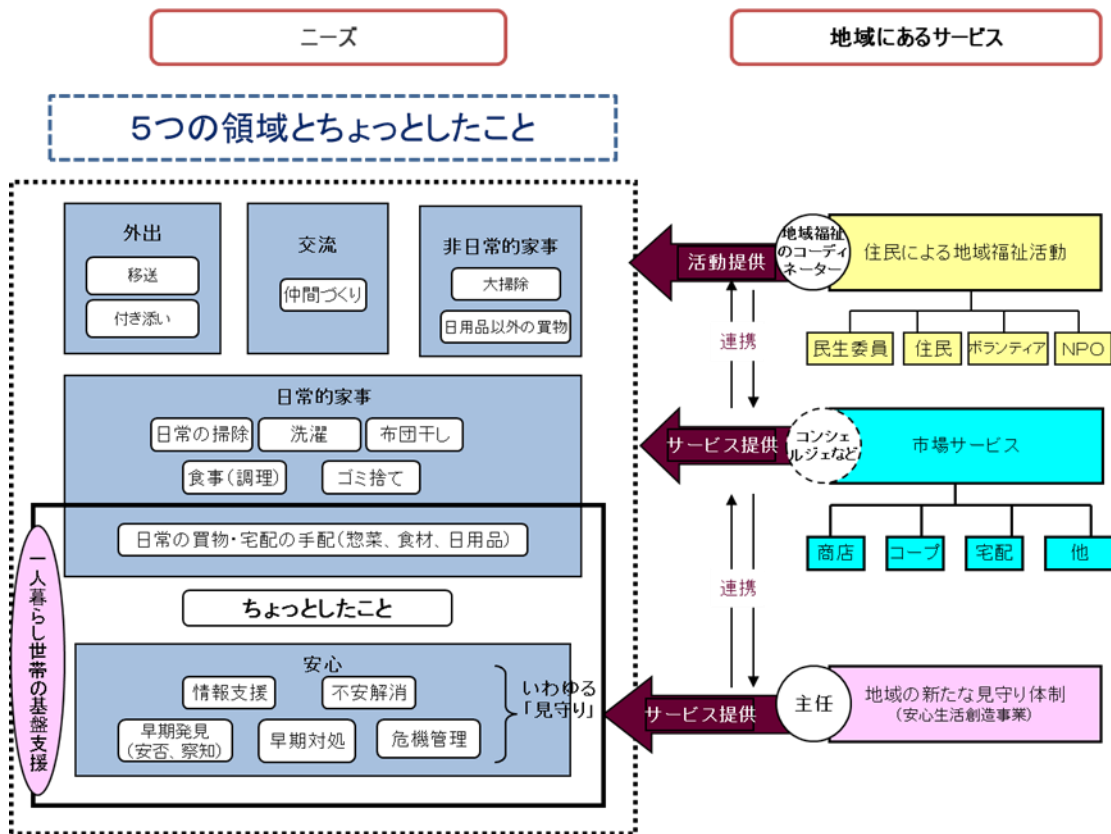
(3) 厚生労働省(2015)「平成26年度生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)に関わる中央研修」テキスト

○高齢者の生活支援に関するニーズは「外出」「交流」「安心」「日常的家事」「非日常的家事」の5領域と「ちょっとしたこと」に分類することができる。

加齢に伴い生じる日常生活の不自由さとして、高齢者の生活支援に関するニーズを「外出」「交流」「安心」「日常的家事」「非日常的家事」の5領域と「ちょっとしたこと」に分類している。

- ・外出：通院や買物等
- ・交流：友人知人等との交流
- ・安心：自分の存在を気にかけてくれること(いわゆる「見守り」)
- ・日常的家事：買物や掃除、調理、布団干し等
- ・非日常的家事：大掃除や家電製品の買い物等
- ・ちょっとしたこと：日常生活で不意に起こる蛍光灯の交換や固い蓋の開け閉め等

■地域のニーズと地域にあるサービスの関係



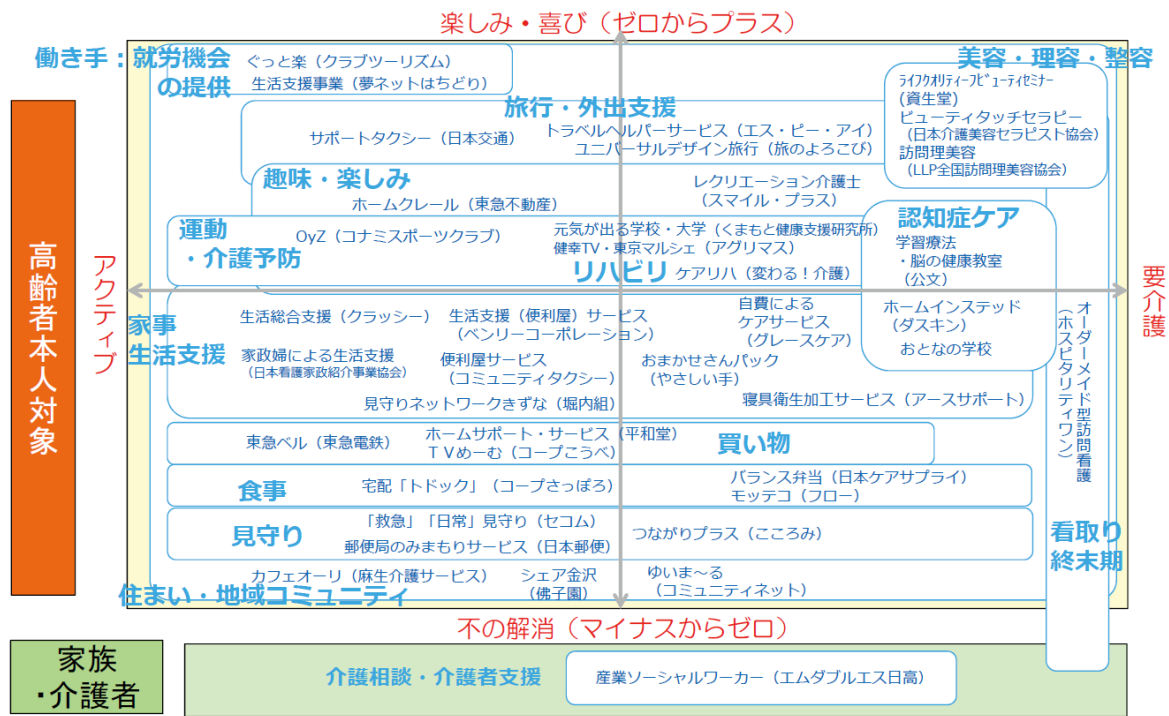
(4) 厚生労働省、農林水産省、経済産業省（2016）地域包括ケアシステム構築に向けた公的介護

保険外サービスの参考事例集 保険外サービス活用ガイドブック

○高齢者の生活を支える公的保険外サービスは、加齢によってできなくなったことをカバーする「不の解消（マイナスからゼロ）」と、QOL の向上や介護予防、介護状態の改善につながる「楽しみ・喜び（ゼロからプラス）」に大別される。

高齢者支援の公的保険外サービスについて、加齢によってできなくなったことをカバーすることを「不の解消（マイナスからゼロ）」、QOL の向上に寄与することや介護予防や介護状態の改善につながることを「楽しみ・喜び（ゼロからプラス）」に分類している。特に後者については、生きがいや楽しみをもち、できるだけ健康な状態で暮らすことが高齢期の生活にとって重要であることから、このような分類となっている。

■ 高齢者の生活を支える公的保険外サービス



(5) 東京都福祉保健局 (2016) 平成 27 年度「高齢者の生活実態」報告書

- 一人暮らし高齢者は経済的な不安や病気や災害等の突発的な出来事への不安を抱えていることが多い。
- 心配ごとや悩みごとの相談相手として、一人暮らし高齢者は高齢者全体と比較して「行政機関の相談窓口」「ホームヘルパー等の介護職員・ケアマネジャー」「民生委員」が多く挙がっている。
- ほとんどの高齢者は何らかのかたちで近所づきあいをしている一方、男性は女性よりも近所づきあいが少ない傾向にある。

一人暮らし高齢者の抱える心配ごとや悩みごととしては、「自分の健康・病気」の回答率が最も高く 54.8%、次いで「心配ごとや悩みごとはない」「生活費や経済的なこと」「年金・介護・医療など社会保障給付の水準」「地震などの災害にあうこと」の順になっている。経済的な不安や病気や災害等の突発的な出来事への不安が伺える。

■一人暮らし高齢者の抱える心配ごとや悩みごと

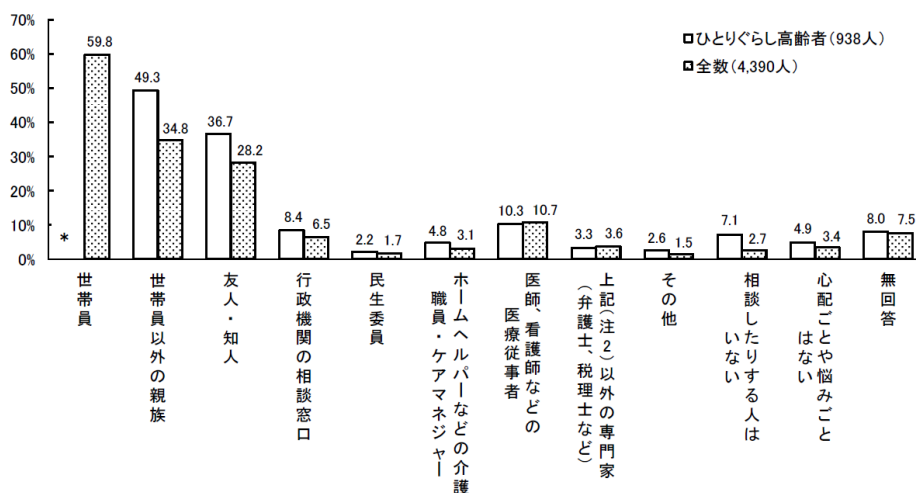
表 11-11 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級、動作能力類型別

	総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	相談したり、頼れる人がいなくて、一人きりである	地域の人たちとの関係	生活費や経済的なこと	年金・介護・医療など社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震などの災害にあうこと	将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと	自分の死後の配偶者や子供の将来	墓の管理	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答	
ひとり暮らし高齢者	100.0 (938)	54.8	9.3	6.1	6.6	2.3	23.3	22.7	11.5	4.5	5.9	6.0	22.0	0.7	4.5	6.0	1.9	24.4	3.3	
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	52.0	6.5	6.2	9.3	0.9	24.3	22.4	12.5	6.5	7.5	1.6	14.0	0.9	4.4	8.7	3.4	26.8	1.6
	65～74歳	100.0 (193)	52.8	4.7	6.7	8.8	1.0	28.0	23.8	13.5	9.8	6.7	2.1	13.5	1.6	4.1	8.8	3.6	23.3	1.6
	75歳以上	100.0 (128)	50.8	9.4	5.5	10.2	0.8	18.8	20.3	10.9	1.6	8.6	0.8	14.8	-	4.7	8.6	3.1	32.0	1.6
	女	100.0 (617)	56.2	10.7	6.0	5.2	3.1	22.9	22.9	11.0	3.4	5.0	8.3	26.1	0.6	4.5	4.5	1.1	23.2	4.2
	65～74歳	100.0 (263)	57.4	9.9	7.6	6.8	3.4	32.7	32.7	16.7	8.0	6.1	9.5	27.4	0.8	4.2	6.5	0.4	16.3	2.7
	75歳以上	100.0 (354)	55.4	11.3	4.8	4.0	2.8	15.5	15.5	6.8	-	4.2	7.3	25.1	0.6	4.8	3.1	1.7	28.2	5.4
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (73)	45.2	6.8	1.4	5.5	1.4	17.8	11.0	4.1	-	4.1	2.7	17.8	-	1.4	2.7	2.7	26.0	23.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (90)	67.8	14.4	10.0	12.2	5.6	25.6	21.1	15.6	-	6.7	6.7	25.6	-	13.3	12.2	2.2	13.3	2.2
	軽い障害のある高齢者	100.0 (213)	59.2	10.3	6.1	9.4	2.3	29.6	28.2	11.7	4.2	7.0	9.4	24.4	0.9	6.6	7.5	0.9	23.9	2.8
	障害のない高齢者	100.0 (544)	52.2	8.1	6.1	4.8	2.0	21.5	23.0	11.9	5.7	5.3	5.1	20.8	0.7	2.8	4.8	2.0	26.3	0.7
全数	100.0 (4,390)	52.9	38.5	7.9	2.1	2.1	18.5	21.9	10.0	4.0	6.2	6.2	23.1	15.2	14.8	6.4	1.2	20.5	5.7	

一人暮らし高齢者の心配ごとや悩みごとの相談相手としては、「世帯員以外の親族」と「友人・知人」の回答率が際立って高く、それぞれ 49.3%と 36.7%となっている。この2つに加え、高齢者全体と比較して多く挙げられているのは、「行政機関の相談窓口」「ホームヘルパーなどの介護職員・ケアマネジャー」「民生委員」等である。一方で、高齢者全体と比較して「相談したりする人はいない」と回答している一人暮らし高齢者も多いことから、一人暮らし高齢者の中にも格差のあることが伺える。

■一人暮らし高齢者の抱える心配ごとや悩みごとの相談相手

図 11-11 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－全数との比較



一人暮らし高齢者の近所付き合いの程度としては、「立ち話をする程度の人がいる」の回答率が最も高く 34.3%、次いで「あいさつをする程度の人がいる」「お互いに訪問し合う人がある」の順になっており、8割以上の人は何らかのかたちで近所の人と付き合っていることが伺える。一方で、高齢者全体を性・年齢階級別にみると、「付き合いがない」と答える人は女性よりも男性に多く、特に前期高齢期の男性では 33.2%を占める。

■一人暮らし高齢者の近所付き合いの程度

表 11-10 近所付き合いの程度－性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

		総数	が あ い 互 に 訪 問 し 合 う 人	が 立 ち 話 を す る 程 度 の 人	人 が あ い さ つ を す る 程 度 の 人	付 き 合 い が な い	無 回 答
ひとり暮らし高齢者		100.0 (938)	21.7	34.3	25.9	16.6	1.4
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	9.7	27.1	34.6	27.4	1.2
	65～74歳	100.0 (193)	8.3	26.4	31.6	33.2	0.5
	75歳以上	100.0 (128)	11.7	28.1	39.1	18.8	2.3
	女	100.0 (617)	28.0	38.1	21.4	11.0	1.5
	65～74歳	100.0 (263)	24.3	36.5	24.7	12.5	1.9
	75歳以上	100.0 (354)	30.8	39.3	18.9	9.9	1.1
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (73)	16.4	15.1	31.5	32.9	4.1
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (90)	23.3	31.1	27.8	16.7	1.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (213)	18.3	40.4	26.3	13.1	1.9
	障害のない高齢者	100.0 (544)	23.5	35.3	24.8	15.8	0.6
全数		100.0 (4,390)	18.7	40.8	29.4	10.0	1.1
22年度		100.0 (899)	22.8	35.3	26.3	14.5	1.2

(6) 川越雅弘、備酒伸彦 (2011) 『一般高齢者の生活機能の特徴と生活支援ニーズ』神戸学院総合リハビリテーション研究 第6巻2号

○一人暮らし高齢者の日常生活ニーズとしては、「蛍光灯の交換」「庭の手入れ」などの自宅の保全が挙げられている。また、身体的に一人で行うことが難しいことに対して支援を受けていることが多い。

一人暮らし高齢者が困っている日常生活・症状等としては、「蛍光灯の交換」の回答率が最も高く45.2%、次いで「膝・腰の痛み」「庭の手入れ」「階段の昇降」の順になっている。家族と同居している高齢者と比較すると、自宅の保全等に困っている様子が伺える。

■ 高齢者の生活支援ニーズ

ウ) 世帯区分別

	独居(N=131)		非独居(N=735)	
	項目名	(%)	項目名	(%)
1位	蛍光灯の交換	45.2	膝・腰の痛み	39.6
2位	膝・腰の痛み	44.1	視力	24.4
3位	庭の手入れ	33.9	家族等の病気	23.0
4位	階段昇降	28.9	蛍光灯の交換	16.8
5位	視力	25.0	階段昇降	16.8
6位	旅行	19.7	聴力	16.2
7位	家族等の病気	19.4	経済的なこと	14.9
8位	睡眠	18.8	庭の手入れ	14.0
9位	経済的なこと	18.3	歩行	13.1
10位	日用品の買い物	17.8	旅行	12.0

一人暮らし高齢者が受けている援助の状況としては、「蛍光灯の交換」の回答率が最も高く25.2%、次いで「車の運転」「灯油の購入」「日用品の買い物」の順になっており、身体的に一人で行うことが難しいことに対して援助を受けていることが伺える。また、家族と同居している高齢者と比較すると、1位と2位の順位は違うものの、項目には変化がないため、高齢者に普遍的なニーズであることが伺える。

■ 高齢者が受けている援助の状況

ウ) 世帯区分別

	独居(N=131)		非独居(N=735)	
	項目名	(%)	項目名	(%)
1位	蛍光灯の交換	25.2	車の運転	34.0
2位	車の運転	16.3	蛍光灯の交換	29.0
3位	灯油の購入	14.5	灯油の購入	28.8
4位	日用品の買い物	10.9	日用品の買い物	21.7
5位	掃除	7.7	ごみ出し	15.1
6位	庭の手入れ	7.3	通院	13.8
7位	通院	4.9	掃除	12.7
8位	書類の書き方	4.8	食事の用意	11.8
9位	ごみ出し	4.7	書類の書き方	11.5
10位	旅行	4.3	洗濯	11.0

(7) 佐藤惟 (2015) 『独居後期高齢者の将来を見据えた生活支援ニーズに関する研究—本人が語る不安と希望の分析から』社会福祉学評論 第 15 号

○一人暮らし高齢者の将来を見据えた生活支援ニーズとして、「医療・健康管理」「経済的安心」「住居の安心」「介護予防」「見守り」「生前整理」「死後の安心」が挙げられている。

一人暮らし高齢者の将来を見据えた生活支援ニーズは、「医療・健康管理」「経済的安心」「住居の安心」「介護予防」「見守り」「生前整理」「死後の安心」という 7 つのカテゴリーに分類されている。

■一人暮らし高齢者の将来を見据えた生活支援ニーズ

表 2 「将来を見据えた生活支援ニーズ」カテゴリー、サブカテゴリー、コード一覧

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	語りの例
生活の基盤 ニーズ	医療・健康管理 ニーズ	身体の不安	「不安だらけだよ。(中略) まず身体だね。」(No.1) 「身体がやっぱしね、一番心配ですよ。」(No.2)
		病院にきちんと行く	「お医者さんにもちゃんと、毎月行くようにして、やっているんですよ。」(No.5)
	経済的安心 ニーズ	経済的な不安	「(経済的な不安は) ありますね。だから年金がどうなるかわからないからね。」(No.6)
	住居の安心 ニーズ	老人ホームに入居したい	「(老人ホームに)もしかすると、入れたら僕も入りたいね。何にもなくていいからね。」(No.1)
地域生活支援 ニーズ	介護予防 ニーズ	身体のために自分で動く	「うちで雑巾縫ったり,そんなのばかりやっています。手をね, あれしないとダメなんです。(中略) やっぱり手ね, 動けなくなったら一卷の終わりだしね。」(No.2)
		認知症の不安	「(認知症の)不安は, あります。(中略) もうちょっとしたら, わからなくなってくるんじゃないかなあという不安はあります。」(No.5)
	見守り ニーズ	緊急時の不安	「僕が万が一ね。まあ, どうなるか, 立てなくなるか歩けなくなっていくようなことになった時に, (中略) 外から入ってくる人は, 鍵がないと入れないわけじゃない。」(No.7)
人生の統合・死後の安心 ニーズ	生前整理 ニーズ	親族関係の整理	「お位牌はね。向こう(配偶者の実家)に返したいしね。(中略) だから一度,私のほうから下手に出て, これを返してね, それをしなくちゃと思って。」(No.2)
		財産処分の希望	「どうせ使わないあれ, 誰にも予定していないお金っていうの, ない方に多少なりともあげたいっていう。そういうあれ(希望)があるの。」(No.3)
		荷物の整理	「荷物だってこれ片づけないとね。もういつも思うの。」(No.2)
	死後の安心 ニーズ	孤独死の不安	「ひとりだから不安はあるんですよ。(中略) ひとりで死んじゃったらどうなるんだろうと。」(No.6)
		墓の準備	「そういうお墓のほう, お坊さんに顔出ししておかないとね, 弟だけのあれじゃなくて, 私自体もね。」(No.2)
		葬式や死後のこと	「姪っ子たちを呼んで, まあ『貯金はこれくらいしかないけど, これで。お葬式なんかはしないで』って。(中略)頼んであるんです。だからそういう, 死んだ後のことはやってくれるっていうこと。」(No.5)

○都市に住んでいる高齢者の不安として、「住宅」「外出（閉じこもり）」「経済」「孤立」「緊急時」「介護」が挙げられている。

都市に居住する高齢者が抱える不安として、「住宅」「外出（閉じこもり）」「経済」「孤立」「緊急時」「介護」が挙げられており、都市高齢者に特有の生活課題であることが伺える。

■都市に居住する高齢者が抱える不安

表 2 都市高齢者の不安発生の見取り図

I 都市の環境的特徴		II 都市高齢者の生活の特徴		III 心理的特徴
A 都市の定義	→ B 都市の社会的特徴	→ C 都市的生活	→ (D 都市居住高齢者に多く特に不安な層)	→ E 老後不安
1 人口密度の高さ	4 土地・住宅価格の高さ	狭い家, 高層住宅, 狭い路地	賃貸住宅居住者 特に低所得, 一人暮らし	1) 住宅についての不安
2 規模の大きさ	5 公共交通機関の発達	混雑 複雑な乗り換え 階段 歩道橋 複雑な地下街	* (健康状態の悪い者)	2) 外出不安 閉じこもり
3 非農業世帯の多さ	6 分業・専門機関の発達	自給自足的生活の困難 現金の必要性	* (低所得者)	3) 経済不安
	7 地理的移動性大	匿名的人間関係 近隣交際少	一人暮らし * 男性	4) 孤立不安 緊急時不安
	8 非通念的文化 (非伝統的)	子ども同居しない 子どもに頼らない	一人暮らし	5) 介護への不安
* はとくに都市に多いわけではないが, 大都市の環境によって特に不安を持つと考えられる層				

(9) 小山尚美ほか(2009)『過疎農山村地域に暮らす後期高齢者の現在および今後の生活に対する思い』山梨県立大学看護学部紀要 第11号

○農村部に住んでいる高齢者の不安として、「農作物の管理」「交通の利便性」「集会や催事の開催」「災害時の対応」などが挙げられており、楽しみにしていることや安心できることとして、「地域住民や子・孫との交流」や「近隣住民や子ども、行政サービスの支援」が挙げられている。

農山村地域に居住する高齢者が抱える不安として、「農作物の管理」「交通の利便性」「集会や催事の開催」「災害時の対応」等が挙げられている。一方で、農山村地域で暮らす高齢者は「地域住民や子・孫との交流」を楽しみにしていること、「近隣住民や子ども、行政サービスの支援」があるので安心できていることが伺える。

■ 農山村地域に居住する高齢者が抱える不安

表1 各チームの表札と一行見出しの数

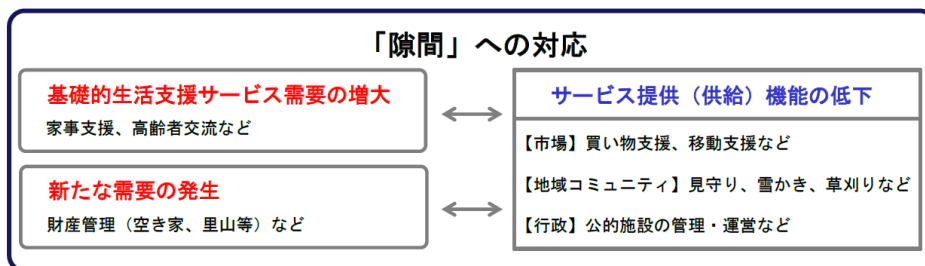
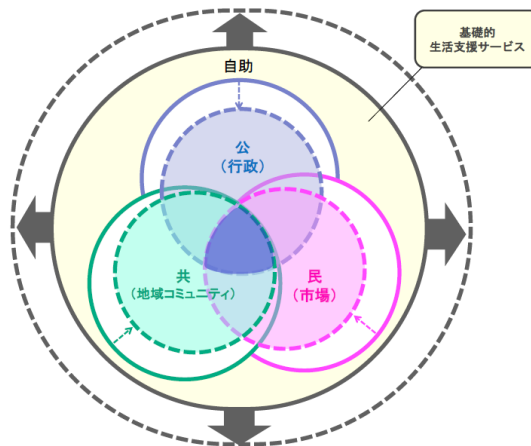
大チームの表札	中チームの表札	小チームの表札	一行見出しの数
猿や猪が農作物を喰い荒らして困る	猿や猪が農作物を喰い荒らして困る	猿や猪が農作物を喰い荒らして困る	3
欲を言えばもう少し交通の便を良くして欲しい	欲を言えばもう少し交通の便を良くして欲しい	欲を言えばもう少し交通の便を良くして欲しい	3
年々歳をとってこのまま元気でいられるかどうか先のことばわからず不安だ	年々歳をとってこのまま元気でいられるかどうか先のことばわからず不安だ	先のことばわからず不安だ	3
		急に倒れたら困る	3
		歳をとって身体がだんだん大変になって困る	4
		気持ちだけは安気で生活している	1
みんな歳をとり昔のようにいなくなり惜しい	人が通り年寄りばかりで昔のようにはいかず残念だ	今は幸せだと思うが、これで本当に安心だなあということはない	1
		密い人がいないから部落の行率は大変だ	4
		乳気の類はお友達がいっぱいいたからお茶のみをして楽しかったが、今はそれができなくなって残念だ	1
		若い人がいればいいが、みんな年寄りばかりだから大変だ	1
災害や紛争がないことが心配だ	災害や紛争がないことが心配だ	習字や大正琴と一緒に習う仲間がいればいいと思う	1
		身体が〇〇で辛い	3
みんなとの交流は楽しみだ	人と集まって交流するのが楽しみだ	身体が思うようにならず昔のように〇〇できず悔しい	2
		災害が心配だ	2
		跡継ぎがないことが心配だ	2
		部落の人たちの集まりが楽しみだ	7
みんなが支えてくれるので安心して生活できる	近所の支援があるから助かっている	ゲートホールで管に会うのは楽しみだ	2
		デイサービスは楽しみだ	3
		子供や孫に会うのが楽しみだ	7
		子供達に自分の作ったものをあげるのが楽しみだ	4
ここで今の生活は幸せだ	自分は〇〇に誇りをもっている	この部落はみんなで助け合っていることが自慢だ	3
		近所の環境がいいから助かっている	2
		近所の人が寄り合わせて買い物などに行ってくれて助かる	1
		私が黙っていても、隣の人が自分のことを気にしてくれてありがたい	1
		近所の人は優しく、二つ返事で用を足してくれるので本当に助かっている	1
		別荘の子供の支援があるから安心	3
		別荘の子供を頼りにしている	2
		子供が良くてくれて幸せ	2
		町の行政サービスはありがたい	5
		町の遊園地サービスは助かる	4
便利な世の中になって助かっている	2		
今の生活は幸せだ	健康で役割を持って気ままに暮らしているから幸せ	気ままに暮らしているから幸せ	3
		役割があることは活気の一つだ	4
		自分は健康だから幸せだ	3
		今の生活は最高に幸せだ	1
		昔の苦労があるから今がある	2
		〇〇は自分の自慢だ	4
		町内外から来る友人が多く忙しいがなんとかこなしていることが嬉しい	1
		姑と同じ歳まで生きることが孝行と思ひ、頑張ってきた	1
		姑の介護を良くしてきたことをみんなに誉めてもらいたい	1
		働くのが好きだ	3
子供の所へ行くより住み慣れたここに暮らしたい	子供の所へ行くより住み慣れたここに暮らしたい	百姓は楽しみだ	5
		自分たちの年代が一番幸せだ	2
		自分なりの楽しみがある	2
		住み慣れたところが一番いい	3
今の生活を維持する為にはいろんなことを心掛けている	健康に気をつけている	暮らしたい	3
		子どもの所は便利だが何もすることがなくて困る	1
		子どもは来いと言ってくれるが自分が不安気なことで暮らすのが一番幸せ	1
		子どもは良くしてくれるが、子どもと生活するとお互いに気を遣うので、一人で家に居た方が気持ちがいい	1
		火事でも起こせばここには居られず、子供のところへ連れて行かれると思う	1
		牛乳やお湯を飲んでいるから元気でいられる	3
		ケガをしないように気をつけている	2
		顔と身体を使うのは健康によい	3
		身体と相談しながら無理をしないようにしている	6
		この地域はみんなで健康に気をつけている	1
先のことば心配しすぎず明るくしている	先のことば心配しすぎず明るくしている	できる限り自分でするようにしている	4
		できる限り自分でするようにしている	4
		ここが嫌だなんて言えば、どこへ行っても住めない	1
		お話を聞くととんとなく自分の心が洗われる	1
お話を聞くととんとなく自分の心が洗われる	お話を聞くととんとなく自分の心が洗われる	お話を聞くととんとなく自分の心が洗われる	1

(10) 総務省地域力創造グループ地域振興室（2016）暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業

- 生活支援サービスの需要が増大する一方、行政・民間サービスともに供給能力が低下している。そのため、地域で活動する組織には、サービス提供主体として、生活支援サービスの需給を埋めるような役割が期待されている。
- 組織形態によって、実施している活動内容に違いがみられる。任意団体等は車両運行などの運営コストがかかる活動の実施率が低い一方、法人組織の実施率は比較的高い。
- 過疎区分によっても活動内容は変化する。過疎地域やみなし過疎地域では「雪かき・雪下ろし」「買い物支援（配達、地域商店の運営、移動販売など）」、非過疎地域では「家事支援（清掃や庭木の剪定など）」の実施率が高い傾向にある。

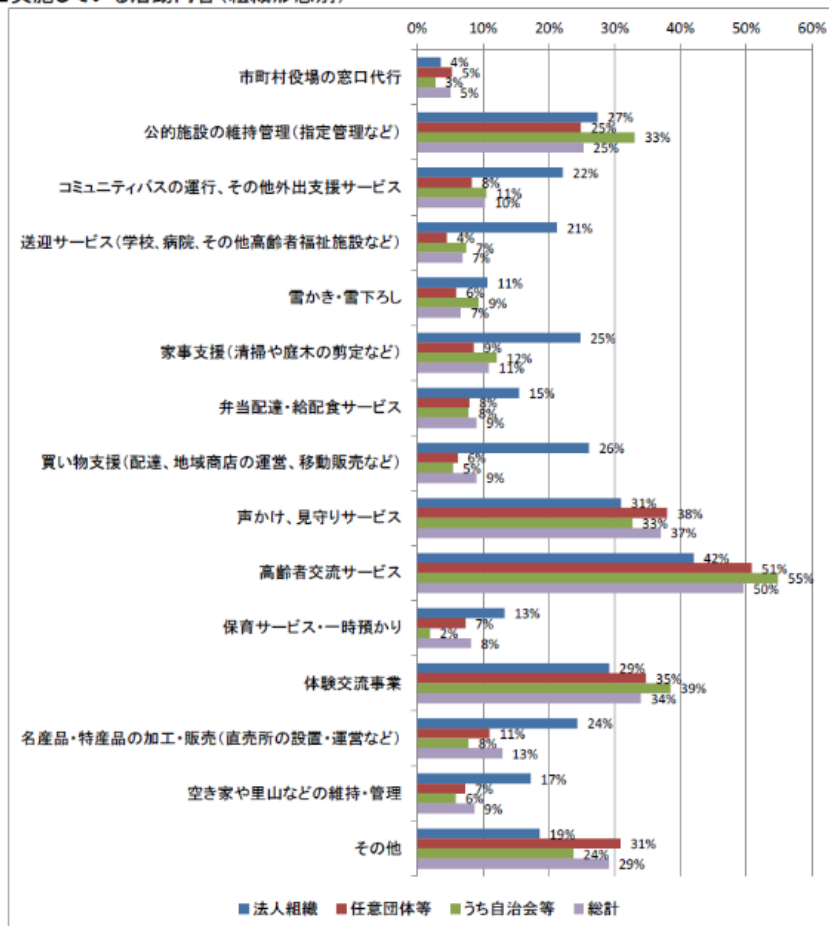
2015年度の総務省の調査研究事業では、住民が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を実践する必要性が提言されている。その背景として、人口減少を原因とする市場・行政の生活支援サービスの供給能力の低下と、高齢化に伴う住民の生活支援の需要の増加といった、地域におけるサービス需給のギャップが挙げられており、地域で活動する組織（以下、地域運営組織という。）は、この需給ギャップに対応することが期待されている。

■ 地域運営組織に期待される役割



地域運営組織の活動状況としては、総計でみると「高齢者交流サービス」の回答率が最も高く50.0%、次いで「声かけ、見守りサービス」「体験交流事業」の順になっている。組織形態別でみると、法人組織と町内会等を含む任意団体等では実施している活動内容に変化があることがわかる。特に「コミュニティバスの運行、その他外出支援サービス」「送迎サービス（学校、病院、その他高齢者福祉施設など）」「家事支援（清掃や庭木の剪定など）」「弁当配達・給配食サービス」「買い物支援（配達、地域商店の運営、移動販売など）」に違いがみられ、任意団体等では実施率が低い一方、法人組織では実施率が比較的高いことがわかる。

■実施している活動内容(組織形態別)



過疎区分で実施活動を比較すると、過疎地域やみなし過疎地域では「雪かき・雪下ろし」「買い物支援（配達、地域商店の運営、移動販売など）」、非過疎地域では「家事支援（清掃や庭木の剪定など）」の実施率が高いことがわかる。

■過疎区分による比較

	過疎地域	みなし過疎	一部過疎	非過疎	総計
市町村役場の窓口代行	4%	0%	4%	6%	5%
公的施設の維持管理(指定管理など)	32%	4%	30%	18%	24%
コミュニティバスの運行、その他外出支援サービス	7%	16%	12%	10%	10%
送迎サービス(学校、病院、その他高齢者福祉施設など)	5%	4%	10%	6%	7%
雪かき・雪下ろし	14%	24%	6%	2%	6%
家事支援(清掃や庭木の剪定など)	7%	4%	8%	13%	11%
弁当配達・給配食サービス	14%	8%	12%	5%	9%
買い物支援(配達、地域商店の運営、移動販売など)	13%	24%	7%	7%	9%
声かけ、見守りサービス	32%	24%	44%	34%	35%
高齢者交流サービス	48%	32%	54%	44%	47%
保育サービス・一時預かり	6%	12%	10%	8%	8%
体験交流事業	40%	40%	41%	25%	32%
名産品・特産品の加工・販売(直売所の設置・運営など)	21%	16%	13%	7%	12%
空き家や里山などの維持・管理	12%	8%	10%	6%	8%
その他	30%	28%	35%	24%	28%
	100%	100%	100%	100%	100%

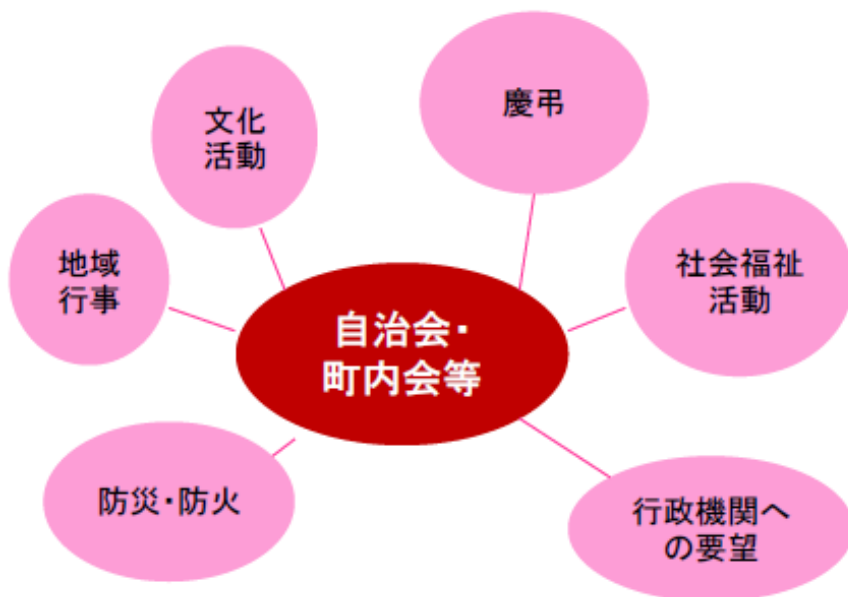
(11) 総務省（2014）第 1 回 都市部におけるコミュニティの発展方策に関する研究会「参考資料 1 自治会・町内会等について」

○自治会・町内会とは、地縁に基づいて形成される地域住民の組織である。地域社会に貢献するような、地域的な共同活動を行っている。

自治会・町内会とは、一定の区域に居住する者の地縁に基づいて形成された団体である。2015 年 4 月時点の団体数は全国で 298,700 である。良好な地域社会の維持及び形成のため、区域の住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の維持管理等、地域的な共同活動を行っている。

■自治会・町内会等の主たる活動範囲

【自治会・町内会等活動イメージ】



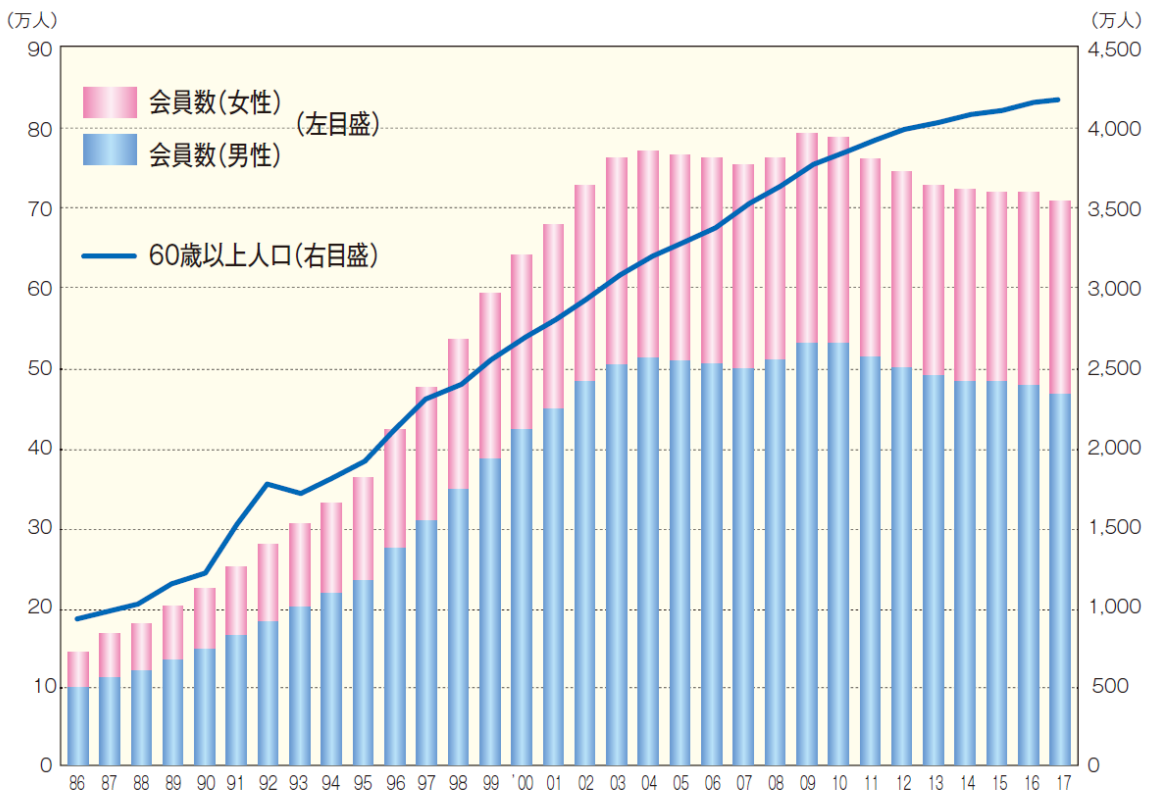
(12) 公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会（2018）シルバー人材センター事業の概要
2018

○社会の高齢化に対して、シルバー人材センターの会員数は漸減傾向であるものの、市町村あたりの設置率は8割を超えている。

シルバー人材センターの設置数は、2018年3月時点1,293団体で、市町村あたりの設置率は82%である。会員数は71.4万人で、60歳以上人口の約2%を占めている。会員の平均年齢は男性72.8歳、女性72.2歳、全体では72.6歳である。60歳以上人口の増加に対して、会員数は漸減傾向にある。

■社会の高齢化の傾向とシルバー人材センターの会員数の推移

高齢化と会員数の推移



(13) 公益財団法人全国老人クラブ連合会 (2016) 老人クラブの地域づくり 2016

○老人クラブは、訪問やサロン活動などの地域的な活動を行っている。

老人クラブは健康づくりや友愛活動を通して、介護予防や要支援高齢者の見守り、日常的な生活支援等、様々な活動に取り組んでいる。

■ 老人クラブの取り組む地域づくりの例

1 新地域支援事業
仲間

高齢者の孤立防止

安否確認や見守りの活動、サロン活動により孤立防止をはかり、仲間をつくることで豊かな高齢期の生活を送りましょう。

取り組み状況 (平成26年度老人クラブ実施調査)
安否確認・声かけ活動は66%、サロン活動は実施30%・協力27%

孤立と認知症を防ぐ仲間づくり
北九州市戸塚区
大谷第一地区老人クラブ連合会

“一人暮らし高齢者を孤立させない”ことをモットーに、様々な健康づくり活動をはじめ、週1回の友愛訪問、サロンによる仲間づくり、自治会や社協等と連携した地域づくりに取り組んでいます。これらの活動を通して、認知症にならない、させないことも目指しています。

黄色い旗の安否確認、買い物支援
鹿児島県 指宿町老人クラブ連合会

集落の理解を得て、高齢者が毎朝元気な印として黄色い旗を立てることを促しています。旗がなければ老人クラブ会長や区長等が駆けつけ、安否確認します。友愛訪問は一緒に家へ来るようにご迷惑を軽減。また、車を運転しない高齢者の負担を減らすため、買い物や通院には声をかけ、買い物車を新ましたり、車に同乗して共に行く活動をしています。

認知症になっても暮らせる地域のために
秋田県雄勝市 児玉町寿会

会員が認知症になつたことをきっかけに、認知症の方への訪問を地域、福祉や地域安全世帯を対象に広げて、認知症サポーター講座を受講した役員全員と会員有志12人が関係機関と連携して、クラブ使い配布や資源ごみ回収の際に声かけをしています。一人暮らしの方へは必ず手渡しすることで、安否確認、見守り、緊急事態の発生に努めています。

居場所づくり、支え合い活動、見守り体制
福井県福井市 福井地区老人クラブ連合会

地区内には老人クラブ、社協、ケアプラザ等の各団体が主催するサロンが複数あり、相互に連携しています。クラブ主催の友愛サロンでは参加者に「英会話(英語)」「花作り、福井市産(地産)品(漬物等)」「屋外作業(苗木の剪定等)」、その他(動物飼育)に対応しています。自治会等と団体の見守りネットワーク1体制も3年になり、進展しています。

社協「サロン」を自主運営
福井県福井市 今庄白寿会

会員アンケートの結果、集いの場の要望が多かったことから、平成25年度より社協の「おれいりサロン」を自主運営しています。(参加者に1人ずつおれいり協力員が所属、会費等補助金も全額を寄付致します。開催は月1回で、同じくより予防や健康増進のプログラムが中心です。会員だけでなく地域住民の防災把握や安否確認ができて、情報共有が図れるようになりました。

2 新地域支援事業
暮らし

高齢者の生活を支える

全国運動の一つ「友愛活動」では、前ページで紹介した孤立防止の取り組みに加えて、友愛訪問、高齢者の生活を支援する活動に取り組んできました。

取り組み状況 (平成26年度老人クラブ実施調査)
友愛訪問は61%、日常生活を支援する活動は35%

身近な友人を手伝う「シルバーヘルパー」
熊本県合志市
杉並台老人クラブ若寿会

県内では友愛活動員を「シルバーヘルパー」と呼び、平成元年から活動しています。クラブでは男性25人、女性13人がヘルパーになり、39人の月1～2回の訪問活動を通して「身近な友人が必要としていることを、ちょっとお手伝い」、話し相手を基に、家事や日常生活の援助を行っています。信頼関係により何でも相談できる関係になり、心持ちがよくなりました。

「お助けマン互助会」は、利用者・支援者共に会員主体
鳥取県出雲市 興宗高家会

中山間地域で高齢者の生活支援が課題になる中、クアマネージャーの声かけで互助会を立ち上げました。支援者34人、利用者100人余り、ほとんどが老人クラブ会員です。病院付添いや早取り等野外作業、障子張替え等屋内作業の他に、花壇やクリスマス等のイベントも実施しています。利用者・支援者共会費を払い、支援を受けたら料金を払います。価格が地域活性化につながります。

雪道おたすけ隊
山形県太白区 翠陽台白寿会

町内会に、13歳台まで手クラブを指定させて、除雪と除雪の活動に取り組むことになりました。老人クラブ会員が中心となり、町内会にも協力者と希望者を募って活動しています。区役所からは「自治会おたすけ隊第1号」に任命されました。

「近所福祉ネットワーク」で支え合う地域づくり
群馬県高崎市 中區むつみクラブ

地域包括支援センターの呼びかけで、老人クラブ、区役所、民生委員等ネットワークを組織。高齢者へのアンケートにより把握した困りごとを地域に伝えたところ、93%が「困っている人がいれら手伝う」と回答しました。それを受け、17分出し、買い物、話し相手、その他に「区」に区分して、ボランティアを募集、登録しました。遠慮なく頼める関係になることが課題です。

会員外の依頼も多い「ちよびつとお助け隊」
山形県中央市 桜ことぶきクラブ

高齢者同士協力し合うことが必要と、クラブ内に「ちよびつとお助け隊」を立ち上げました。65歳から2歳の職員12人で、募集、ごみ出し、次の健歩隊、初年度は33隊、今年度は7月までに30件対応しました。気兼ねなく依頼できるよ会員は30分100円、15分未満50円、会員外は200円、100円でした。会員外の依頼も多く、交流が広がっています。

2. 調査仮説の設定

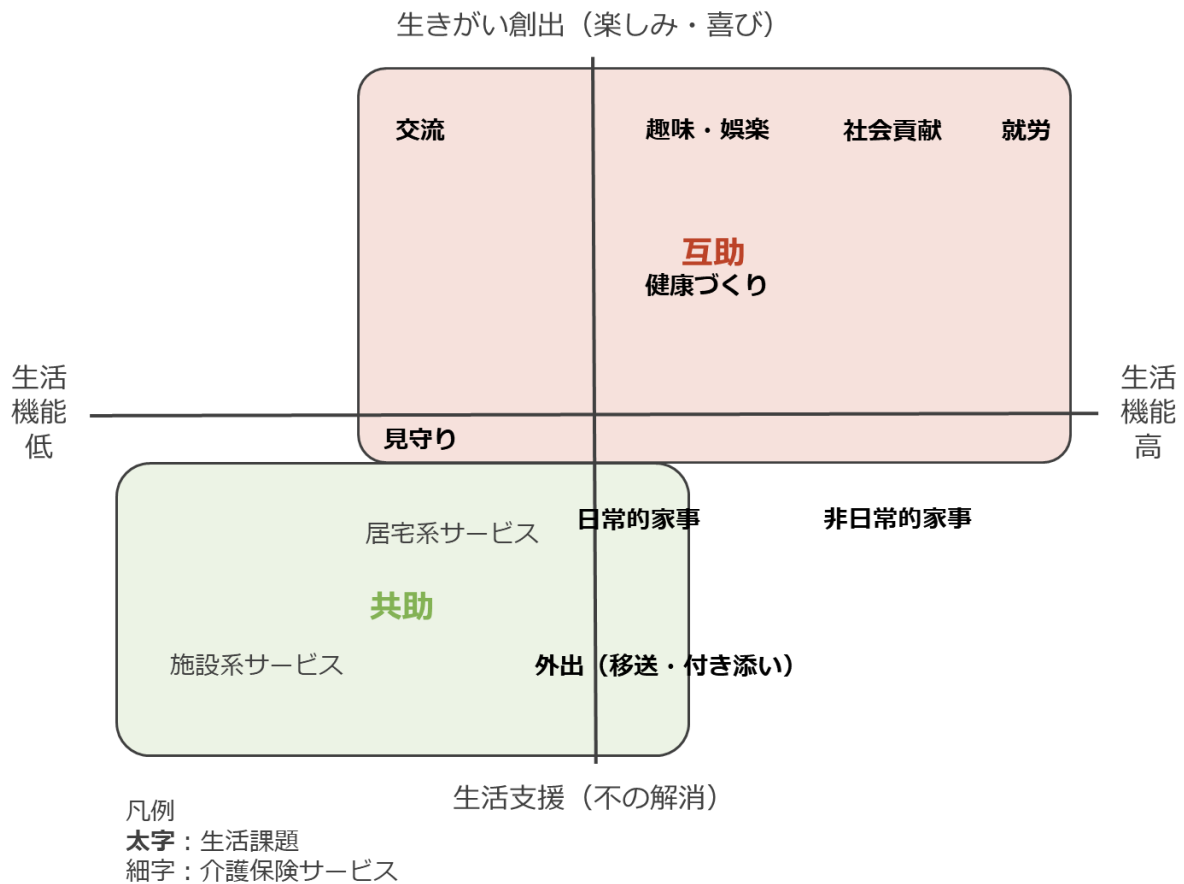
(1) 互助が得意とする領域に関する仮説

高齢者の生活課題は多様であるが、生活不安の解消を目的とした「生活支援」と、楽しみや喜びにつながる「生きがい創出」の2つに大別することができる。そして、身体状況に応じて高齢者本人の有する生活機能が変化していく中で、支援を必要とする生活課題もまた変化していくことになる。

一方で、高齢者を地域で支える方法は「自助」「互助」「共助」「公助」の4つで整理される。高齢者個々の多様かつ可変的な生活課題に対して、それぞれの「助」に得意とする支援領域があり、それらが多層的に組み合わさることで高齢者の生活課題の解決が図られているものと考えられる。

前述の考えをもとに高齢者の生活課題をマッピングし、互助・共助の得意とする領域を示したのが下図である。

■ 互助が得意とする領域（仮説）



(2) 調査の方向性

先に整理した「先行研究・統計情報の収集・整理」の結果をふまえ、調査の方向性と一人暮らし高齢者等の支援に係る仮説を以下の通り設定した。本仮説の検証を、後出の「全市区町村を対象としたアンケート調査」「市区町村老人クラブ連合会等を対象としたアンケート調査」「モデル地域を対象としたヒアリング調査」等を通して実施した。

調査の方向性：一人暮らし高齢者等は地域で暮らし続ける中で多くの生活課題を抱えている。高齢者の生活を支える上で、地域互助的役割を担う住民組織（以下、互助組織という。）が大きく寄与していると考えられるもの、全体像は把握できていない。そのため、；、本調査では、一人暮らし高齢者等の生活課題に係る互助組織の活動状況を3つの仮説を検証することで明らかにする。

仮説①：一人暮らし高齢者等を支える上での互助組織の役割は、地域によって特徴がある。サービス資源が豊富な地域においては、生活支援サービスを提供する主体と支援を必要とする人の「つなぎ」を、サービス資源が比較的不足している地域においては、民生委員等と協力しながら地縁による互助の維持・継続を求められている可能性がある。

仮説②：互助組織が直接的に生活支援の活動を行っていない場合でも、それ以外の活動を通して、個人個人が相互に助け合う関係性をつくり出している。

仮説③：互助組織の中でも老人クラブは、一人暮らし高齢者等が抱える生活課題のうち、特に「生きがい創出」に寄与する取組を中心に活動を行っており、この関係を基に自然なかたちでクラブ内の支え合いや、地域の活動へと発展している。

Ⅲ. 実態調査 1 (市区町村を対象としたアンケート調査)

1. 調査概要

(1) 調査方法

都道府県の高齢者支援主管課(室)を経由して、市区町村の高齢者支援主管課(室)に回答依頼を実施した。回答は WEB アンケートフォームに記入頂くかたちとし、WEB 回答が困難な場合にはメール添付で回答ファイルを返送頂いた。調査期間は、2019 年 10 月 15 日から 11 月 1 日である。

(2) 調査対象

全市区町村を対象とした(悉皆)。区としては、東京都の特別区のみを調査対象としている(行政区を有する政令指定都市においては市を調査対象とした)。

(3) 調査項目

以下の調査票を WEB アンケートフォームに移管し、調査を実施した。

令和元年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
一人暮らし高齢者等の生活課題と互助組織による支援に係る調査研究事業

市区町村ご担当者様用調査票

都道府県よりご案内いただきました通り、上記事業において全国の市区町村に対する WEB アンケート調査を実施させていただきます。つきましては、日々業務多忙の折、大変恐縮でございますが、期限までにご回答いただきますようお願い申し上げます。

【回答期限】11月1日(金)

【調査実施主体】株式会社 NTT データ経営研究所

東京都千代田区平河町 2-7-9

hitorigurashi2019@nttdata-strategy.com

(1) はじめに、ご回答者様の情報についてお答えください。

市区町村名	
部課名	
氏名	
連絡先 E メールアドレス	
連絡先電話番号	

(2) 貴市区町村における**町内会・自治会**の組織数について、平成 26 年度・平成 28 年度・令和元年度のそれぞれの数字をお答えください。認可地縁団体数につきましては、把握されている場合のみ記載をお願いします。

平成 26 年度 町内会・自治会数	
平成 28 年度 町内会・自治会数	
令和元年度 町内会・自治会数	
令和元年度町内会・自治会数のうち、認可地縁団体数	

(3) 貴市区町村における**NPO 法人**の組織数について、平成 26 年度・平成 28 年度・令和元年度のそれぞれの数字をお答えください。活動分野別の組織数につきましては、把握されている場合のみ記載をお願いします。

平成 26 年度 NPO 法人数	
平成 28 年度 NPO 法人数	
令和元年度 NPO 法人数	
令和元年度 NPO 法人数のうち、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」を活動分野に含む団体数	

(4) 貴市区町村における**老人クラブ**の組織数について、平成 26 年度・平成 28 年度・令和元年度のそれぞれの数字をお答えください。

平成 26 年度 老人クラブ数	
平成 28 年度 老人クラブ数	
令和元年度 老人クラブ数	

(5) 町内会・自治会、NPO 法人、老人クラブ以外で、貴市区町村において一人暮らし高齢者等の生活課題に対応している住民組織がございましたら、ご教示頂けますと幸いです。

--

(6) 貴市区町村では、一人暮らし高齢者等の支援をどのような主体が担っていますか。支援内容1～9(横軸)の担い手について、ご認識されている範囲でお答え頂けると幸いです。各主体について、1団体でも担い手となっている団体を把握されていれば以下表に○を記入ください。

	1. 就労支援	2. ボランティア活動(有償も含む)の提供	3. 趣味・娯楽活動の提供	4. 地域交流活動の提供	5. 健康づくり・介護予防の場/機会の提供	6. 日常的家事(掃除、洗濯、ごみ捨て、食事支援調理、配食、買い物)の支援	7. 非日常的家事(大掃除、庭の手入れ、住居の修繕、日用品以外の買い物等)の支援	8. 外出(移送・付き添い)の支援	9. 見守り
自治会 町内会・									
団体 NPO									
クラブ 老人									
委員 民生									
センター 地域包括支援									
デイネーター 生活支援コー									

	1. 就労支援	2. ボランティア活動（有償も含む）の提供	3. 趣味・娯楽活動の機会の提供	4. 地域交流活動の機会の提供	5. 健康づくり・介護予防の場／機会の提供	6. 日常的家事（掃除、洗濯、ごみ捨て、食事支援調理、配食、買い物）の支援	7. 非日常的家事（大掃除、庭の手入れ、住居の修繕、日用品以外の買い物等）の支援	8. 外出（移送・付き添い）の支援	9. 見守り
協議会	社会福祉								
法人	社会福祉								
法人	医療								
組合	協同								
人材セン	シルバー								
団法人※	社団・財								
企業	民間								
体	自治								
他	その								

※シルバー人材センター以外

(7) 貴市区町村の一人暮らし高齢者等を対象とした生活支援の取組の充足度について、貴市区町村としては現在どのように認識していますか。当てはまるものを一つ選択し、左の列に○を記入してください。

	充足している
	ある程度充足している
	やや不足している
	不足している

(8) この設問は(7)で「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した方のみお答えください。貴市区町村において、特に充足が必要と認識している支援内容をお答えください。以下の支援内容の中から最大三つ選択し、左の列に○を記入してください。

	就労支援
	ボランティア活動（有償も含む）の機会の提供
	趣味・娯楽活動の機会の提供
	地域交流の機会の提供
	健康づくり・介護予防の場/機会の提供
	日常的家事（掃除、洗濯、ごみ捨て、食事支援（調理、配食）、買い物）の支援
	非日常的家事（大掃除、庭の手入れ、住居の修繕、日用品以外の買い物等）の支援
	外出（移送・付き添い）の支援
	見守り
	その他 →具体的にお答えください（ ）

(9) この設問は(7)で「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した方のみお答えください。(8)で選択した特に充足が必要と認識している支援内容について、その充足にあたって貴市区町村が支援の担い手として期待している主体に○を記入ください。

	1. 就労支援	2. ボランティア活動(有償も含む)の提供	3. 趣味・娯楽活動の機会の提供	4. 地域交流活動の機会の提供	5. 健康づくり・介護予防の場/機会の提供	6. 日常的家事(掃除、洗濯、ごみ捨て、食事支援/調理、配食、買い物)の支援	7. 非日常的家事(大掃除、庭の手入れ、住居の修繕、日用品以外の買い物等)の支援	8. 外出(移送・付き添い)の支援	9. 見守り	10. その他
自治会 町内会・										
団体 NPO										
クラブ 老人										
委員 民生										
支援センター 地域包括支										
デイネーター 生活支援コー										

	1. 就労支援	2. ボランティア活動（有償も含む）の提供	3. 趣味・娯楽活動の機会の提供	4. 地域交流活動の機会の提供	5. 健康づくり・介護予防の場／機会の提供	6. 日常的家事（掃除、洗濯、ごみ捨て、食事支援、調理、配食、買い物）の支援	7. 非日常的家事（大掃除、庭の手入れ、住居の修繕、日用品以外の買い物等）の支援	8. 外出（移送・付き添い）の支援	9. 見守り	10. その他
協議会	社会福祉									
法人	社会福祉									
法人	医療									
組合	協同									
人材セン	シルバー									
団法人※	社団・財									
企業	民間									
体	自治									
他	その									

※シルバー人材センター以外

(10) 一人暮らし高齢者等の生活支援に関して、貴市区町村で特に課題となっていること等がありましたら、自由にご記入ください。

--

(11) 最後に、貴市区町村で老人クラブの運営支援を担う担当部署と連絡先をお答えください。本調査研究事業では、別途、一部の市区町村を対象にして市区町村老人クラブ連合会および単位老人クラブ向けのアンケート調査を実施しており、その回答内容等で確認の必要性が生じた場合にご連絡を差し上げる可能性がございます。

担当部課名	
担当部課連絡先 (Eメールアドレス)	
担当部課連絡先 (電話番号)	

以上でアンケート調査は終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。

2. 調査結果

調査結果から得られた示唆を以下に整理する。

① 生活支援の担い手は得意とする活動領域が異なる

- ・生活支援の種類を問わず、社会福祉協議会が担い手として挙げられる傾向がある。
- ・これらに加え、ボランティア活動の機会の提供、趣味・娯楽活動の機会の提供、地域交流活動の機会の提供、健康づくり・介護予防の場／機会の提供は老人クラブや町内会・自治会及び地域包括支援センター、就労支援や日常的・非日常的家事はシルバー人材センター、外出支援は NPO 団体、見守りは民生委員が担い手として挙げられる傾向がある。

② 現状の生活支援の担い手は人口規模の小さい市区町村ほど回答が限定的になる一方、人口規模の大きい市区町村ほど複数の担い手を回答する傾向がある

- ・生活支援の担い手としては、社会福祉協議会や市区町村等が挙げられる傾向がある。
- ・特に、人口規模の小さい市区町村ほど社会福祉協議会や市区町村を担い手として挙げる傾向がある。人口規模の大きい市区町村ほどそれらに加え、NPO 団体や老人クラブ等、複数の担い手を回答する傾向がある。

③ 今後期待する生活支援の担い手は人口規模の小さい市区町村ほど回答が限定的になる一方、人口規模の大きい市区町村ほど複数の担い手を回答する傾向がある

- ・生活支援の担い手として期待される担い手としては、町内会・自治会や社会福祉協議会が挙げられる傾向がある。
- ・特に、人口規模の小さい市区町村ほど社会福祉協議会や町内会・自治会等を期待する担い手として挙げる傾向がある。人口規模の大きい市区町村ほどそれらに加え、NPO 団体や社会福祉法人、協同組合や民間企業等、複数の期待する担い手を回答する傾向がある。

④ 新しい役割が期待されている担い手は人口規模の小さい市区町村ほど回答が限定的になる一方、人口規模の大きい市区町村ほど複数の担い手に新しい役割を期待していることがわかる

- ・町内会・自治会や社会福祉協議会には、現在担っている生活支援に加え、新たな領域の生活支援の担い手として期待されていることがわかる。
- ・特に、人口規模の小さい市区町村ほど町内会・自治会や民間企業等に新しい役割を期待していることがわかる。人口規模の大きい市区町村ほどそれらに加え、NPO 団体や社会福祉法人、協同組合等、複数の担い手に新しい役割を期待していることがわかる。

⑤ 過半数の市区町村が一人暮らし高齢者等の生活支援について不足していると感じている

- ・一人暮らし高齢者等を対象とした生活支援について、『充足している（「充足している」と「ある程度充足している」）』と回答した市区町村が 41.1%であるのに対し、『不足している（「不足している」と「やや不足している」）』と回答した市区町村は 58.5%とやや上回る。
- ・人口規模別・総面積当たり人口密度別にみると、人口規模が大きく、人口密度の高い市区町村の方が『充足している』、人口規模が小さく、人口密度の低い市区町村の方が『不足している』と回答する傾向がある。

⑥ 充足が必要と感じている生活支援は外出支援、日常的・非日常的家事である

- ・特に充足が必要な生活支援としては、外出支援が 74.1%で最も高く、次いで日常的家事で 52.9%、非日常的家事で 32.9%である。
- ・それらに加え、人口規模の大きい市区町村は地域交流活動の機会の提供、人口密度の高い市区町村は見守りを挙げる傾向がある。

⑦ 自由記述での課題として最も挙げられる傾向のある生活支援は外出支援である

- ・自由記述での回答をみると、外出支援に関する課題が最も多く挙げられており、次いで、日常的家事や見守り、地域交流活動の機会の提供に関する課題が多い傾向がある。特に、人口規模の小さい市区町村または人口密度の低い市区町村は外出支援、人口密度の高い市区町村は見守りを課題として挙げる傾向がある。

(1) アンケート調査票の回収結果

全国 1747 市区町村のうち、970 市区町村（55.5%）からの回答が得られた。以下の通り、人口規模別・総面積当たり人口密度別の分類を行い、分析を行った。

対象市区町村数			1747
回収数（回収率）			970（55.5%）
人口規模	1	1万人未満	227
	2	1万人以上 5万人未満	388
	3	5万人以上 20万人未満	271
	4	20万人以上	84
総面積 あたり	1	200人/㎢未満	427
	2	200人/㎢以上 2000人/㎢未満	403
人口密度	3	2000人/㎢以上	140

(2) 2014 年を 100 とした時の 2019 年の各住民組織の数

- 2014 年を 100 とした時の 2019 年の組織数は、町内会・自治会は微減、NPO 法人は微増、老人クラブは減少の傾向があった。
- 人口規模別でみると、町内会・自治会数は人口 1 万人以上の市区町村で概ね維持、NPO 法人数は人口規模 1 万を境に増加、老人クラブ数は全体として減少しているが人口 1 万人未満の市区町村で比較的減少幅が少ない傾向があった。
- 総面積当たり人口密度別でみると、町内会・自治会数は人口密度が高い市区町村で維持、NPO 法人数は人口密度 200 人/km²を境に増加、老人クラブ数は全体として減少しているが人口密度が高い市区町村で比較的減少幅が少ない傾向があった。

n=970	全体	人口規模				総面積あたり人口密度		
		1	2	3	4	1	2	3
n	970	227	388	271	84	427	403	140
町内会・自治会	99.6	98.7	100.1	99.8	99.4	99.3	99.8	100.0
NPO 法人	101.5	82.0	105.4	115.5	106.0	95.3	106.3	110.6
老人クラブ	90.1	94.0	89.2	88.5	89.5	89.9	89.3	93.2

人口規模		総面積あたり人口密度	
1	1万人未満	1	200人/km ² 未満
2	1万人以上5万人未満	2	200人/km ² 以上2000人/km ² 未満
3	5万人以上20万人未満	3	2000人/km ² 以上
4	20万人以上		

(3) 町内会・自治会、NPO 法人、老人クラブ以外で生活課題に対応している住民組織（抜粋）

- 生活課題に対応しているその他の住民組織は、街づくり協議会や地区福祉委員会等の会議体と、有償ボランティアやファミリーサポートセンター等の実施主体に大別される傾向にあった。

住民組織
まちづくり協議会
地区福祉委員会
第 2 層生活支援協議体
マンション管理組合
有償ボランティア
ファミリーサポートセンター
傾聴ボランティア
婦人会

(4) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（全市区町村を対象、複数回答）

○生活支援の種類を問わず、社会福祉協議会が担い手として挙げられる傾向があった。

○これらに加え、ボランティア活動の機会の提供、趣味・娯楽活動の機会の提供、地域交流活動の機会の提供、健康づくり・介護予防の場／機会の提供は老人クラブや町内会・自治会及び地域包括支援センター、就労支援や日常的・非日常的家事はシルバー人材センター、外出支援は NPO 団体、見守りは民生委員が担い手として挙げられる傾向があった。

n=970	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	0.6	11.0	0.4	1.8	3.6	3.4	23.7	6.2	0.6	1.4	62.7	3.2	6.9	27.7	19.8
ボランティア活動の機会の提供	20.2	22.2	33.2	9.6	17.7	30.0	80.8	18.6	4.3	4.6	17.0	2.1	3.9	28.8	11.5
趣味・娯楽活動の機会の提供	41.3	20.2	79.3	8.0	15.1	19.3	47.7	10.6	2.6	5.5	7.6	2.7	5.2	37.0	11.0
地域交流活動の機会の提供	70.5	28.2	74.3	25.8	42.3	45.5	72.1	29.6	8.9	9.0	7.0	3.5	7.1	48.9	8.5
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	39.7	24.9	57.6	13.9	79.8	34.1	54.6	27.6	21.8	7.1	7.0	3.7	10.9	69.2	9.0
日常的家事	14.5	22.5	5.8	7.4	11.6	11.5	55.4	23.3	3.4	15.7	42.4	2.1	23.8	25.5	14.9
非日常的家事	9.8	13.9	3.2	3.3	6.0	6.5	27.3	6.9	0.6	5.1	61.8	2.4	18.6	10.5	20.6
外出の支援	10.8	25.4	2.9	5.6	8.4	7.0	47.0	21.0	5.2	4.6	11.6	1.6	18.2	23.8	21.9
見守り	60.3	14.3	43.8	91.0	64.6	21.8	58.8	19.7	7.7	17.2	10.7	4.2	32.8	49.2	7.0

	一番目に回答率が高い担い手
	二番目に回答率が高い担い手
	三番目に回答率が高い担い手

※担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(4-1-1) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（人口規模別、全市区町村を対象、複数回答）

○人口規模別では、人口規模の小さい市区町村ほど社会福祉協議会や市区町村を生活支援の担い手として挙げる傾向がある一方、人口規模の大きい市区町村ほどそれらに加え、NPO 団体や老人クラブ等、複数の担い手を回答する傾向があった。

人口規模	n	n=970	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
1	227	就労支援	0.9	7.9	0.4	2.6	3.5	2.6	23.3	4.0	0.4	1.3	39.6	2.2	4.8	22.5	32.6
		ボランティア活動の機会の提供	10.6	8.8	22.0	7.5	15.4	22.0	77.5	10.6	1.3	0.4	12.8	0.9	3.5	19.4	14.1
		趣味・娯楽活動の機会の提供	28.6	8.4	66.1	4.0	17.2	18.9	48.9	4.4	0.9	1.8	1.3	1.3	2.2	32.6	14.5
		地域交流活動の機会の提供	59.0	14.1	65.6	12.8	40.1	39.2	72.7	16.3	3.1	1.8	1.3	0.9	3.1	43.2	9.7
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	22.0	11.5	36.1	4.8	86.3	28.6	54.2	16.3	10.6	1.8	1.8	1.3	2.2	62.1	7.9
		日常的家事	5.3	9.3	2.2	5.3	11.0	9.3	58.6	22.0	1.8	4.8	18.9	2.2	15.0	17.6	18.9
		非日常的家事	2.6	6.2	1.3	3.5	5.7	6.6	30.4	5.3	0.4	0.9	46.3	2.2	11.9	7.9	26.0
		外出の支援	5.3	11.5	1.3	4.4	9.3	3.5	54.2	14.1	2.6	1.3	7.5	1.3	9.3	25.1	23.3
		見守り	52.9	7.5	31.7	85.9	56.4	24.7	65.2	12.3	7.0	12.3	6.2	1.8	23.3	44.5	6.6
		2	388	就労支援	0.3	8.8	0.0	1.5	2.8	2.6	26.0	7.0	0.5	1.3	64.4	3.4	5.7
ボランティア活動の機会の提供	15.7			18.8	29.4	9.0	18.3	29.6	80.9	18.3	3.1	3.4	14.2	1.0	2.6	25.0	10.6
趣味・娯楽活動の機会の提供	39.2			17.3	79.6	8.5	13.1	16.0	45.1	9.3	0.8	5.7	5.9	2.1	3.6	34.8	8.8
地域交流活動の機会の提供	69.6			26.0	72.4	27.1	38.7	44.8	69.1	26.8	5.2	8.2	5.4	3.1	4.6	47.2	7.0
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	39.2			21.9	59.0	14.4	77.3	35.6	54.1	28.4	19.3	5.7	4.9	1.5	6.7	67.8	7.0
日常的家事	11.9			13.9	3.9	8.2	15.2	11.3	54.1	19.8	2.8	14.7	40.7	1.0	21.1	21.6	13.7
非日常的家事	8.5			8.5	2.1	3.1	5.9	5.4	24.5	5.4	0.0	5.2	62.6	2.6	12.9	8.5	19.6
外出の支援	7.7			20.1	2.1	6.7	7.2	6.7	43.8	19.8	5.2	3.6	8.2	1.0	17.0	21.1	22.4
見守り	59.8			12.4	41.2	92.3	63.1	23.2	58.0	22.7	7.2	19.1	8.8	4.4	30.7	46.6	6.2
3	271			就労支援	0.7	15.1	1.1	1.8	5.2	5.2	21.8	7.0	0.7	2.2	76.8	3.3	7.4
		ボランティア活動の機会の提供	30.6	29.5	40.2	10.3	15.5	34.3	83.8	23.6	7.0	7.0	21.0	4.4	5.2	38.4	8.5
		趣味・娯楽活動の機会の提供	49.4	29.5	86.3	8.5	15.1	21.8	52.8	16.2	5.9	6.6	11.4	4.1	8.1	43.2	9.6
		地域交流活動の機会の提供	79.0	37.3	81.2	31.0	45.0	50.2	74.9	41.3	15.5	12.9	11.4	5.2	11.4	55.7	6.6
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	51.3	33.2	68.3	18.1	77.9	35.8	56.5	33.2	31.7	9.2	12.5	7.0	19.2	76.4	8.5
		日常的家事	23.2	39.5	6.6	7.0	8.1	12.5	54.6	27.7	5.2	23.2	57.2	3.7	33.9	33.9	12.9
		非日常的家事	14.8	22.9	3.3	3.3	7.0	7.4	26.9	10.0	1.8	7.7	69.4	2.6	29.5	13.7	16.2
		外出の支援	17.0	38.4	2.6	4.4	10.0	8.9	44.6	27.7	6.6	7.7	17.3	2.6	26.9	25.8	19.9
		見守り	67.5	17.7	51.3	93.4	73.4	18.8	56.8	21.0	8.9	19.2	15.5	4.8	41.0	56.5	5.9
		4	84	就労支援	1.2	16.7	0.0	0.0	2.4	3.6	20.2	6.0	1.2	0.0	71.4	4.8	16.7
ボランティア活動の機会の提供	33.3			50.0	58.3	15.5	28.6	39.3	79.8	25.0	9.5	14.3	28.6	2.4	7.1	40.5	19.0
趣味・娯楽活動の機会の提供	59.5			35.7	90.5	15.5	17.9	27.4	40.5	15.5	4.8	10.7	20.2	4.8	10.7	39.3	16.7
地域交流活動の機会の提供	78.6			47.6	84.5	38.1	56.0	50.0	75.0	40.5	20.2	19.0	15.5	7.1	15.5	50.0	17.9
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	52.4			48.8	75.0	22.6	79.8	36.9	52.4	36.9	31.0	21.4	13.1	9.5	27.4	71.4	22.6
日常的家事	23.8			42.9	21.4	10.7	8.3	15.5	54.8	28.6	4.8	25.0	65.5	1.2	27.4	36.9	16.7
非日常的家事	19.0			31.0	13.1	3.6	3.6	8.3	33.3	8.3	0.0	7.1	75.0	1.2	27.4	16.7	25.0
外出の支援	20.2			45.2	11.9	7.1	6.0	11.9	50.0	23.8	7.1	8.3	20.2	2.4	20.2	26.2	21.4
見守り	59.5			31.0	64.3	91.7	65.5	16.7	51.2	21.4	8.3	15.5	16.7	8.3	41.7	50.0	15.5

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

人口規模	
1	1万人未満
2	1万人以上5万人未満
3	5万人以上20万人未満
4	20万人以上

※担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(4-1-2) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（人口規模別・生活支援ごと、全市区町村を対象、複数回答）

○就労支援ではシルバー人材センターが第一の担い手となっているが、人口規模が小さい市区町村ではその割合が小さくなる傾向がみられた。

○趣味・娯楽活動の機会の提供では、老人クラブが第一の担い手となっているが、人口規模が小さい市区町村ではその割合が小さくなる傾向がみられた。

○日常的家事では、人口規模が小さい市区町村では社会福祉協議会が第一の担い手となっている一方で、人口規模が大きい市区町村ではシルバー人材センターが第一の担い手となっている傾向がみられた。

○外出の支援では、社会福祉協議会が第一の担い手となっているが、人口規模が大きい市区町村ではNPOが二番目の担い手となっているのに対し、人口規模が小さい市区町村ではNPOが担い手とはなっていない傾向がみられた。

n=970	人口規模	n	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	1	227	0.9	7.9	0.4	2.6	3.5	2.6	23.3	4.0	0.4	1.3	39.6	2.2	4.8	22.5	32.6
	2	388	0.3	8.8	0.0	1.5	2.8	2.6	26.0	7.0	0.5	1.3	64.4	3.4	5.7	23.2	19.1
	3	271	0.7	15.1	1.1	1.8	5.2	5.2	21.8	7.0	0.7	2.2	76.8	3.3	7.4	34.7	11.8
	4	84	1.2	16.7	0.0	0.0	2.4	3.6	20.2	6.0	1.2	0.0	71.4	4.8	16.7	40.5	14.3
ボランティア活動の機会の提供	1	227	10.6	8.8	22.0	7.5	15.4	22.0	77.5	10.6	1.3	0.4	12.8	0.9	3.5	19.4	14.1
	2	388	15.7	18.8	29.4	9.0	18.3	29.6	80.9	18.3	3.1	3.4	14.2	1.0	2.6	25.0	10.6
	3	271	30.6	29.5	40.2	10.3	15.5	34.3	83.8	23.6	7.0	7.0	21.0	4.4	5.2	38.4	8.5
	4	84	33.3	50.0	58.3	15.5	28.6	39.3	79.8	25.0	9.5	14.3	28.6	2.4	7.1	40.5	19.0
趣味・娯楽活動の機会の提供	1	227	28.6	8.4	66.1	4.0	17.2	18.9	48.9	4.4	0.9	1.8	1.3	1.3	2.2	32.6	14.5
	2	388	39.2	17.3	79.6	8.5	13.1	16.0	45.1	9.3	0.8	5.7	5.9	2.1	3.6	34.8	8.8
	3	271	49.4	29.5	86.3	8.5	15.1	21.8	52.8	16.2	5.9	6.6	11.4	4.1	8.1	43.2	9.6
	4	84	59.5	35.7	90.5	15.5	17.9	27.4	40.5	15.5	4.8	10.7	20.2	4.8	10.7	39.3	16.7
地域交流活動の機会の提供	1	227	59.0	14.1	65.6	12.8	40.1	39.2	72.7	16.3	3.1	1.8	1.3	0.9	3.1	43.2	9.7
	2	388	69.6	26.0	72.4	27.1	38.7	44.8	69.1	26.8	5.2	8.2	5.4	3.1	4.6	47.2	7.0
	3	271	79.0	37.3	81.2	31.0	45.0	50.2	74.9	41.3	15.5	12.9	11.4	5.2	11.4	55.7	6.6
	4	84	78.6	47.6	84.5	38.1	56.0	50.0	75.0	40.5	20.2	19.0	15.5	7.1	15.5	50.0	17.9
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	1	227	22.0	11.5	36.1	4.8	86.3	28.6	54.2	16.3	10.6	1.8	1.8	1.3	2.2	62.1	7.9
	2	388	39.2	21.9	59.0	14.4	77.3	35.6	54.1	28.4	19.3	5.7	4.9	1.5	6.7	67.8	7.0
	3	271	51.3	33.2	68.3	18.1	77.9	35.8	56.5	33.2	31.7	9.2	12.5	7.0	19.2	76.4	8.5
	4	84	52.4	48.8	75.0	22.6	79.8	36.9	52.4	36.9	31.0	21.4	13.1	9.5	27.4	71.4	22.6
日常的家事	1	227	5.3	9.3	2.2	5.3	11.0	9.3	58.6	22.0	1.8	4.8	18.9	2.2	15.0	17.6	18.9
	2	388	11.9	13.9	3.9	8.2	15.2	11.3	54.1	19.8	2.8	14.7	40.7	1.0	21.1	21.6	13.7
	3	271	23.2	39.5	6.6	7.0	8.1	12.5	54.6	27.7	5.2	23.2	57.2	3.7	33.9	33.9	12.9
	4	84	23.8	42.9	21.4	10.7	8.3	15.5	54.8	28.6	4.8	25.0	65.5	1.2	27.4	36.9	16.7
非日常的家事	1	227	2.6	6.2	1.3	3.5	5.7	6.6	30.4	5.3	0.4	0.9	46.3	2.2	11.9	7.9	26.0
	2	388	8.5	8.5	2.1	3.1	5.9	5.4	24.5	5.4	0.0	5.2	62.6	2.6	12.9	8.5	19.6
	3	271	14.8	22.9	3.3	3.3	7.0	7.4	26.9	10.0	1.8	7.7	69.4	2.6	29.5	13.7	16.2
	4	84	19.0	31.0	13.1	3.6	3.6	8.3	33.3	8.3	0.0	7.1	75.0	1.2	27.4	16.7	25.0
外出の支援	1	227	5.3	11.5	1.3	4.4	9.3	3.5	54.2	14.1	2.6	1.3	7.5	1.3	9.3	25.1	23.3
	2	388	7.7	20.1	2.1	6.7	7.2	6.7	43.8	19.8	5.2	3.6	8.2	1.0	17.0	21.1	22.4
	3	271	17.0	38.4	2.6	4.4	10.0	8.9	44.6	27.7	6.6	7.7	17.3	2.6	26.9	25.8	19.9
	4	84	20.2	45.2	11.9	7.1	6.0	11.9	50.0	23.8	7.1	8.3	20.2	2.4	20.2	26.2	21.4
見守り	1	227	52.9	7.5	31.7	85.9	56.4	24.7	65.2	12.3	7.0	12.3	6.2	1.8	23.3	44.5	6.6
	2	388	59.8	12.4	41.2	92.3	63.1	23.2	58.0	22.7	7.2	19.1	8.8	4.4	30.7	46.6	6.2
	3	271	67.5	17.7	51.3	93.4	73.4	18.8	56.8	21.0	8.9	19.2	15.5	4.8	41.0	56.5	5.9
	4	84	59.5	31.0	64.3	91.7	65.5	16.7	51.2	21.4	8.3	15.5	16.7	8.3	41.7	50.0	15.5

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

人口規模			
1	1万人未満	3	5万人以上20万人未満
2	1万人以上5万人未満	4	20万人以上

※担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(4-2-1) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（総面積当たり人口密度別、全市区町村を対象、複数回答）

○総面積当たり人口密度別にみた場合でも、人口規模別にみた時と同様の傾向がみられた。

人口密度	n	n=970	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
1	427	就労支援	0.7	9.6	0.2	2.1	3.3	3.3	25.3	5.9	0.5	1.6	52.2	1.9	4.7	23.4	24.8
		ボランティア活動の機会の提供	15.0	13.3	27.9	8.2	17.3	26.5	78.9	15.5	3.0	1.6	15.9	1.4	4.0	24.6	11.7
		趣味・娯楽活動の機会の提供	33.7	14.3	73.3	7.3	14.8	18.7	48.9	9.6	1.4	3.7	3.7	2.1	3.5	34.9	11.9
		地域交流活動の機会の提供	67.2	21.3	68.4	18.3	38.4	41.0	71.9	25.3	6.1	5.2	2.1	3.3	4.4	46.1	8.2
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	33.5	19.4	49.4	11.9	83.8	33.5	55.7	24.8	16.2	4.4	3.0	2.6	5.9	66.7	9.1
		日常的家事	8.9	14.3	3.7	7.7	14.3	11.9	56.9	24.6	4.2	13.8	32.8	2.1	22.0	23.4	15.5
		非日常的家事	5.6	8.4	1.6	3.0	7.5	7.7	27.4	5.2	0.2	2.8	57.6	2.3	14.1	10.5	21.3
		外出の支援	8.7	19.4	1.6	6.6	8.9	7.3	51.1	18.0	4.7	2.8	10.5	1.2	17.1	28.3	20.8
		見守り	60.7	11.9	37.9	88.3	58.8	23.4	63.9	21.1	7.7	15.9	9.8	2.6	30.4	46.4	6.6
		2	403	就労支援	0.2	10.9	0.5	1.5	3.7	2.7	24.6	6.9	1.0	1.5	68.7	4.2	7.9
ボランティア活動の機会の提供	22.1			26.8	34.2	10.4	16.4	29.8	81.6	20.3	5.0	6.9	15.6	2.7	3.5	30.0	11.9
趣味・娯楽活動の機会の提供	44.2			20.8	82.4	7.7	15.1	17.9	45.2	10.4	2.5	6.2	8.4	3.2	4.7	37.7	10.4
地域交流活動の機会の提供	71.2			31.0	78.7	30.5	43.9	46.7	72.5	32.8	10.7	11.4	8.7	4.2	7.2	50.1	8.2
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	42.7			26.6	62.0	14.6	76.7	33.7	54.8	29.0	24.1	8.7	6.9	4.2	11.9	71.2	7.7
日常的家事	16.6			25.1	5.2	8.2	10.2	10.7	54.1	22.8	1.7	16.4	46.2	2.0	22.6	26.3	16.4
非日常的家事	11.7			15.1	3.0	4.0	4.2	5.2	25.6	8.2	0.5	6.9	63.0	2.5	20.6	9.2	21.6
外出の支援	12.4			29.0	2.2	5.5	7.2	7.2	42.2	24.1	5.2	6.0	8.4	2.0	18.4	19.6	24.6
見守り	59.3			14.1	45.4	93.5	67.5	21.6	53.3	17.9	8.2	18.9	9.7	5.7	33.7	50.1	7.9
3	140			就労支援	1.4	15.7	0.7	1.4	4.3	5.7	16.4	5.0	0.0	0.7	77.1	4.3	10.7
		ボランティア活動の機会の提供	30.7	35.7	46.4	11.4	22.9	41.4	84.3	22.9	6.4	7.1	24.3	2.1	5.0	37.9	10.0
		趣味・娯楽活動の機会の提供	56.4	36.4	88.6	11.4	15.7	25.0	51.4	14.3	6.4	8.6	17.1	2.9	11.4	41.4	10.0
		地域交流活動の機会の提供	78.6	41.4	80.0	35.0	49.3	55.7	71.4	33.6	12.1	13.6	17.1	2.1	15.0	53.6	10.0
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	50.0	37.1	70.0	17.9	76.4	37.1	50.7	32.1	32.1	10.7	19.3	5.7	23.6	70.7	12.1
		日常的家事	25.7	40.0	13.6	4.3	7.9	12.9	54.3	20.7	5.7	19.3	60.7	2.1	32.9	29.3	9.3
		非日常的家事	17.1	27.1	8.6	2.1	6.4	6.4	32.1	8.6	2.1	6.4	70.7	2.1	26.4	14.3	15.7
		外出の支援	12.9	32.9	8.6	2.9	10.0	5.7	48.6	21.4	6.4	6.4	24.3	2.1	21.4	22.1	17.1
		見守り	62.1	22.1	57.1	92.1	74.3	17.1	58.6	20.7	6.4	16.4	16.4	5.0	37.1	55.0	5.7

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

総面積当たり人口密度			
1	200人/km未満	3	2000人/km以上
2	200人/km以上2000人/km未満		

※担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(4-2-2) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（総面積当たり人口密度別・生活支援ごと、全市区町村を対象、複数回答）

○総面積当たり人口密度別にみた場合でも、人口規模別にみた時と概ね同様の傾向がみられた。

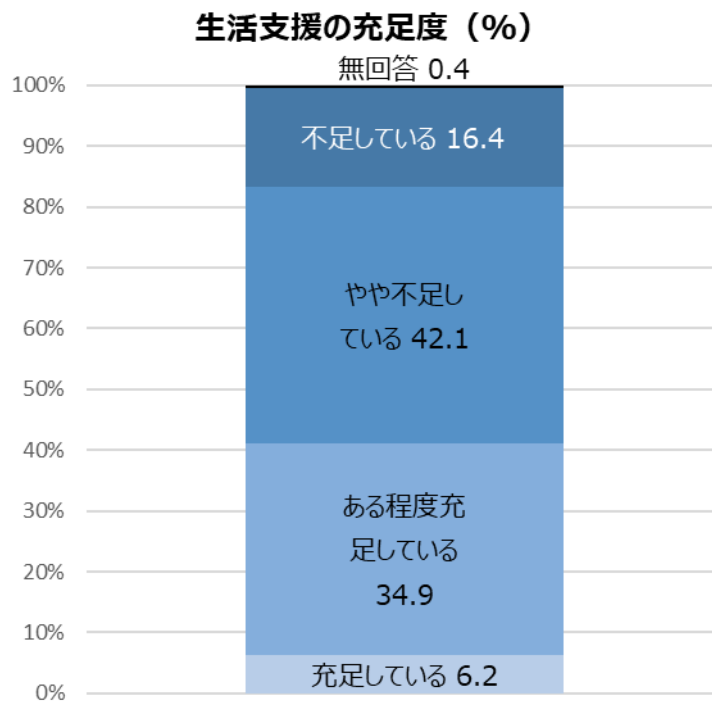
n=970	人口密度	n	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	1	427	0.7	9.6	0.2	2.1	3.3	3.3	25.3	5.9	0.5	1.6	52.2	1.9	4.7	23.4	24.8
	2	403	0.2	10.9	0.5	1.5	3.7	2.7	24.6	6.9	1.0	1.5	68.7	4.2	7.9	28.5	17.6
	3	140	1.4	15.7	0.7	1.4	4.3	5.7	16.4	5.0	0.0	0.7	77.1	4.3	10.7	38.6	10.7
ボランティア活動の機会の提供	1	427	15.0	13.3	27.9	8.2	17.3	26.5	78.9	15.5	3.0	1.6	15.9	1.4	4.0	24.6	11.7
	2	403	22.1	26.8	34.2	10.4	16.4	29.8	81.6	20.3	5.0	6.9	15.6	2.7	3.5	30.0	11.9
	3	140	30.7	35.7	46.4	11.4	22.9	41.4	84.3	22.9	6.4	7.1	24.3	2.1	5.0	37.9	10.0
趣味・娯楽活動の機会の提供	1	427	33.7	14.3	73.3	7.3	14.8	18.7	48.9	9.6	1.4	3.7	3.7	2.1	3.5	34.9	11.9
	2	403	44.2	20.8	82.4	7.7	15.1	17.9	45.2	10.4	2.5	6.2	8.4	3.2	4.7	37.7	10.4
	3	140	56.4	36.4	88.6	11.4	15.7	25.0	51.4	14.3	6.4	8.6	17.1	2.9	11.4	41.4	10.0
地域交流活動の機会の提供	1	427	67.2	21.3	68.4	18.3	38.4	41.0	71.9	25.3	6.1	5.2	2.1	3.3	4.4	46.1	8.2
	2	403	71.2	31.0	78.7	30.5	43.9	46.7	72.5	32.8	10.7	11.4	8.7	4.2	7.2	50.1	8.2
	3	140	78.6	41.4	80.0	35.0	49.3	55.7	71.4	33.6	12.1	13.6	17.1	2.1	15.0	53.6	10.0
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	1	427	33.5	19.4	49.4	11.9	83.8	33.5	55.7	24.8	16.2	4.4	3.0	2.6	5.9	66.7	9.1
	2	403	42.7	26.6	62.0	14.6	76.7	33.7	54.8	29.0	24.1	8.7	6.9	4.2	11.9	71.2	7.7
	3	140	50.0	37.1	70.0	17.9	76.4	37.1	50.7	32.1	32.1	10.7	19.3	5.7	23.6	70.7	12.1
日常的家事	1	427	8.9	14.3	3.7	7.7	14.3	11.9	56.9	24.6	4.2	13.8	32.8	2.1	22.0	23.4	15.5
	2	403	16.6	25.1	5.2	8.2	10.2	10.7	54.1	22.8	1.7	16.4	46.2	2.0	22.6	26.3	16.4
	3	140	25.7	40.0	13.6	4.3	7.9	12.9	54.3	20.7	5.7	19.3	60.7	2.1	32.9	29.3	9.3
非日常的家事	1	427	5.6	8.4	1.6	3.0	7.5	7.7	27.4	5.2	0.2	2.8	57.6	2.3	14.1	10.5	21.3
	2	403	11.7	15.1	3.0	4.0	4.2	5.2	25.6	8.2	0.5	6.9	63.0	2.5	20.6	9.2	21.6
	3	140	17.1	27.1	8.6	2.1	6.4	6.4	32.1	8.6	2.1	6.4	70.7	2.1	26.4	14.3	15.7
外出の支援	1	427	8.7	19.4	1.6	6.6	8.9	7.3	51.1	18.0	4.7	2.8	10.5	1.2	17.1	28.3	20.8
	2	403	12.4	29.0	2.2	5.5	7.2	7.2	42.2	24.1	5.2	6.0	8.4	2.0	18.4	19.6	24.6
	3	140	12.9	32.9	8.6	2.9	10.0	5.7	48.6	21.4	6.4	6.4	24.3	2.1	21.4	22.1	17.1
見守り	1	427	60.7	11.9	37.9	88.3	58.8	23.4	63.9	21.1	7.7	15.9	9.8	2.6	30.4	46.4	6.6
	2	403	59.3	14.1	45.4	93.5	67.5	21.6	53.3	17.9	8.2	18.9	9.7	5.7	33.7	50.1	7.9
	3	140	62.1	22.1	57.1	92.1	74.3	17.1	58.6	20.7	6.4	16.4	16.4	5.0	37.1	55.0	5.7

一番目に回答率が高い担い手	総面積当たり人口密度			
二番目に回答率が高い担い手	1	200人/km未満	3	2000人/km以上
三番目に回答率が高い担い手	2	200人/km以上2000人/km未満		

※担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(5) 一人暮らし高齢者等を対象とした生活支援の充足度（全市区町村を対象、単数回答）

- 一人暮らし高齢者等を対象とした生活支援について、『充足している（「充足している」と「ある程度充足している」）』と回答した市区町村が 41.1%であるのに対し、『不足している（「不足している」と「やや不足している」）』と回答した市区町村は 58.5%とやや上回った。
- 人口規模別にみると、人口規模の小さい市区町村ほど『不足している』、人口規模の大きい市区町村ほど『充足している』と回答する傾向があった。
- 総面積当たり人口密度別にみると、人口密度の低い市区町村ほど『不足している』、人口密度の高い市区町村ほど『充足している』と回答する傾向があった。



n=970	全体	人口規模				総面積あたり人口密度		
		1	2	3	4	1	2	3
n	970	227	388	271	84	427	403	140
充足している	6.2	5.3	5.4	5.2	15.5	4.7	5.5	12.9
ある程度充足している	34.9	32.2	32.2	39.5	40.5	29.5	38.2	42.1
やや不足している	42.1	37.9	45.6	43.2	33.3	44.5	41.4	36.4
不足している	16.4	24.7	16.0	12.2	9.5	21.3	14.4	7.1
無回答	0.4	0.0	0.8	0.0	1.2	0.0	0.5	1.4

人口規模		総面積あたり人口密度	
1	1万人未満	1	200人/k㎡未満
2	1万人以上5万人未満	2	200人/k㎡以上2000人/k㎡未満
3	5万人以上20万人未満	3	2000人/k㎡以上
4	20万人以上		

(6) 特に充足が必要と認識している支援内容（生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、3つまで複数回答）

○特に充足が必要な生活支援としては、外出支援が74.1%で最も高く、次いで日常的家事で52.9%、非日常的家事で32.9%となっていた。

○人口規模別・総面積当たり人口密度別にみた場合でも、外出支援と日常的家事を充足が必要な生活支援として挙げる傾向に変化はないものの、三番目に回答率が高い生活支援として、人口規模20万人以上の市区町村では地域交流活動の機会の提供、人口密度2000人/km²以上の市区町村では見守りが挙げられる傾向があった。

n=906	全体	人口規模				総面積あたり人口密度		
		1	2	3	4	1	2	3
n	906	215	364	257	70	407	379	120
就労支援	9.5	11.6	9.1	8.2	10.0	9.8	7.9	13.3
ボランティア活動の機会の提供	18.8	25.6	19.0	13.6	15.7	23.8	15.0	13.3
趣味・娯楽活動の機会の提供	3.4	4.7	2.7	3.9	1.4	3.4	3.2	4.2
地域交流活動の機会の提供	22.4	16.7	23.6	23.3	30.0	19.7	23.2	29.2
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	18.2	9.3	18.7	24.5	20.0	14.3	21.4	21.7
日常的家事	52.9	52.1	54.9	51.8	48.6	55.5	54.9	37.5
非日常的家事	32.9	35.8	31.3	35.0	24.3	32.9	33.8	30.0
外出の支援	74.1	70.2	79.4	71.6	67.1	74.9	74.9	68.3
見守り	22.1	21.4	20.1	23.7	28.6	20.1	20.6	33.3

	一番目に回答率が高い生活支援
	二番目に回答率が高い生活支援
	三番目に回答率が高い生活支援

人口規模		総面積あたり人口密度	
1	1万人未満	1	200人/km ² 未満
2	1万人以上5万人未満	2	200人/km ² 以上2000人/km ² 未満
3	5万人以上20万人未満	3	2000人/km ² 以上
4	20万人以上		

(7) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）

○生活支援の種類を問わず、町内会・自治会と社会福祉協議会は生活支援の充足に向けて期待する担い手として選択される傾向がみられた。

○これらに加え、ボランティア活動の機会の提供、趣味・娯楽活動の機会の提供、地域交流活動の機会の提供、健康づくり・介護予防の場／機会の提供は老人クラブや地域包括支援センター及び生活支援コーディネーター、就労支援はシルバー人材センターや民間企業、日常的・非日常的家事や外出支援はシルバー人材センターや民間企業及び NPO 団体、見守りは民生委員や老人クラブが担い手として挙げられる傾向があった。

n=906	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	0.7	5.2	0.4	0.7	0.8	2.6	7.8	4.3	1.9	3.0	15.1	3.1	10.7	5.2	13.2
ボランティア活動の機会の提供	11.4	10.3	9.7	2.5	3.4	10.8	22.2	8.2	2.9	3.4	6.0	2.2	6.6	4.3	13.5
趣味・娯楽活動の機会の提供	9.3	5.2	12.7	1.8	2.3	5.2	7.5	2.9	1.1	1.7	1.9	1.9	3.5	3.3	19.5
地域交流活動の機会の提供	23.5	8.2	18.5	6.6	8.2	16.1	18.4	10.6	4.3	4.3	2.9	2.6	6.6	7.3	14.6
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	15.1	7.7	13.8	2.9	16.2	8.8	13.8	10.0	9.9	3.6	3.0	2.5	7.4	10.2	14.9
日常的家事	27.6	20.5	11.7	2.5	3.3	10.2	24.2	11.7	1.7	8.2	21.5	2.5	18.3	4.9	14.7
非日常的家事	17.2	15.3	7.2	1.3	1.4	6.5	16.6	7.5	1.1	5.0	21.6	2.1	15.2	2.4	14.5
外出の支援	28.0	32.3	9.1	2.3	2.6	9.6	33.6	29.6	8.2	5.5	16.3	3.1	31.7	11.4	10.4
見守り	24.8	7.4	15.3	21.5	13.2	6.6	14.2	7.1	4.2	5.6	4.9	2.9	13.4	7.3	14.8
その他	1.7	0.4	1.0	1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.1	0.3	0.3	0.2	1.2	1.2	54.7

	一番目に回答率が高い担い手
	二番目に回答率が高い担い手
	三番目に回答率が高い担い手

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(7-1-1) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（人口規模別、生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）

○人口規模別では、人口規模の小さい市区町村ほど社会福祉協議会や町内会・自治会等を期待する担い手として挙げる傾向がある一方、人口規模の大きい市区町村ほどそれらに加え、NPO 団体や社会福祉法人、協同組合、民間企業等、複数の期待する担い手を回答する傾向があった。

人口規模	n	n=906	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
1	215	就労支援	1.4	5.6	0.5	1.4	0.5	3.7	11.2	3.7	0.9	1.4	9.3	3.3	7.9	3.7	12.7
		ボランティア活動の機会の提供	12.6	7.9	9.8	2.8	3.7	12.6	24.2	6.5	0.9	1.9	6.0	1.4	7.4	4.2	12.9
		趣味・娯楽活動の機会の提供	6.5	1.9	10.7	1.4	0.9	3.7	7.0	1.9	0.0	0.0	0.9	0.5	0.9	1.9	20.8
		地域交流活動の機会の提供	14.4	4.7	12.1	3.3	5.6	13.0	13.5	3.7	0.9	0.9	0.9	0.5	3.3	6.0	15.4
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	6.0	2.3	6.0	1.4	12.1	7.0	10.2	3.7	5.1	1.4	0.9	0.9	1.9	7.9	16.4
		日常的家事	27.0	11.6	13.0	2.8	3.7	9.8	24.2	10.2	0.9	5.1	14.0	1.4	15.3	5.1	12.6
		非日常的家事	20.9	10.2	7.9	1.9	1.4	7.4	18.6	7.4	49.3	1.4	16.7	1.9	11.2	3.3	15.6
		外出の支援	25.1	19.1	8.4	1.9	1.9	10.7	36.3	17.2	3.7	2.3	11.6	2.8	21.9	11.2	9.8
		見守り	20.5	4.7	9.3	17.7	10.2	8.4	14.9	4.2	4.2	4.2	2.8	1.4	11.2	6.0	14.1
		その他	2.3	0.0	0.9	0.9	0.5	0.9	2.3	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.9	52.4
2	364	就労支援	0.0	4.4	0.3	0.5	1.1	2.5	7.7	5.5	2.7	3.3	17.9	2.7	13.7	4.9	14.8
		ボランティア活動の機会の提供	9.1	8.8	8.5	2.5	2.7	10.4	24.2	7.7	2.7	2.7	5.8	1.1	4.9	4.9	11.5
		趣味・娯楽活動の機会の提供	8.5	4.9	12.9	1.1	2.7	6.0	7.7	2.7	1.1	1.1	2.2	1.6	4.1	4.9	16.8
		地域交流活動の機会の提供	26.1	5.2	20.1	7.7	7.7	18.1	20.6	11.8	3.8	4.7	3.0	1.9	5.8	8.5	11.4
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	14.8	7.1	14.3	2.2	16.8	9.1	12.6	10.4	11.3	1.9	1.6	1.1	6.3	11.5	12.8
		日常的家事	24.5	20.6	8.0	1.4	4.4	11.5	25.3	10.4	0.5	7.7	25.0	1.9	18.7	4.4	10.7
		非日常的家事	13.2	13.5	5.5	1.1	2.2	7.4	15.1	4.9	0.5	4.9	25.0	1.6	15.9	1.6	10.5
		外出の支援	27.2	33.2	7.4	2.2	4.4	9.9	30.5	30.5	6.0	3.8	19.8	2.2	30.5	13.7	8.2
		見守り	24.7	6.6	16.5	23.1	11.8	6.6	14.8	8.2	3.8	4.9	6.0	3.0	12.4	8.0	11.8
		その他	0.8	0.0	1.1	0.5	0.8	1.4	1.1	1.4	0.0	0.0	0.5	0.0	1.6	0.8	54.8
3	257	就労支援	0.4	5.1	0.4	0.0	0.4	1.9	5.1	3.1	1.6	3.5	16.3	3.1	8.9	5.8	9.8
		ボランティア活動の機会の提供	12.5	12.5	11.3	2.3	3.9	10.9	18.7	10.1	3.9	4.3	7.0	3.5	7.4	4.3	12.7
		趣味・娯楽活動の機会の提供	12.8	7.4	15.6	3.1	2.3	5.4	8.6	3.9	1.9	3.5	2.3	2.7	3.9	2.7	17.5
		地域交流活動の機会の提供	27.2	12.5	22.2	8.6	10.1	14.8	20.2	11.7	7.0	5.8	4.3	5.1	9.7	7.4	14.7
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	23.0	12.5	19.8	4.7	18.3	9.3	18.7	12.5	11.7	5.1	5.8	4.7	11.3	10.5	12.5
		日常的家事	32.7	25.7	14.8	3.5	1.2	8.6	23.3	13.6	2.3	9.3	22.2	3.1	19.1	5.8	16.9
		非日常的家事	19.5	21.8	8.6	0.8	0.4	4.3	16.7	10.5	1.9	5.8	23.3	2.7	18.3	3.1	15.0
		外出の支援	32.7	41.6	10.9	1.9	0.8	8.6	37.0	35.8	14.0	8.9	17.5	4.3	40.9	10.5	11.0
		見守り	27.6	9.7	18.7	21.8	16.3	4.3	14.0	7.0	3.9	6.6	5.8	3.9	15.2	8.6	16.7
		その他	2.3	1.2	0.8	1.9	1.2	0.8	1.6	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	1.6	52.0
4	70	就労支援	2.9	8.6	1.4	1.4	1.4	2.9	8.6	4.3	1.4	4.3	14.3	4.3	10.0	8.6	15.8
		ボランティア活動の機会の提供	15.7	17.1	10.0	2.9	4.3	7.1	18.6	8.6	5.7	8.6	2.9	5.7	10.0	1.4	31.8
		趣味・娯楽活動の機会の提供	8.6	8.6	7.1	1.4	4.3	4.3	4.3	2.9	1.4	2.9	1.4	4.3	7.1	1.4	40.0
		地域交流活動の機会の提供	24.3	18.6	17.1	4.3	11.4	20.0	15.7	21.4	7.1	7.1	2.9	4.3	10.0	4.3	28.1
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	15.7	10.0	12.9	4.3	18.6	11.4	12.9	18.6	11.4	14.3	5.7	7.1	15.7	8.6	31.0
		日常的家事	27.1	28.6	15.7	4.3	4.3	10.0	21.4	15.7	7.1	15.7	24.3	7.1	22.9	2.9	35.9
		非日常的家事	18.6	17.1	8.6	2.9	1.4	7.1	17.1	10.0	4.3	12.9	12.9	2.9	12.9	1.4	33.3
		外出の支援	24.3	34.3	12.9	5.7	2.9	8.6	28.6	40.0	11.4	11.4	8.6	4.3	34.3	2.9	23.4
		見守り	28.6	11.4	15.7	24.3	18.6	10.0	10.0	10.0	7.1	10.0	1.4	2.9	18.6	2.9	25.0
		その他	1.4	1.4	1.4	2.9	2.9	2.9	2.9	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	2.9	71.4

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

人口規模	
1	1万人未満
2	1万人以上5万人未満
3	5万人以上20万人未満
4	20万人以上

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(7-1-2) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（人口規模別・生活支援ごと、生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）

○就労支援では、人口規模が小さい市区町村では社会福祉協議会に期待される一方で、人口規模が大きい市区町村ではシルバー人材センターに期待が集まる傾向がみられた。

	n=906	人口規模	n	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	1	215	1.4	5.6	0.5	1.4	0.5	3.7	11.2	3.7	0.9	1.4	9.3	3.3	7.9	3.7	12.7	
	2	364	0.0	4.4	0.3	0.5	1.1	2.5	7.7	5.5	2.7	3.3	17.9	2.7	13.7	4.9	14.8	
	3	257	0.4	5.1	0.4	0.0	0.4	1.9	5.1	3.1	1.6	3.5	16.3	3.1	8.9	5.8	9.8	
	4	70	2.9	8.6	1.4	1.4	1.4	2.9	8.6	4.3	1.4	4.3	14.3	4.3	10.0	8.6	15.8	
ボランティア活動の機会の提供	1	215	12.6	7.9	9.8	2.8	3.7	12.6	24.2	6.5	0.9	1.9	6.0	1.4	7.4	4.2	12.9	
	2	364	9.1	8.8	8.5	2.5	2.7	10.4	24.2	7.7	2.7	2.7	5.8	1.1	4.9	4.9	11.5	
	3	257	12.5	12.5	11.3	2.3	3.9	10.9	18.7	10.1	3.9	4.3	7.0	3.5	7.4	4.3	12.7	
	4	70	15.7	17.1	10.0	2.9	4.3	7.1	18.6	8.6	5.7	8.6	2.9	5.7	10.0	1.4	31.8	
趣味・娯楽活動の機会の提供	1	215	6.5	1.9	10.7	1.4	0.9	3.7	7.0	1.9	0.0	0.0	0.9	0.5	0.9	1.9	20.8	
	2	364	8.5	4.9	12.9	1.1	2.7	6.0	7.7	2.7	1.1	1.1	2.2	1.6	4.1	4.9	16.8	
	3	257	12.8	7.4	15.6	3.1	2.3	5.4	8.6	3.9	1.9	3.5	2.3	2.7	3.9	2.7	17.5	
	4	70	8.6	8.6	7.1	1.4	4.3	4.3	4.3	2.9	1.4	2.9	1.4	4.3	7.1	1.4	40.0	
地域交流活動の機会の提供	1	215	14.4	4.7	12.1	3.3	5.6	13.0	13.5	3.7	0.9	0.9	0.9	0.5	3.3	6.0	15.4	
	2	364	26.1	5.2	20.1	7.7	7.7	18.1	20.6	11.8	3.8	4.7	3.0	1.9	5.8	8.5	11.4	
	3	257	27.2	12.5	22.2	8.6	10.1	14.8	20.2	11.7	7.0	5.8	4.3	5.1	9.7	7.4	14.7	
	4	70	24.3	18.6	17.1	4.3	11.4	20.0	15.7	21.4	7.1	7.1	2.9	4.3	10.0	4.3	28.1	
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	1	215	6.0	2.3	6.0	1.4	12.1	7.0	10.2	3.7	5.1	1.4	0.9	0.9	1.9	7.9	16.4	
	2	364	14.8	7.1	14.3	2.2	16.8	9.1	12.6	10.4	11.3	1.9	1.6	1.1	6.3	11.5	12.8	
	3	257	23.0	12.5	19.8	4.7	18.3	9.3	18.7	12.5	11.7	5.1	5.8	4.7	11.3	10.5	12.5	
	4	70	15.7	10.0	12.9	4.3	18.6	11.4	12.9	18.6	11.4	14.3	5.7	7.1	15.7	8.6	31.0	
日常的家事	1	215	27.0	11.6	13.0	2.8	3.7	9.8	24.2	10.2	0.9	5.1	14.0	1.4	15.3	5.1	12.6	
	2	364	24.5	20.6	8.0	1.4	4.4	11.5	25.3	10.4	0.5	7.7	25.0	1.9	18.7	4.4	10.7	
	3	257	32.7	25.7	14.8	3.5	1.2	8.6	23.3	13.6	2.3	9.3	22.2	3.1	19.1	5.8	16.9	
	4	70	27.1	28.6	15.7	4.3	4.3	10.0	21.4	15.7	7.1	15.7	24.3	7.1	22.9	2.9	35.9	
非日常的家事	1	215	20.9	10.2	7.9	1.9	1.4	7.4	18.6	7.4	49.3	1.4	16.7	1.9	11.2	3.3	15.6	
	2	364	13.2	13.5	5.5	1.1	2.2	7.4	15.1	4.9	0.5	4.9	25.0	1.6	15.9	1.6	10.5	
	3	257	19.5	21.8	8.6	0.8	0.4	4.3	16.7	10.5	1.9	5.8	23.3	2.7	18.3	3.1	15.0	
	4	70	18.6	17.1	8.6	2.9	1.4	7.1	17.1	10.0	4.3	12.9	12.9	2.9	12.9	1.4	33.3	
外出の支援	1	215	25.1	19.1	8.4	1.9	1.9	10.7	36.3	17.2	3.7	2.3	11.6	2.8	21.9	11.2	9.8	
	2	364	27.2	33.2	7.4	2.2	4.4	9.9	30.5	30.5	6.0	3.8	19.8	2.2	30.5	13.7	8.2	
	3	257	32.7	41.6	10.9	1.9	0.8	8.6	37.0	35.8	14.0	8.9	17.5	4.3	40.9	10.5	11.0	
	4	70	24.3	34.3	12.9	5.7	2.9	8.6	28.6	40.0	11.4	11.4	8.6	4.3	34.3	2.9	23.4	
見守り	1	215	20.5	4.7	9.3	17.7	10.2	8.4	14.9	4.2	4.2	4.2	2.8	1.4	11.2	6.0	14.1	
	2	364	24.7	6.6	16.5	23.1	11.8	6.6	14.8	8.2	3.8	4.9	6.0	3.0	12.4	8.0	11.8	
	3	257	27.6	9.7	18.7	21.8	16.3	4.3	14.0	7.0	3.9	6.6	5.8	3.9	15.2	8.6	16.7	
	4	70	28.6	11.4	15.7	24.3	18.6	10.0	10.0	10.0	7.1	10.0	1.4	2.9	18.6	2.9	25.0	
その他	1	215	2.3	0.0	0.9	0.9	0.5	0.9	2.3	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.9	52.4	
	2	364	0.8	0.0	1.1	0.5	0.8	1.4	1.1	1.4	0.0	0.0	0.5	0.0	1.6	0.8	54.8	
	3	257	2.3	1.2	0.8	1.9	1.2	0.8	1.6	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	1.6	52.0	
	4	70	1.4	1.4	1.4	2.9	2.9	2.9	2.9	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	2.9	71.4	

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

人口規模			
1	1万人未満	3	5万人以上20万人未満
2	1万人以上5万人未満	4	20万人以上

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(7-2-1) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（総面積当たり人口密度別、生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）

○総面積当たり人口密度別にみた場合でも、人口規模別にみた時と同様の傾向がみられた。

人口密度	n	n=906	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
1	407	就労支援	1.0	5.2	0.5	1.0	0.7	3.9	9.1	4.9	2.0	2.2	13.0	2.7	9.6	4.2	15.8
		ボランティア活動の機会の提供	12.0	10.1	9.1	2.9	3.7	12.5	23.6	8.4	2.9	2.9	7.1	2.0	7.1	4.9	14.2
		趣味・娯楽活動の機会の提供	6.4	4.7	11.5	1.2	2.0	5.2	6.4	2.9	0.5	1.5	1.5	1.7	2.7	3.9	21.9
		地域交流活動の機会の提供	19.9	5.9	16.0	4.9	5.9	15.0	15.7	7.4	2.0	3.4	1.5	1.7	4.2	6.4	16.0
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	11.8	6.6	9.8	1.7	14.5	8.1	11.1	6.4	8.6	2.5	1.2	1.7	4.2	10.3	17.8
		日常的家事	27.8	17.4	10.3	2.2	3.4	12.0	25.6	13.5	1.2	8.8	19.9	2.2	18.2	6.6	12.4
		非日常的家事	17.9	13.3	6.1	1.2	1.2	7.6	17.4	7.6	0.2	3.7	20.6	2.2	12.8	3.4	15.7
		外出の支援	26.5	29.0	5.4	2.0	2.9	10.6	34.6	25.6	5.7	4.7	16.7	2.7	28.0	12.8	8.2
		見守り	20.4	6.9	12.8	19.4	10.6	7.4	14.0	5.7	3.9	4.7	4.7	2.7	11.3	6.9	14.6
		その他	1.7	0.2	1.0	0.7	0.5	1.5	1.2	1.0	0.0	0.2	0.5	0.2	1.0	1.2	57.1
2	379	就労支援	0.0	4.5	0.3	0.3	0.5	1.6	7.1	2.9	1.6	2.9	16.6	3.2	11.9	5.3	11.7
		ボランティア活動の機会の提供	10.6	10.0	10.6	2.4	2.4	8.7	22.4	6.9	2.1	2.9	4.7	2.1	4.7	4.0	11.8
		趣味・娯楽活動の機会の提供	11.1	4.7	13.5	2.1	2.1	5.0	9.0	2.1	1.1	1.6	1.8	2.4	3.2	2.9	17.3
		地域交流活動の機会の提供	27.2	9.0	20.6	7.9	9.5	16.4	20.6	13.2	5.8	5.0	3.7	3.4	7.9	7.7	12.8
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	17.9	8.4	17.4	3.4	17.4	8.7	16.6	12.7	10.8	4.5	4.0	3.7	9.5	9.2	12.0
		日常的家事	29.6	23.2	12.9	3.2	3.2	9.2	24.5	10.0	1.6	6.9	23.0	2.6	18.5	2.6	14.8
		非日常的家事	15.6	16.4	7.9	1.3	1.6	6.3	16.6	6.9	1.3	5.8	23.7	2.1	17.4	1.1	10.6
		外出の支援	30.6	34.3	11.9	2.9	2.6	9.5	32.2	32.7	8.7	6.1	16.4	3.7	31.9	10.6	11.8
		見守り	28.8	6.3	16.9	23.0	13.7	5.8	14.2	7.1	3.2	5.5	3.7	2.9	13.5	6.1	14.3
		その他	1.6	0.5	1.1	1.1	1.1	0.8	1.8	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	1.3	0.8	52.9
3	120	就労支援	1.7	7.5	0.8	0.8	1.7	1.7	5.8	6.7	2.5	5.8	17.5	4.2	10.8	8.3	9.1
		ボランティア活動の機会の提供	11.7	11.7	9.2	1.7	5.8	11.7	16.7	11.7	5.0	6.7	5.8	3.3	10.8	3.3	16.7
		趣味・娯楽活動の機会の提供	13.3	8.3	14.2	2.5	4.2	5.8	6.7	5.0	3.3	2.5	3.3	0.8	7.5	2.5	18.5
		地域交流活動の機会の提供	24.2	13.3	20.8	8.3	11.7	19.2	20.8	13.3	7.5	5.0	5.0	3.3	10.8	9.2	16.3
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	17.5	9.2	15.8	5.0	18.3	11.7	14.2	14.2	11.7	5.0	5.8	1.7	11.7	12.5	16.3
		日常的家事	20.8	22.5	12.5	1.7	3.3	6.7	18.3	10.8	3.3	10.0	22.5	3.3	18.3	5.8	25.0
		非日常的家事	20.0	19.2	8.3	1.7	1.7	3.3	13.3	9.2	3.3	6.7	18.3	1.7	16.7	3.3	23.5
		外出の支援	25.0	37.5	12.5	1.7	1.7	6.7	34.2	33.3	15.0	6.7	15.0	2.5	43.3	9.2	13.3
		見守り	27.5	12.5	19.2	24.2	20.8	6.7	15.0	11.7	8.3	9.2	9.2	3.3	20.0	12.5	16.7
		その他	1.7	0.8	0.8	3.3	2.5	1.7	2.5	1.7	0.8	0.8	0.8	0.8	1.7	2.5	50.0

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

総面積当たり人口密度	
1	200人/km未満
2	200人/km以上2000人/km未満
3	2000人/km以上

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(7-2-2) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（総面積当たり人口密度別・生活支援ごと、生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）

○総面積当たり人口密度別にみた場合でも、人口規模別にみた時と概ね同様の傾向がみられた。

n=906	人口密度	n	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	1	407	1.0	5.2	0.5	1.0	0.7	3.9	9.1	4.9	2.0	2.2	13.0	2.7	9.6	4.2	15.8
	2	379	0.0	4.5	0.3	0.3	0.5	1.6	7.1	2.9	1.6	2.9	16.6	3.2	11.9	5.3	11.7
	3	120	1.7	7.5	0.8	0.8	1.7	1.7	5.8	6.7	2.5	5.8	17.5	4.2	10.8	8.3	9.1
ボランティア活動の機会の提供	1	407	12.0	10.1	9.1	2.9	3.7	12.5	23.6	8.4	2.9	2.9	7.1	2.0	7.1	4.9	14.2
	2	379	10.6	10.0	10.6	2.4	2.4	8.7	22.4	6.9	2.1	2.9	4.7	2.1	4.7	4.0	11.8
	3	120	11.7	11.7	9.2	1.7	5.8	11.7	16.7	11.7	5.0	6.7	5.8	3.3	10.8	3.3	16.7
趣味・娯楽活動の機会の提供	1	407	6.4	4.7	11.5	1.2	2.0	5.2	6.4	2.9	0.5	1.5	1.5	1.7	2.7	3.9	21.9
	2	379	11.1	4.7	13.5	2.1	2.1	5.0	9.0	2.1	1.1	1.6	1.8	2.4	3.2	2.9	17.3
	3	120	13.3	8.3	14.2	2.5	4.2	5.8	6.7	5.0	3.3	2.5	3.3	0.8	7.5	2.5	18.5
地域交流活動の機会の提供	1	407	19.9	5.9	16.0	4.9	5.9	15.0	15.7	7.4	2.0	3.4	1.5	1.7	4.2	6.4	16.0
	2	379	27.2	9.0	20.6	7.9	9.5	16.4	20.6	13.2	5.8	5.0	3.7	3.4	7.9	7.7	12.8
	3	120	24.2	13.3	20.8	8.3	11.7	19.2	20.8	13.3	7.5	5.0	5.0	3.3	10.8	9.2	16.3
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	1	407	11.8	6.6	9.8	1.7	14.5	8.1	11.1	6.4	8.6	2.5	1.2	1.7	4.2	10.3	17.8
	2	379	17.9	8.4	17.4	3.4	17.4	8.7	16.6	12.7	10.8	4.5	4.0	3.7	9.5	9.2	12.0
	3	120	17.5	9.2	15.8	5.0	18.3	11.7	14.2	14.2	11.7	5.0	5.8	1.7	11.7	12.5	16.3
日常的家事	1	407	27.8	17.4	10.3	2.2	3.4	12.0	25.6	13.5	1.2	8.8	19.9	2.2	18.2	6.6	12.4
	2	379	29.6	23.2	12.9	3.2	3.2	9.2	24.5	10.0	1.6	6.9	23.0	2.6	18.5	2.6	14.8
	3	120	20.8	22.5	12.5	1.7	3.3	6.7	18.3	10.8	3.3	10.0	22.5	3.3	18.3	5.8	25.0
非日常的家事	1	407	17.9	13.3	6.1	1.2	1.2	7.6	17.4	7.6	0.2	3.7	20.6	2.2	12.8	3.4	15.7
	2	379	15.6	16.4	7.9	1.3	1.6	6.3	16.6	6.9	1.3	5.8	23.7	2.1	17.4	1.1	10.6
	3	120	20.0	19.2	8.3	1.7	1.7	3.3	13.3	9.2	3.3	6.7	18.3	1.7	16.7	3.3	23.5
外出の支援	1	407	26.5	29.0	5.4	2.0	2.9	10.6	34.6	25.6	5.7	4.7	16.7	2.7	28.0	12.8	8.2
	2	379	30.6	34.3	11.9	2.9	2.6	9.5	32.2	32.7	8.7	6.1	16.4	3.7	31.9	10.6	11.8
	3	120	25.0	37.5	12.5	1.7	1.7	6.7	34.2	33.3	15.0	6.7	15.0	2.5	43.3	9.2	13.3
見守り	1	407	20.4	6.9	12.8	19.4	10.6	7.4	14.0	5.7	3.9	4.7	4.7	2.7	11.3	6.9	14.6
	2	379	28.8	6.3	16.9	23.0	13.7	5.8	14.2	7.1	3.2	5.5	3.7	2.9	13.5	6.1	14.3
	3	120	27.5	12.5	19.2	24.2	20.8	6.7	15.0	11.7	8.3	9.2	9.2	3.3	20.0	12.5	16.7
その他	1	407	1.7	0.2	1.0	0.7	0.5	1.5	1.2	1.0	0.0	0.2	0.5	0.2	1.0	1.2	57.1
	2	379	1.6	0.5	1.1	1.1	1.1	0.8	1.8	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	1.3	0.8	52.9
	3	120	1.7	0.8	0.8	3.3	2.5	1.7	2.5	1.7	0.8	0.8	0.8	0.8	1.7	2.5	50.0

一番目に回答率が高い担い手
二番目に回答率が高い担い手
三番目に回答率が高い担い手

総面積当たり人口密度		
1	200人/km未満	3
2	200人/km以上2000人/km未満	

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。

(8) 現状の担い手との比較でみた各生活支援の充足に向けて期待する担い手

- 「(4) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（全市区町村を対象、複数回答）」と「(7) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）」の結果を比較した。
- 各生活支援において新しい役割が期待されている担い手（現状の生活支援の担い手としての回答率は低いものの、期待する担い手として上位に挙げられるもの）を赤色で示した。
- 特に、町内会・自治会は現在担っている生活支援に加え、日常的家事や見守りをはじめとする多様な生活支援の担い手として期待されていることがわかる。次いで、社会福祉協議会も現在担っている生活支援に加え、外出支援や非日常的家事等の生活支援の担い手としても期待されていることがわかった。
- これらに加え、就労支援は民間企業、ボランティア活動の機会の提供は生活支援コーディネーター、日常的家事はシルバー人材センター、外出支援はNPO 団体や民間企業、見守りは老人クラブが担い手として期待されていることがわかった。

n=906	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
就労支援	0.7	5.2	0.4	0.7	0.8	2.6	7.8	4.3	1.9	3.0	15.1	3.1	10.7	5.2	13.2
ボランティア活動の機会の提供	11.4	10.3	9.7	2.5	3.4	10.8	22.2	8.2	2.9	3.4	6.0	2.2	6.6	4.3	13.5
趣味・娯楽活動の機会の提供	9.3	5.2	12.7	1.8	2.3	5.2	7.5	2.9	1.1	1.7	1.9	1.9	3.5	3.3	19.5
地域交流活動の機会の提供	23.5	8.2	18.5	6.6	8.2	16.1	18.4	10.6	4.3	4.3	2.9	2.6	6.6	7.3	14.6
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	15.1	7.7	13.8	2.9	16.2	8.8	13.8	10.0	9.9	3.6	3.0	2.5	7.4	10.2	14.9
日常的家事	27.6	20.5	11.7	2.5	3.3	10.2	24.2	11.7	1.7	8.2	21.5	2.5	18.3	4.9	14.7
非日常的家事	17.2	15.3	7.2	1.3	1.4	6.5	16.6	7.5	1.1	5.0	21.6	2.1	15.2	2.4	14.5
外出の支援	28.0	32.3	9.1	2.3	2.6	9.6	33.6	29.6	8.2	5.5	16.3	3.1	31.7	11.4	10.4
見守り	24.8	7.4	15.3	21.5	13.2	6.6	14.2	7.1	4.2	5.6	4.9	2.9	13.4	7.3	14.8
その他	1.7	0.4	1.0	1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.1	0.3	0.3	0.2	1.2	1.2	54.7

期待する担い手としての回答率が一～三番目かつ現状の担い手としての回答率が50%未満
 現状の担い手としての回答率が50%以上

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。
 ※表中の数字は「(7) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手」の回答率を示している。
 ※現状の担い手は過半数の自治体の認識を示すため、50%を区切りとした。
 ※期待する担い手は自治体の期待度の高い担い手を示すため、一～三番目を区切りとした。

(8-1) 現状の担い手との比較でみた各生活支援の充足に向けて期待する担い手（人口規模別）

○「(4-1-1) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（人口規模別、全市区町村を対象、複数回答）」
と「(7-1-1) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（人口規模別、生活支援の充足度について
「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）」
の結果を比較した。

○新しい役割が期待されている担い手（現状の生活支援の担い手としての回答率は低いものの、期待する担い手として上位に挙げられるもの）を赤色で示した。

○人口規模別では、人口規模の小さい市区町村ほど町内会・自治会や民間企業等に新しい役割を期待している一方、人口規模の大きい市区町村ほどそれらに加え、NPO 団体や社会福祉法人、協同組合等、複数の担い手に新しい役割を期待していることがわかった。

人口規模	n	n=906	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
1	215	就労支援	1.4	5.6	0.5	1.4	0.5	3.7	11.2	3.7	0.9	1.4	9.3	3.3	7.9	3.7	12.7
		ボランティア活動の機会の提供	12.6	7.9	9.8	2.8	3.7	12.6	24.2	6.5	0.9	1.9	6.0	1.4	7.4	4.2	12.9
		趣味・娯楽活動の機会の提供	6.5	1.9	10.7	1.4	0.9	3.7	7.0	1.9	0.0	0.0	0.9	0.5	0.9	1.9	20.8
		地域交流活動の機会の提供	14.4	4.7	12.1	3.3	5.6	13.0	13.5	3.7	0.9	0.9	0.9	0.5	3.3	6.0	15.4
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	6.0	2.3	6.0	1.4	12.1	7.0	10.2	3.7	5.1	1.4	0.9	0.9	1.9	7.9	16.4
		日常的家事	27.0	11.6	13.0	2.8	3.7	9.8	24.2	10.2	0.9	5.1	14.0	1.4	15.3	5.1	12.6
		非日常的家事	20.9	10.2	7.9	1.9	1.4	7.4	18.6	7.4	49.3	1.4	16.7	1.9	11.2	3.3	15.6
		外出の支援	25.1	19.1	8.4	1.9	1.9	10.7	36.3	17.2	3.7	2.3	11.6	2.8	21.9	11.2	9.8
		見守り	20.5	4.7	9.3	17.7	10.2	8.4	14.9	4.2	4.2	4.2	2.8	1.4	11.2	6.0	14.1
		その他	2.3	0.0	0.9	0.9	0.5	0.9	2.3	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.9	52.4
2	364	就労支援	0.0	4.4	0.3	0.5	1.1	2.5	7.7	5.5	2.7	3.3	17.9	2.7	13.7	4.9	14.8
		ボランティア活動の機会の提供	9.1	8.8	8.5	2.5	2.7	10.4	24.2	7.7	2.7	2.7	5.8	1.1	4.9	4.9	11.5
		趣味・娯楽活動の機会の提供	8.5	4.9	12.9	1.1	2.7	6.0	7.7	2.7	1.1	1.1	2.2	1.6	4.1	4.9	16.8
		地域交流活動の機会の提供	26.1	5.2	20.1	7.7	7.7	18.1	20.6	11.8	3.8	4.7	3.0	1.9	5.8	8.5	11.4
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	14.8	7.1	14.3	2.2	16.8	9.1	12.6	10.4	11.3	1.9	1.6	1.1	6.3	11.5	12.8
		日常的家事	24.5	20.6	8.0	1.4	4.4	11.5	25.3	10.4	0.5	7.7	25.0	1.9	18.7	4.4	10.7
		非日常的家事	13.2	13.5	5.5	1.1	2.2	7.4	15.1	4.9	0.5	4.9	25.0	1.6	15.9	1.6	10.5
		外出の支援	27.2	33.2	7.4	2.2	4.4	9.9	30.5	30.5	6.0	3.8	19.8	2.2	30.5	13.7	8.2
		見守り	24.7	6.6	16.5	23.1	11.8	6.6	14.8	8.2	3.8	4.9	6.0	3.0	12.4	8.0	11.8
		その他	0.8	0.0	1.1	0.5	0.8	1.4	1.1	1.4	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	1.6	0.8
3	257	就労支援	0.4	5.1	0.4	0.0	0.4	1.9	5.1	3.1	1.6	3.5	16.3	3.1	8.9	5.8	9.8
		ボランティア活動の機会の提供	12.5	12.5	11.3	2.3	3.9	10.9	18.7	10.1	3.9	4.3	7.0	3.5	7.4	4.3	12.7
		趣味・娯楽活動の機会の提供	12.8	7.4	15.6	3.1	2.3	5.4	8.6	3.9	1.9	3.5	2.3	2.7	3.9	2.7	17.5
		地域交流活動の機会の提供	27.2	12.5	22.2	8.6	10.1	14.8	20.2	11.7	7.0	5.8	4.3	5.1	9.7	7.4	14.7
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	23.0	12.5	19.8	4.7	18.3	9.3	18.7	12.5	11.7	5.1	5.8	4.7	11.3	10.5	12.5
		日常的家事	32.7	25.7	14.8	3.5	1.2	8.6	23.3	13.6	2.3	9.3	22.2	3.1	19.1	5.8	16.9
		非日常的家事	19.5	21.8	8.6	0.8	0.4	4.3	16.7	10.5	1.9	5.8	23.3	2.7	18.3	3.1	15.0
		外出の支援	32.7	41.6	10.9	1.9	0.8	8.6	37.0	35.8	14.0	8.9	17.5	4.3	40.9	10.5	11.0
		見守り	27.6	9.7	18.7	21.8	16.3	4.3	14.0	7.0	3.9	6.6	5.8	3.9	15.2	8.6	16.7
		その他	2.3	1.2	0.8	1.9	1.2	0.8	1.6	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	1.6	52.0
4	70	就労支援	2.9	8.6	1.4	1.4	1.4	2.9	8.6	4.3	1.4	4.3	14.3	4.3	10.0	8.6	15.8
		ボランティア活動の機会の提供	15.7	17.1	10.0	2.9	4.3	7.1	18.6	8.6	5.7	8.6	2.9	5.7	10.0	1.4	31.8
		趣味・娯楽活動の機会の提供	8.6	8.6	7.1	1.4	4.3	4.3	4.3	2.9	1.4	2.9	1.4	4.3	7.1	1.4	40.0
		地域交流活動の機会の提供	24.3	18.6	17.1	4.3	11.4	20.0	15.7	21.4	7.1	7.1	2.9	4.3	10.0	4.3	28.1
		健康づくり・介護予防の場／機会の提供	15.7	10.0	12.9	4.3	18.6	11.4	12.9	18.6	11.4	14.3	5.7	7.1	15.7	8.6	31.0
		日常的家事	27.1	28.6	15.7	4.3	4.3	10.0	21.4	15.7	7.1	15.7	24.3	7.1	22.9	2.9	35.9
		非日常的家事	18.6	17.1	8.6	2.9	1.4	7.1	17.1	10.0	4.3	12.9	12.9	2.9	12.9	1.4	33.3
		外出の支援	24.3	34.3	12.9	5.7	2.9	8.6	28.6	40.0	11.4	11.4	8.6	4.3	34.3	2.9	23.4
		見守り	28.6	11.4	15.7	24.3	18.6	10.0	10.0	10.0	7.1	10.0	1.4	2.9	18.6	2.9	25.0
		その他	1.4	1.4	1.4	2.9	2.9	2.9	2.9	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	2.9	71.4

期待する担い手としての回答率が一～三番目かつ現状の担い手としての回答率が50%未満
現状の担い手としての回答率が50%以上

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。
※表中の数字は「(7-1-1) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手」の回答率を示している。
※現状の担い手は過半数の自治体の認識を示すため、50%を区切りとした。
※期待する担い手は自治体の期待度の高い担い手を示すため、一～三番目を区切りとした。

(8-2) 現状の担い手との比較でみた各生活支援の充足に向けて期待する担い手（総面積当たり人口密度別）

○「(4-2-1) 一人暮らし高齢者等の支援の担い手（総面積当たり人口密度別、全市区町村を対象、複数回答）」と「(7-2-1) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手（総面積当たり人口密度別、生活支援の充足度について「ある程度充足している」「やや不足している」「不足している」と回答した市区町村を対象、複数回答）」の結果を比較した。

○新しい役割が期待されている担い手（現状の生活支援の担い手としての回答率は低いものの、期待する担い手として上位に挙げられるもの）を赤色で示した。

○総面積当たり人口密度別にみた場合でも、人口規模別にみた時と同様の傾向がみられた。

人口密度	n	n=906	町内会・自治会	NPO団体	老人クラブ	民生委員	地域包括支援センター	生活支援コーディネーター	社会福祉協議会	社会福祉法人	医療法人	協同組合	シルバー人材センター	社団・財団法人	民間企業	自治体	その他・該当なし
1	407	就労支援	1.0	5.2	0.5	1.0	0.7	3.9	9.1	4.9	2.0	2.2	13.0	2.7	9.6	4.2	15.8
		ボランティア活動の機会の提供	12.0	10.1	9.1	2.9	3.7	12.5	23.6	8.4	2.9	2.9	7.1	2.0	7.1	4.9	14.2
		趣味・娯楽活動の機会の提供	6.4	4.7	11.5	1.2	2.0	5.2	6.4	2.9	0.5	1.5	1.5	1.7	2.7	3.9	21.9
		地域交流活動の機会の提供	19.9	5.9	16.0	4.9	5.9	15.0	15.7	7.4	2.0	3.4	1.5	1.7	4.2	6.4	16.0
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	11.8	6.6	9.8	1.7	14.5	8.1	11.1	6.4	8.6	2.5	1.2	1.7	4.2	10.3	17.8
		日常的家事	27.8	17.4	10.3	2.2	3.4	12.0	25.6	13.5	1.2	8.8	19.9	2.2	18.2	6.6	12.4
		非日常的家事	17.9	13.3	6.1	1.2	1.2	7.6	17.4	7.6	0.2	3.7	20.6	2.2	12.8	3.4	15.7
		外出の支援	26.5	29.0	5.4	2.0	2.9	10.6	34.6	25.6	5.7	4.7	16.7	2.7	28.0	12.8	8.2
		見守り	20.4	6.9	12.8	19.4	10.6	7.4	14.0	5.7	3.9	4.7	4.7	2.7	11.3	6.9	14.6
		その他	1.7	0.2	1.0	0.7	0.5	1.5	1.2	1.0	0.0	0.2	0.5	0.2	1.0	1.2	57.1
2	379	就労支援	0.0	4.5	0.3	0.3	0.5	1.6	7.1	2.9	1.6	2.9	16.6	3.2	11.9	5.3	11.7
		ボランティア活動の機会の提供	10.6	10.0	10.6	2.4	2.4	8.7	22.4	6.9	2.1	2.9	4.7	2.1	4.7	4.0	11.8
		趣味・娯楽活動の機会の提供	11.1	4.7	13.5	2.1	2.1	5.0	9.0	2.1	1.1	1.6	1.8	2.4	3.2	2.9	17.3
		地域交流活動の機会の提供	27.2	9.0	20.6	7.9	9.5	16.4	20.6	13.2	5.8	5.0	3.7	3.4	7.9	7.7	12.8
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	17.9	8.4	17.4	3.4	17.4	8.7	16.6	12.7	10.8	4.5	4.0	3.7	9.5	9.2	12.0
		日常的家事	29.6	23.2	12.9	3.2	3.2	9.2	24.5	10.0	1.6	6.9	23.0	2.6	18.5	2.6	14.8
		非日常的家事	15.6	16.4	7.9	1.3	1.6	6.3	16.6	6.9	1.3	5.8	23.7	2.1	17.4	1.1	10.6
		外出の支援	30.6	34.3	11.9	2.9	2.6	9.5	32.2	32.7	8.7	6.1	16.4	3.7	31.9	10.6	11.8
		見守り	28.8	6.3	16.9	23.0	13.7	5.8	14.2	7.1	3.2	5.5	3.7	2.9	13.5	6.1	14.3
		その他	1.6	0.5	1.1	1.1	1.1	0.8	1.8	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	1.3	0.8	52.9
3	120	就労支援	1.7	7.5	0.8	0.8	1.7	1.7	5.8	6.7	2.5	5.8	17.5	4.2	10.8	8.3	9.1
		ボランティア活動の機会の提供	11.7	11.7	9.2	1.7	5.8	11.7	16.7	11.7	5.0	6.7	5.8	3.3	10.8	3.3	16.7
		趣味・娯楽活動の機会の提供	13.3	8.3	14.2	2.5	4.2	5.8	6.7	5.0	3.3	2.5	3.3	0.8	7.5	2.5	18.5
		地域交流活動の機会の提供	24.2	13.3	20.8	8.3	11.7	19.2	20.8	13.3	7.5	5.0	5.0	3.3	10.8	9.2	16.3
		健康づくり・介護予防の場/機会の提供	17.5	9.2	15.8	5.0	18.3	11.7	14.2	14.2	11.7	5.0	5.8	1.7	11.7	12.5	16.3
		日常的家事	20.8	22.5	12.5	1.7	3.3	6.7	18.3	10.8	3.3	10.0	22.5	3.3	18.3	5.8	25.0
		非日常的家事	20.0	19.2	8.3	1.7	1.7	3.3	13.3	9.2	3.3	6.7	18.3	1.7	16.7	3.3	23.5
		外出の支援	25.0	37.5	12.5	1.7	1.7	6.7	34.2	33.3	15.0	6.7	15.0	2.5	43.3	9.2	13.3
		見守り	27.5	12.5	19.2	24.2	20.8	6.7	15.0	11.7	8.3	9.2	9.2	3.3	20.0	12.5	16.7
		その他	1.7	0.8	0.8	3.3	2.5	1.7	2.5	1.7	0.8	0.8	0.8	0.8	1.7	2.5	50.0

期待する担い手としての回答率が一～三番目かつ現状の担い手としての回答率が50%未満
現状の担い手としての回答率が50%以上

※生活支援の「その他」、担い手の「その他・該当なし」は表中の数字の色付けの対象外とした。
 ※表中の数字は「(7-2-1) 各生活支援の充足に向けて期待する担い手」の回答率を示している。
 ※現状の担い手は過半数の自治体の認識を示すため、50%を区切りとした。
 ※期待する担い手は自治体の期待度の高い担い手を示すため、一～三番目を区切りとした。

(9) 一人暮らし高齢者等の生活支援に関する課題（抜粋）

○生活支援に関する課題として最も多く挙げられたのは外出支援であり、次いで、日常的家事や見守り、地域交流活動の機会の提供に関する課題が多く挙げられた。外出支援については200件以上の記載がみられた。日常的家事や見守りについては約60件、地域交流活動の機会の提供については約30件の記載がみられた。人口規模の小さい市区町村または人口密度の低い市区町村は外出支援、人口密度の高い市区町村は見守りを課題として挙げる傾向があった。

生活支援	課題	人口規模	人口密度
就労支援	退職した方（60歳以上）の就労支援	2	2
ボランティア活動の機会の提供	雇用年齢の引き上げにより、ボランティア活動の核となっている60歳代の参加が減少している。地域としても人手不足なので働けなくなるまで働くという意識の方が多く、働けなくなってからでは地域のボランティア活動に参加する意欲も体力もなく、逆にすぐ支援が必要な状態になるという方が多いです。	1	1
	元気高齢者を生活支援の担い手として養成するにあたり、マンパワーの不足が課題です。	2	2
	住民ボランティアを主体とした生活支援を普及させたいが、専門的知識が乏しい一般住民で、かつボランティアとしての立場でできる範囲の設定について。	3	2
趣味・娯楽活動の機会の提供	高齢者の集まる場所の数などが、離島であるがゆえに少ない状況である。	1	1
	毎日、気軽に集い、語らうことができる高齢者の居場所がない。	2	2
	高齢者同士が交流することができる「居場所」の確保。	3	2
地域交流活動の機会の提供	住民主体のつどいの場がない。	1	1
	老人クラブ加入者の減少（クラブ数減少）。	2	1
	高齢者になっても健康ではつらつと暮らすことができるよう、外出のきっかけづくりや仲間づくりの機会の確保などにより、高齢者の社会参加を支援することが必要であると認識している。	4	3
	男性の一人暮らし高齢者等の社会参加。	4	3
健康づくり・介護予防の場／機会の提供	栄養バランスのとれた食事の確保や孤食への対応などが必要であると考えます。	2	1
	サルコペニアによって社会性が低下し、閉じこもり者数が増加し、認知症やうつ病などの発症の危険性が高まることに対し危惧している。	2	1
	足腰が弱ってきたとき、近くに通いの場がなく、移送手段も確保されていないため、閉じこもり状態になる地域が多い。	3	2

	「ひとり暮らし高齢者等訪問支援事業」を実施し、地域包括支援センターに配置した訪問支援員や区民ボランティアがひとり暮らし高齢者等を訪問して介護予防などの個々の状況に応じた支援につなげているが、当事業の未対応者に対する支援が課題となっている。	4	3
日常的家事	配食サービスを担ってくれる事業者が減少してしまった。	1	1
	自治会の未加入者のゴミ出し等の生活支援の対応。	2	2
	郊外や山間部ではスーパーや小売店が閉店していくため食料品、日用品の買い物が課題となっている。	3	1
	エレベーターのない団地に住む高齢者の支援。	3	2
	ゴミの処分について（近所のゴミ集積所まで自力で運べない人への支援等）	4	2
非日常的家事	冬期間の除雪ボランティア（有償含む）が少なく、需要に対して供給が追いつかない。今後対象者が増加する見込みであり、人手不足が問題となっている。	1	1
	草取りなど介護保険外のサービスの担い手不足。	2	2
	日常生活における「ちょっとした困り事」を援助するような集まりがない。	3	3
外出の支援	バスの本数が少なく、又、タクシーでは料金が高く使いづらいため、移動に困難がある。	1	1
	町内に商店が少なく、移動するための交通手段も限られている。町外で買い物をするには移動にかかる費用負担が大きく、高齢となっても車を手放すことが難しい現状がある。	1	1
	福祉有償運送事業所の撤退により、きめ細かい移送支援が受けられない。路線バスが利用できない高齢者の移送が特に困難になっている。	1	1
	介護タクシー業者の撤退。	2	2
	合併により広域となったが、山間部は公共交通が少なく車がないと生活が大変であり、運転免許返納後の移動や買い物が困難といった課題がある。	3	1
	移送支援の充実に関する要望が多いが、既存の交通機関との兼ね合いもあり対応が難しい。	3	2
	既存の互助組織による支援はすでに手一杯であり、新たな住民主体の活動を育成する必要があると感じる。具体的な生活支援としては、通いの場等への外出支援サービスの必要性を感じるが、人材育成のノウハウが不足している。	4	3
見守り	身寄りのない一人暮らしの高齢者が増えており、交流が少なく、引きこもり気味の方に対して、見守りの目が届きにくくなってきている。	1	1
	独居で認知症の方の場合、支援が入るまでの生活、見守り等について。	2	2

	見守り支援について個人情報保護の取扱いが壁になっていると感じます。現状、本人に承諾を得る「手挙げ」が必要となるため、見守り支援の構築が困難と感じています。	3	3
	一人暮らし高齢者の増加に伴う見守り活動の負担増。	4	2
	タワーマンションなどセキュリティが厳しい部屋に住んでいる場合、訪問しづらく安否確認がとりづらいこと。	4	3
その他	支援やサービスを勧めても受け入れが悪く、セルフネグレクト傾向に陥る。	1	1
	疾患等で緊急入院すると、町外に住む子供等が一人で自宅に帰ることを心配し、在宅サービスで生活できると思われる人も退院後に施設へ行くことが多い。	1	1
	担い手不足。担い手の発掘や支援者とのマッチングを行う組織がないこと。	1	1
	民間企業が少なく、利用できるサービス等が限られている。	1	1
	災害時の避難支援。	1	1
	複合的課題を抱える高齢者世帯の増加（8050問題）。	2	2
	認知症等で本人の意思確認が難しくなった際の親族等への連絡が取りにくい案件が増加。連絡がついたとしても支援を拒否される場合も多く、後見市長申立事務が増加。死亡時にも支援がない場合が増加し、死亡後の手続きを行政がどのようなかたちでどこまで担うべきかも課題。	3	2
	高齢者の緊急連絡先を市で管理しているが、連絡をしても番号が間違っていたり変更になっていたりする。また緊急連絡先親族がいない独居高齢者がおり緊急時の対応が困難な場合がある。	3	2
	介護サービスが充実しているため、インフォーマルサービスの把握・周知が不十分。インフォーマルサービスを利用している高齢者が少ない。	4	2
	市営住宅や公団、都心部のマンション等の集合住宅において、日常生活に困難を抱える独居高齢者が多く存在するが、自治会に加入していなかったりと地縁団体との関係性が薄いことが多く、生活支援の取り組みを推進する際に地域から集合住宅が取り残されていくことが懸念される。	4	2
一人暮らしの高齢者が、支援を拒否することにより孤立するケースが散見される。	4	3	

IV. 実態調査 2 (市区町村老人クラブ連合会等を対象としたアンケート調査)

1. 調査概要

(1) 調査方法

都道府県の高齢者支援主管課(室)を経由して、市区町村の高齢者支援主管課(室)に調査票の配布依頼を実施した。その上で、市区町村の高齢者支援主管課(室)宛に調査票を郵送し、単位老人クラブ及び市区町村老人クラブ連合会に配布頂いた。回答頂いた調査票は、記載主体から直接返送頂くかたちで回収した。調査期間は、2019年10月15日から12月6日である。

(2) 調査対象

「大都市圏及び近接地域」「地方圏」の両方が含まれるよう考慮して抽出した単位老人クラブ及び市区町村老人クラブ連合会を調査対象とした。

■単位老人クラブ調査の対象地域と調査対象数

対象地域	抽出した 市区町村数	クラブ数 合計	市区町村別クラブ数			
			市	区	町	村
秋田県	5	362	332		30	
茨城県	9	401	364		15	22
東京都	11	751	168	568	15	
石川県	4	399	361		38	
大阪府	7	457	412		45	
和歌山県	6	195			192	3
山口県	3	303	303			
徳島県	5	160	102		58	
鹿児島県	8	228	166		62	
神奈川県	1	75	75			
千葉県	1	197	197			
北海道	1	19			19	
合計	61	3547	2480	568	474	25

■ 市区町村老人クラブ連合会調査の対象地域と調査対象数

対象地域	連合会数 合計	市区町村別連合会数			
		市	区	町	村
秋田県	25	13		9	3
茨城県	44	32		10	2
埼玉県	59	36		22	1
東京都	55	25	23	5	2
石川県	19	11		8	
岐阜県	41	21		18	2
静岡県	35	23		12	
大阪府	35	25		9	1
和歌山県	21			20	1
山口県	13	13			
徳島県	24	8		15	1
長崎県	21	13		8	
鹿児島県	42	18		20	4
北海道	13	12		1	
京都府	11	11			
福岡県	1	1			
神奈川県	1	1			
千葉県	10	10			
合計	470	273	23	157	17

(3) 調査項目

以下の調査票を用いて、調査を実施した。

令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
一人暮らし高齢者等の生活課題と互助組織による支援に係る調査研究事業
単位老人クラブご担当者様用調査票

本調査は、(株)NTT データ経営研究所が厚生労働省の補助のもと公益財団法人全国老人クラブ連合会の協力を得ながら実施するものです。お手数ですが、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

※なお、この調査票に記入された内容は、調査の集計のみに使用し他に流用することはありません。また、集計・報告にあたり、個別のクラブ名を公表することはありません。

【ご記入上のお願い】

- ① 回答は、該当する番号に○印をつけ、回答欄には文字か数字をご記入ください。
- ② 回答した調査票は、**令和元年11月22日(金)までに**、返信用封筒によりご返送ください。
- ③ 回答者は、原則として**会長**がご記入ください。
会長以外の方が記入した場合には、その方の役職名をご記入ください。

会長以外の記入者の役職	
-------------	--

- (1) はじめに、貴クラブが所在する都道府県及び市区町村をご記入ください。

都道府県	
市区町村	

- (2) **令和元年9月1日現在の**貴クラブの会員数は何人ですか。
年齢別の内訳が分かる場合は合わせてご記載ください。

		男性	女性
合計		人	人
内訳	69歳未満	人	人
	70～74歳	人	人
	75～79歳	人	人
	80歳以上	人	人

- (3) 貴クラブの**ここ1年間(平成30年4月1日～平成31年3月末日)**の入会者、逝去者、退会者は何人でしたか。人数をご記入ください。

入会者数	人
逝去者数	人
退会者数	人

- (4) 貴クラブでは、**平成30年度**に下表の番号1～21の活動を実施しましたか。

実施している場合は、「Q1 実施の有無」の「1 いる」に○をつけてください。また、実施している活動については、「Q2 会員以外にも参加の呼びかけをしているか」についても、ご回答ください。

「健康づくり活動」の分野

	Q1	Q2
	実施の有無	会員以外にも参加の呼びかけをしているか
1.健康・介護予防に関する学習	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
2.体操（いきいきクラブ体操、百歳体操等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
3.ウォーキング	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
4.ニュースポーツ（グラウンド・ゴルフ、輪投げ等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

「奉仕・ボランティア活動」の分野

	Q1	Q2
	実施の有無	会員以外にも参加の呼びかけをしているか
5.清掃活動	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
6.花いっぱい・緑化活動	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
7.リサイクル・資源ごみの回収	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
8.募金・寄付・寄贈（赤い羽根、古切手、雑巾等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

学習・趣味・親睦活動の分野

	Q1	Q2
	実施の有無	会員以外にも参加の呼びかけをしているか
9.定例会（新年会・忘年会、誕生日会等を含む）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
10.学習会・講話会（制度・施策、金融、パソコン等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
11.研修旅行・社会見学	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
12.趣味等（囲碁、将棋、手芸、カラオケ等）のサークル	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

地域活動の分野

	Q1	Q2
	実施の有無	会員以外にも参加の呼びかけをしているか
13.世代間交流活動	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
14.交通安全等、事故防止の取り組み	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

15.地域（子ども）見守りパトロール活動	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
16.消費者被害防止の取組み（詐欺防止のための情報提供、講話等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
17.災害時の対応に関する取組み（地震、台風・豪雨等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
18.地域行事への参加（祭り、運動会等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

生産・伝承活動の分野

	Q1	Q2
	実施の有無	会員以外にも参加の呼びかけをしているか
19.農産物の生産活動	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
20.その他の生産活動（手作品等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
21.伝承活動（郷土芸能、昔遊び、戦争体験、郷土史等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

(5) 貴クラブでは、**平成30年度**に下表の番号1～8の活動を実施しましたか。

実施している場合は、「Q1 実施の有無」の「1 いる」に○をつけてください。

また、実施している活動については、「Q2 会員以外が支援者・協力者として活動に参加していますか」「Q3 会員以外に対しても支援を実施していますか」「Q4 活動を行う上で、老人クラブ補助金以外の補助・助成を行政から受けていますか」についても、ご回答ください。

	Q1	Q2	Q3	Q4
	実施の有無	会員以外が支援者・協力者として活動に参加していますか	会員以外に対しても支援を実施していますか	活動を行う上で、老人クラブ活動補助金以外の補助・助成を行政から受けていますか
1.安否確認・声かけ活動・友愛訪問	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
2.サロン活動の実施	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
3.サロン活動の協力	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

		Q1	Q2	Q3	Q4
		実施の有無	会員以外が支援者・協力者として活動に参加していますか	会員以外に対しても支援を実施していますか	活動を行う上で、老人クラブ活動補助金以外の補助・助成を行政から受けていますか
日常生活を支援する活動	4.家事の手伝い（ごみ捨て、高い場所の掃除、窓ふき等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
	5.軽作業（電球交換・簡単な家屋の補修等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
	6.買い物や諸手続きの代行	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
	7.外出支援（買い物・通院・サロン活動場所への付添い等）	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない
8.施設に向けた活動（慰問や手伝い）		1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない	1 いる 2 いない

(6) 前問「Q1 実施の有無」で「2 いない」と回答した活動についてのみお答え下さい。

現在は実施していない活動について、貴クラブの今後の意向を教えてください。（ひとつだけ○）

日常生活を支援する活動	4.家事の手伝い （ごみ捨て、高い場所の掃除、窓ふき等）	1 今後実施したいと思っている 2 思っていない
	5.軽作業 （電球交換・簡単な家屋の補修等）	1 今後実施したいと思っている 2 思っていない
	6.買い物や諸手続きの代行	1 今後実施したいと思っている 2 思っていない
	7.外出支援 （買い物・通院・サロン活動場所への付添い等）	1 今後実施したいと思っている 2 思っていない

(7) 貴クラブが日頃から連携している関係機関・団体を教えてください。（いくつでも○）

1 町内会・自治会	9 協同組合
2 NPO 団体	10 シルバー人材センター
3 民生委員	11 社団・財団法人(シルバー人材センター以外)
4 地域包括支援センター	12 学校・教育機関
5 生活支援コーディネーター	13 民間企業（福祉サービスを提供している企業）
6 社会福祉協議会	14 民間企業（その他）
7 社会福祉法人	15 自治体
8 医療法人	

令和元年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
一人暮らし高齢者等の生活課題と互助組織による支援に係る調査研究事業

市区町村老人クラブ連合会ご担当者様用調査票

本調査は、(株)NTT データ経営研究所が厚生労働省の補助のもと公益財団法人全国老人クラブ連合会の協力を得ながら実施するものです。お手数ですが、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

※なお、この調査票に記入された内容は、調査の集計のみに使用し他に流用することはありません。また、集計・報告にあたり、個別の連合会名を公表することはありません。

【ご記入上のお願い】

- ① 回答は、該当する番号に○印をつけ、回答欄には文字か数字をご記入ください。
- ② 回答した調査票は、**令和元年11月22日（金）**までに、返信用封筒によりご返送ください。
- ③ 回答者は、原則として**事務局長**がご記入ください。
事務局長以外の方が記入した場合には、その方の役職名をご記入ください。

事務局長以外の記入者の役職

(1) はじめに、貴連合会の名称・所在地・ご連絡先をご記入ください。

名称	
所在地	
電話番号	() - () - ()

(2) **令和元年9月1日現在の**貴連合会の会員数と所属単位クラブ数について伺います。

2-1. 会員数は何人ですか。

男性	人
女性	人
計	人

2-2. 単位クラブはいくつですか。

所属する単位クラブ数	クラブ
------------	-----

(3) ここ3年間（平成28年4月1日～平成31年3月末日）に、単位クラブの新設・復活・休会・解散がありましたか。

3-1. 新設・復活・休会・解散した単位クラブ数はそれぞれいくつですか。

新しく結成したクラブ数	クラブ
復活したクラブ数	クラブ
休会したクラブ数	クラブ
解散したクラブ数	クラブ

3-2. 単位クラブの休会・解散の理由はどのようなものですか。
把握している限りでお答えください。（いくつでも○）

- 1 会長や役員のなり手がいなかった
- 2 事務作業など運営に係る負担が重かった
- 3 会員が高齢化して活動ができなくなった
- 4 補助金が減って活動ができなくなった
- 5 会員が減って組織が維持できなくなった
- 6 その他

3-3. 前問（3-2）でその他と回答された方に伺います。どのような理由かご自由にご記入ください。

(4) 貴連合会では、単位クラブの活動を支援するためにどのようなことを行っていますか。
実施している支援内容を選択ください。(いくつでも○)

【健康づくり活動に対する支援】

- 1 活動を推進するリーダーを養成している
- 2 学習・情報交換の場を設けている
- 3 優良事例・先進事例の情報提供を行っている
- 4 体操やウォーキング、各種ニュースポーツなど具体的な取り組みを提唱・普及している
- 5 関係機関・団体の協力を得ている
- 6 その他

【友愛（高齢者相互の支え合い）活動に対する支援】

- 1 活動を推進するリーダーを養成している
- 2 学習・情報交換の場を設けている
- 3 優良事例・先進事例の情報提供を行っている
- 4 安否確認やサロン活動など具体的な取り組みを提唱・普及している
- 5 関係機関・団体の協力を得ている
- 6 その他

(5) 単位クラブ活動を維持・発展するために、重要なことは何だと思えますか。お考えをご記載頂けますと幸いです。

(4) 過年度の調査との比較

「平成 26 年度老人クラブ実態調査」と共通している質問項目については、調査結果の比較を行った。

2. 調査結果（単位老人クラブ調査）

（1）アンケート調査票の回収結果

単位老人クラブ調査は 3,547 対象先のうち 1,456 先（41.0%）から回答が得られた。

	調査対象数	有効回収数	有効回収率
単位老人クラブ調査	3,547	1,456	41.0%

■単位老人クラブ調査回収結果の「平成 26 年度老人クラブ実態調査」との比較 （上段は老人クラブ数・下段は%）

	合計	市	区	町	村	無回答
今回の調査	1,456 100.0%	1,061 72.9	202 13.9	181 12.4	7 0.5	5 0.3
H26 年度調査	2,215 100.0%	1,375 62.1	503 22.7	296 13.4	27 1.2	14 0.6

（2）会員数

○1 老人クラブ当たりの会員数（平均）は 59.5 人。男性 23.4 人、女性 36.2 人であった。

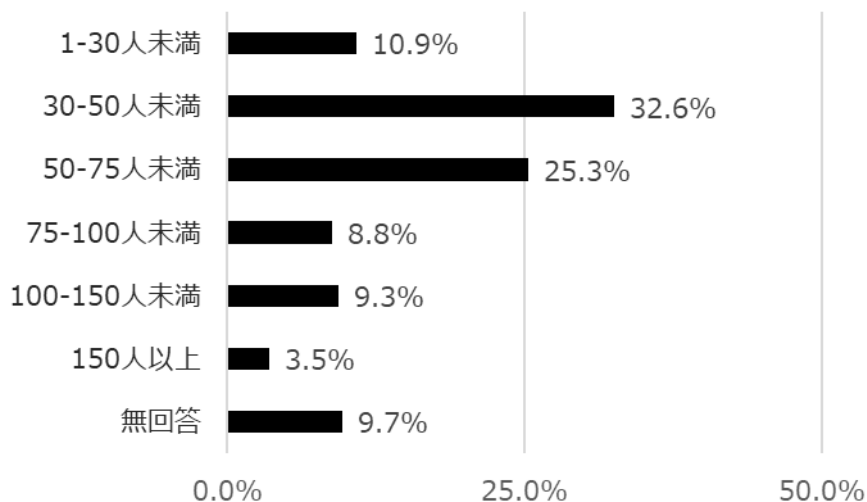
○前回の調査と比較すると、全体では 7.2 人減、性別では男女ともに減であった。

○会員数の区分は、「30-50 人」32.6%、「50-75 人」25.3%であり、この 2 区分で 6 割弱を占めた。

■会員数・男女別の人数（1 老人クラブ当たりの会員数・平均）

	計（会員数）	男性	女性
今回の調査	59.5	23.4	36.2
H26年度調査	66.7	25	41.7
差（今回－H26年度）	-7.2	-1.6	-5.5

■会員数の区分 (N=1,456)

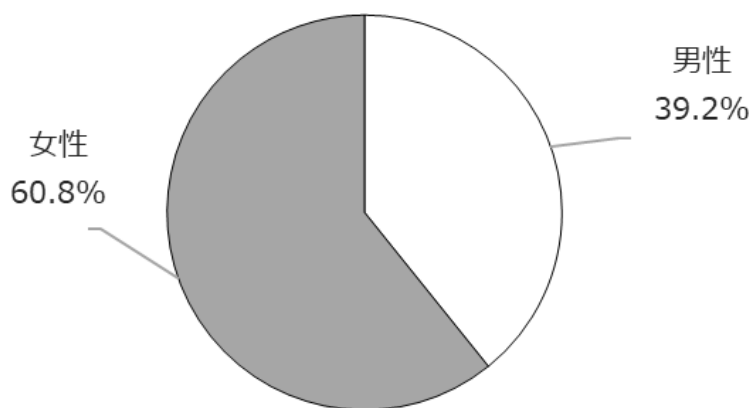


(3) 会員の性別

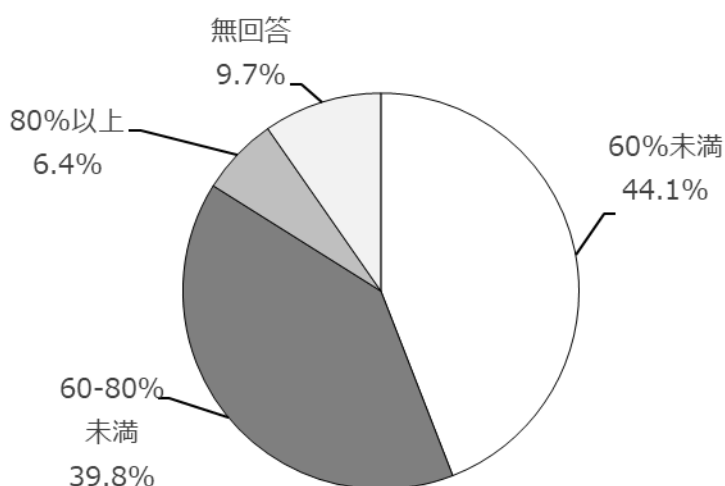
○会員の性別は、男性 39.2%、女性 60.8%であり、前回の調査とほぼ同じ割合であった。

○1 老人クラブ当たりの女性会員の割合は、「60%未満」 44.1%、「60-80%未満」 39.8%、「80%以上」 6.4%であった。

■会員・性別 (N=80,753人)



■ 1 老人クラブ当たりの女性会員の割合 (N=1,456)



(4) 会員の年齢

○年齢別の会員数 (平均) は、80 歳以上 24.7 人、70-79 歳 25.5 人、70 歳未満 5.7 人であり、前回の調査より、80 歳以上が -0.9 人減、70 歳未満が -4.1 人減であった。

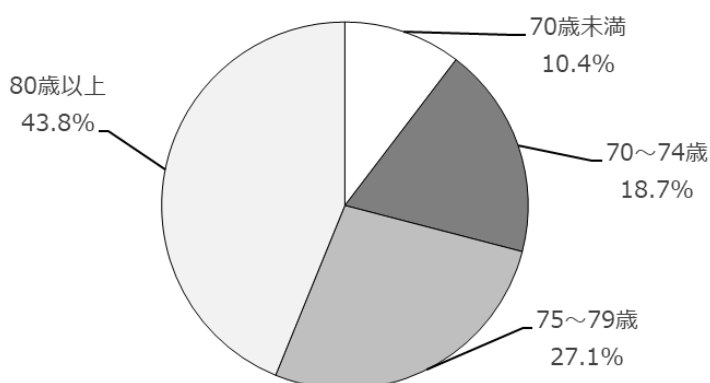
○年齢別の割合は、70-79 歳 (計) 45.6%、80 歳代以上 44.2%、70 歳未満 10.2%であった。前回の調査と比較すると、80 歳以上が 5.9 ポイント増、70 歳未満が 1.3 ポイント減であった。

○1 老人クラブ当たりの 75 歳以上の会員の割合は、「80%以上」31.8%、「60-80%未満」36.1%、「60%未満」18.7%であった。前回の調査より「80%以上」が 10.6%増加していた。

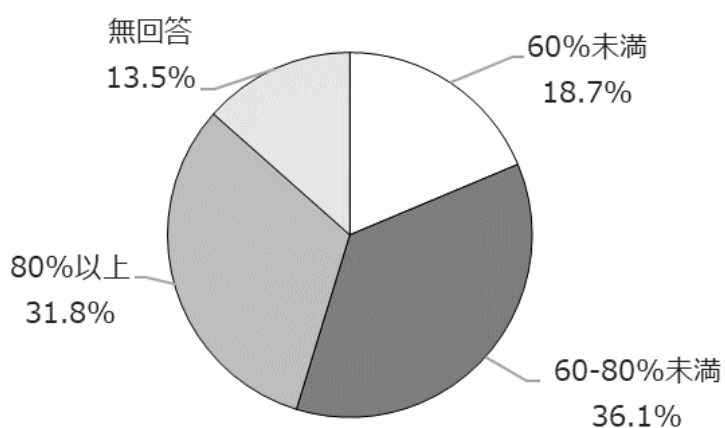
■ 会員・年齢別の人数 (1老人クラブ当たりの会員数・平均)

	70 歳未満	70-74 歳	75-79 歳	80 歳以上
今回の調査	5.7 人	10.3 人	15.2 人	24.7 人
H26年度調査	9.8 人	13.8 人	17.5 人	25.6 人
差(今回-H26年度)	-4.1 人	-3.5 人	-2.3 人	-0.9 人

■ 会員・年齢別 (N= 81,355)



■ 1老人クラブ当たり75歳以上の会員の割合 (N=1,456)



(5) 会員数の1年間の増減

- 1 老人クラブの直近 1 年間の入会者 (平均) は 4.1 人であり、これに対して退会者は合計 4.2 人であった。内訳は、逝去者 1.9 人、退会者 2.3 人である。結果として、直近 1 年間では全体で 0.1 人の減となっている。
- 前回の調査と比較すると、逝去者は同程度である一方で、入会者が 0.8 人の増、退会者 (合計) が 0.3 人の増であった。

■ 会員数の増減 (1 老人クラブ当たりの平均)

	入会者 (A)	逝去者 (B)	退会者 (C)	増減 (A-B-C)
今回の調査	4.1 人	1.9 人	2.3 人	-0.1 人
H26年度調査	3.3人	2.0人	1.9人	-0.6人

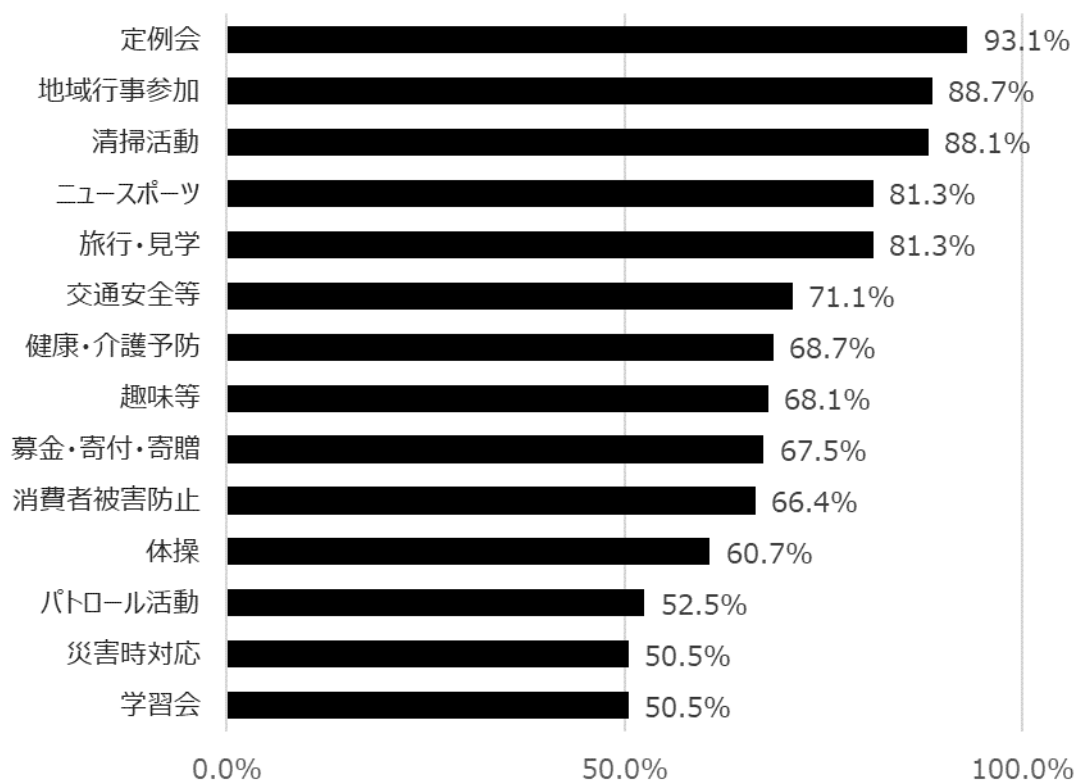
(6) 活動の実施状況

- 質問した 21 項目の活動のうち、老人クラブが実施している活動数は、平均 12 項目であった。分野別では、地域活動 3.8 項目、健康づくり活動 2.6 項目、学習・趣味・親睦活動 2.9 項目等であった。
- 各分野において、何らかの活動を 1 つ以上実施している割合を見ると、生産・伝承活動分野が 26.4%と最も少ない。他の分野では、ほとんどのクラブ（61-73%）で何らかの活動が行われていた。
- 実施率が高い活動は、「定例会」「地域行事への参加」「清掃活動」（88-93%）であった。次いで「旅行・見学」と「ニュースポーツ」が 81.3%であった。21 種類の活動について質問した結果、半数（50%）以上の老人クラブが実施している活動は 14 項目となっていた。
- 会員以外にも呼びかけをしている活動は、「地域行事への参加」「ニュースポーツ」「清掃活動」（53-39%）等であった。

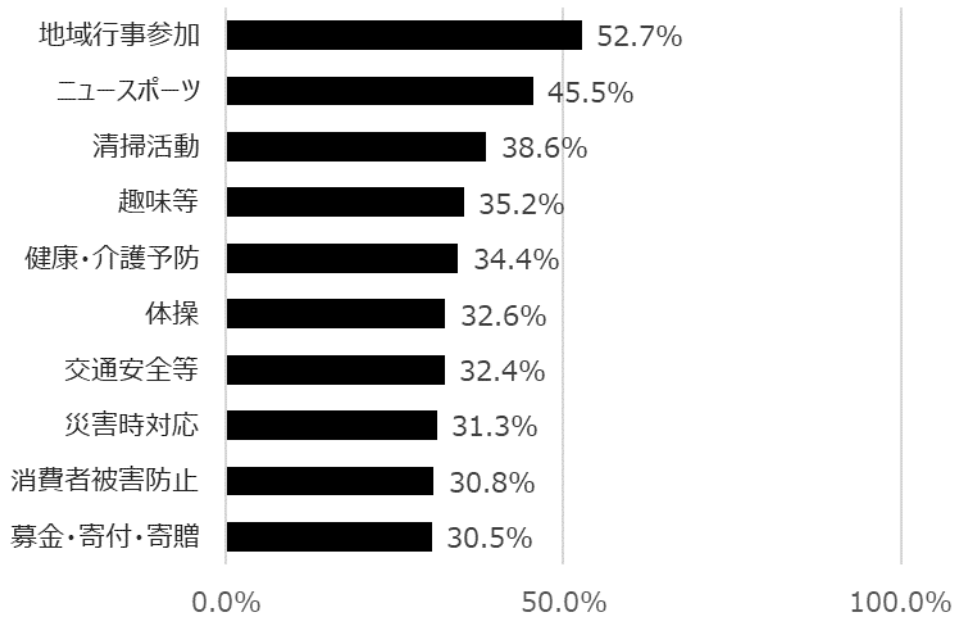
■ 老人クラブが実施している活動の割合と活動数（N=1,456）

分野	各分野において1つ以上の活動を実施しているクラブの割合	活動数（平均）
健康づくり活動	64.7%	2.6 項目
奉仕・ボランティア活動	61.5%	2.5 項目
学習・趣味・親睦活動	73.2%	2.9 項目
地域活動	63.2%	3.8 項目
生産・伝承活動	26.4%	0.8 項目
		計 12.6項目

■ 実施している活動（複数回答、50%以上、N=1,456）



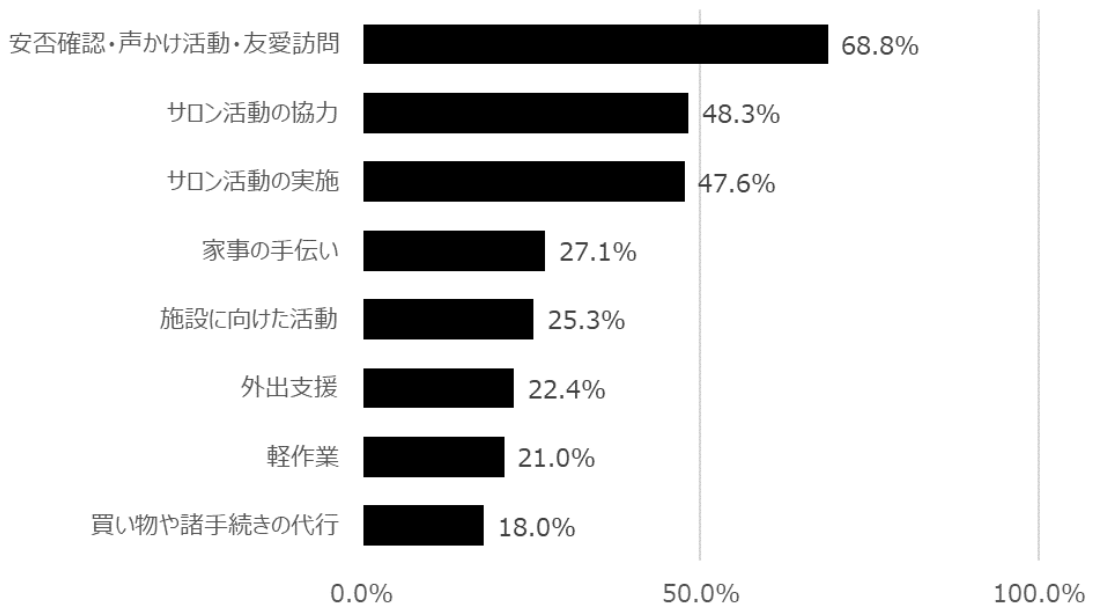
■ 会員以外にも参加を呼び掛けている活動（複数回答、上位10項目、N=1,456）



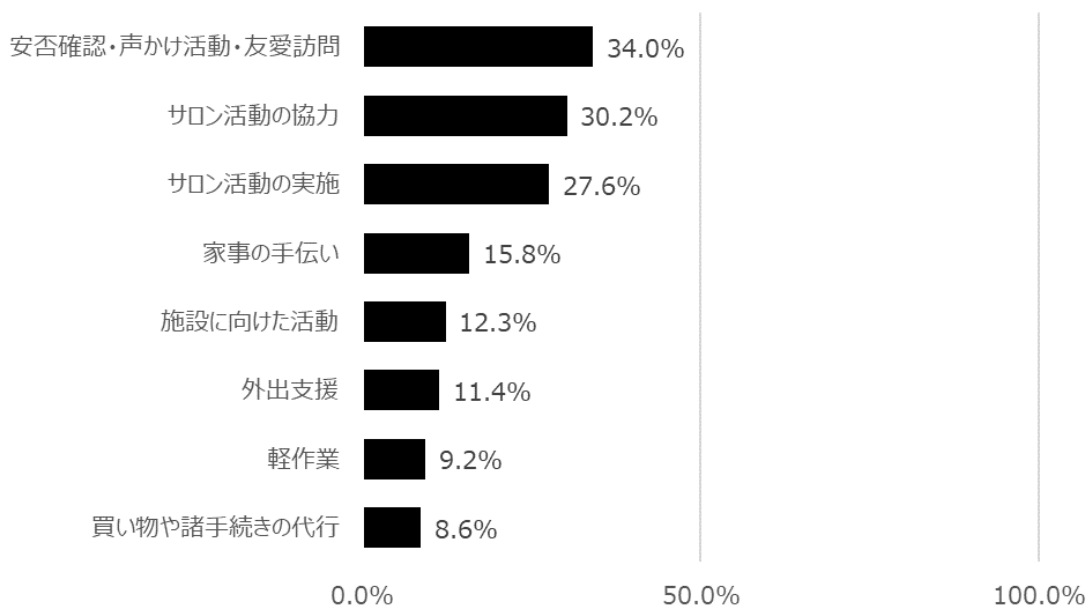
(7) 生活支援等の活動

- 実施率が最も高い活動は、「安否確認・声かけ活動・友愛訪問」であり、69.9%の老人クラブが実施していた。
- 「安否確認・声かけ活動・友愛訪問」は、会員以外の参加・会員以外への支援・老人クラブ活動補助以外の補助・助成を受けている活動のいずれの項目でも割合が一番高くなっていた。

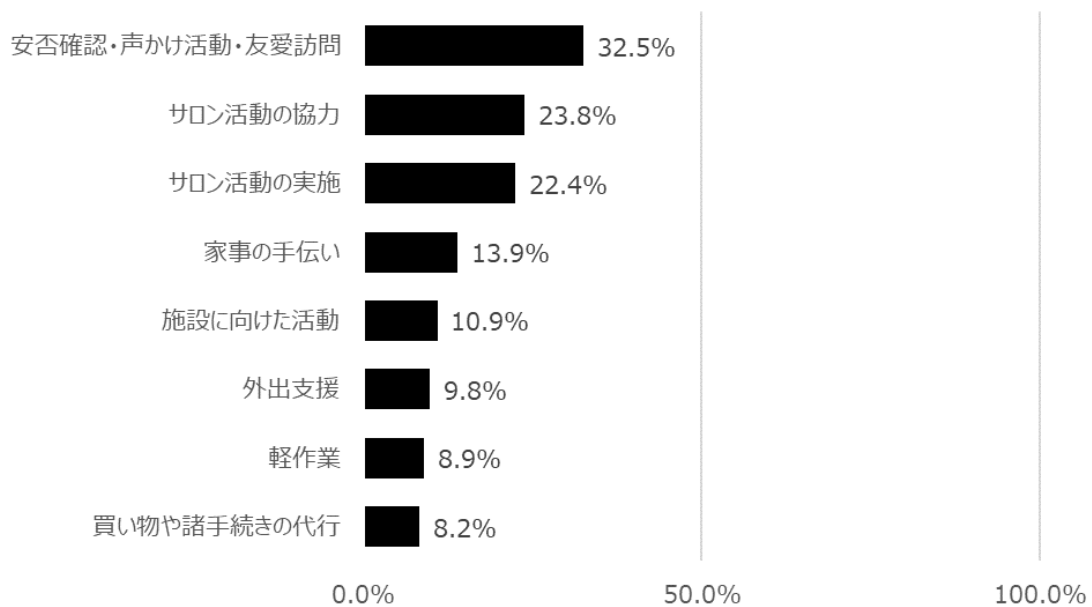
■ 実施している支援活動（複数回答、N=1,456）



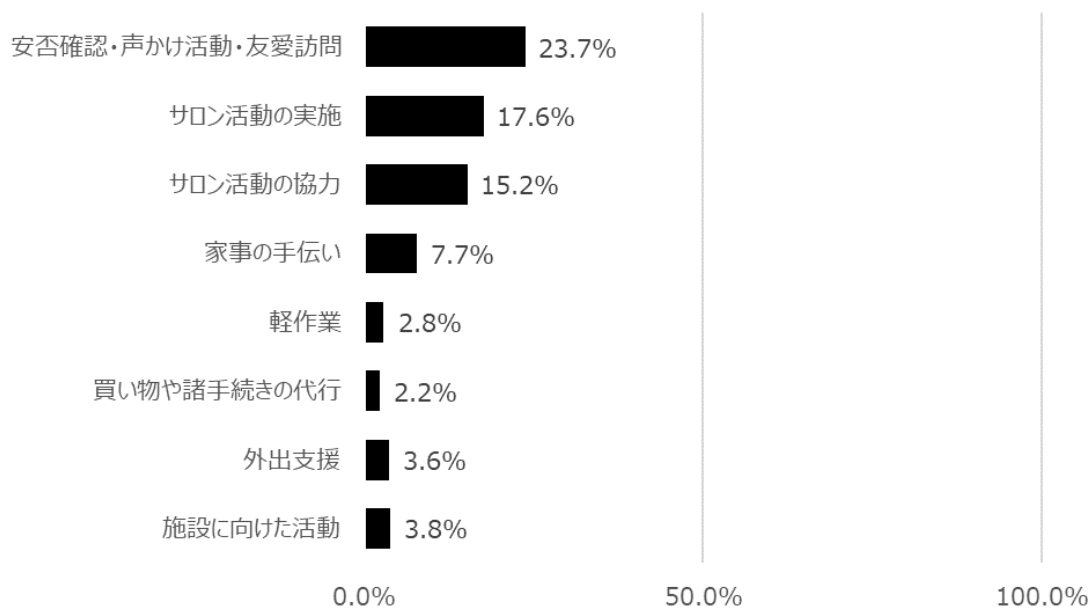
■ 会員以外の参加の有無（複数回答、N=1,456）



■ 会員以外への支援活動の実施（複数回答、N=1,456）



■ 老人クラブ活動補助以外の補助・助成の有無（複数回答、N=1,456）



（8）未実施活動の今後

○今後の意向として、実施したいと思っている割合が高い活動は「外出支援」（41.6%）であった。

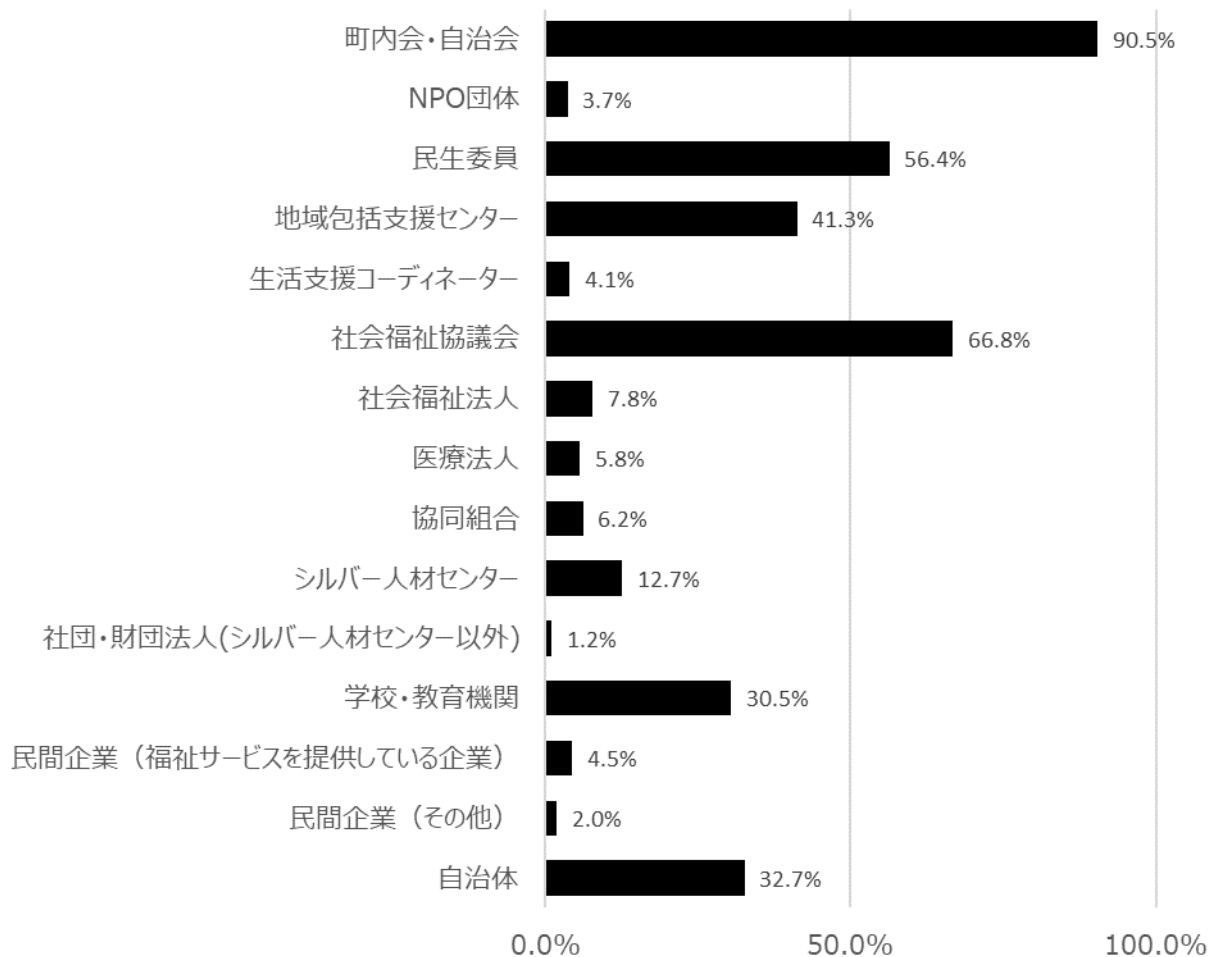
■ 今後の実施について

	今後実施したいと思っていると回答した老人クラブ数	割合
家事手伝い	421	39.1%
軽作業	404	37.4%
買い物や諸手続きの代行	373	34.9%
外出支援	446	41.6%

(9) 連携している関係機関・団体

○連携している関係機関・団体としては、「町内会・自治会」「社会福祉協議会」「民生委員」が多く、50%以上の老人クラブにて連携が図られていた。

■ 連携している関係機関・団体（複数回答、N=1,456）



3. 調査結果（市区町村老人クラブ連合会調査）

（1）アンケート調査票の回収結果

市区町村老人クラブ連合会調査は、470 対象先のうち、306 先（65.1%）から回答が得られた。

	調査対象数	有効回収数	有効回収率
市区町村老人クラブ連合会調査	470	306	65.1%

■市区町村老人クラブ連合会調査回収結果の「平成 26 年度老人クラブ実態調査」との比較 （上段は老人クラブ数・下段は%）

	合計	市	区	町	村	無回答
今回の調査	306 100.0%	193 63.1	12 3.9	94 30.7	6 2.0	1 0.3
H26 年度調査	316 100.0%	177 56.0	32 10.1	93 29.4	11 3.5	3 0.9

（2）会員数

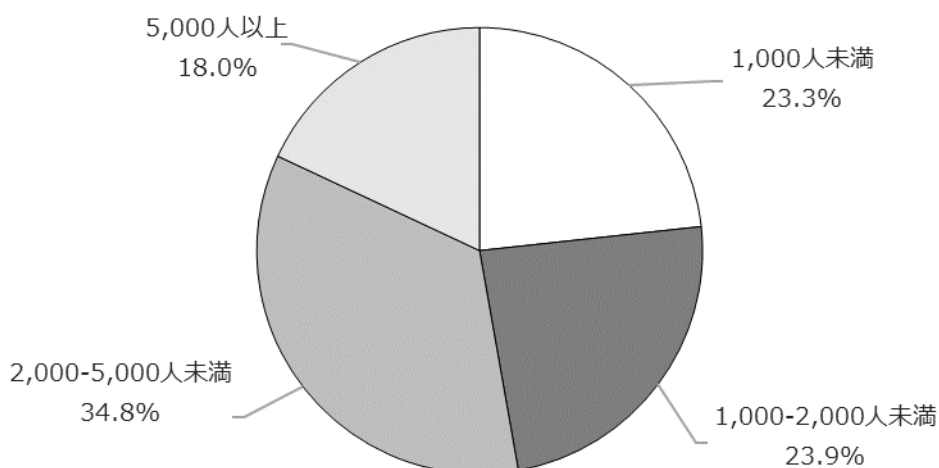
- 1 連合会の会員数（平均）は 762 人であり、内訳は男性 304 人（39.9%）、女性 457 人（60.1%）であった。市区町村別では、市が 2,312 人で最多、次いで町 362 人、区 359 人、村 13 人の順であった。
- 区分では、「2,000-5,000 人未満」が最も多く 34.8%、次いで「1,000-2,000 人未満」23.9%、「1,000 人未満」23.3%。2,000 人未満の合計が 47.2%であった。
- 所属する老人クラブ数では、「50-100 未満」が最多で 27.5%であった。

■1 連合会当たりの会員数（平均）

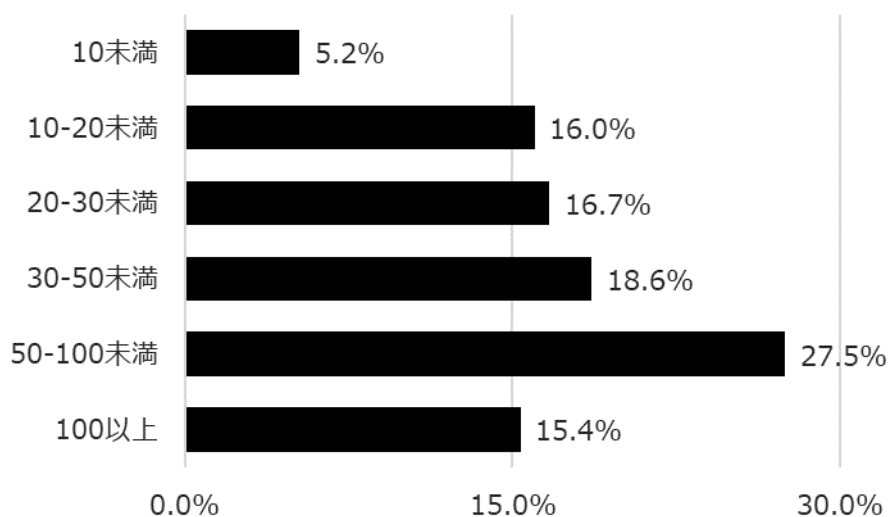
		連合会数	会員数	男性	女性
全体		305	762 人	304 人	457 人
市 区 町 村	市	193	2,312 人	945 人	1,368 人
	区	12	359 人	117 人	242 人
	町	94	362 人	150 人	213 人
	村	6	13 人	6 人	7 人

※男女別の無回答を除いて集計、市区町村別の無回答は省略。

■ 会員数の区分 (N=306)



■ 所属する老人クラブ数 (N=306)



(3) クラブ数の増減

- 1 連合会当たりの過去3年間のクラブ数の増減は、「新設(増)」1.1クラブ、「復活(増)」0.4クラブ、「休会(減)」1.8クラブ、「解散(減)」3.6クラブであり、全体では4.0クラブの減であった。
- 1 クラブ以上の増減があった連合会の割合は、新設 38.2%、復活 22.9%、休会 41.8%、解散 57.5%であった。
- 休会・解散の理由で最も多かったものは「会長や役員のみなり手がいなかった」で約40%。次いで「会員が高齢化して活動ができなくなった」が約25%であった。

■ 1 連合会当たりの単位老人クラブ数と過去 3 年間の増減（平均・単位はクラブ数）

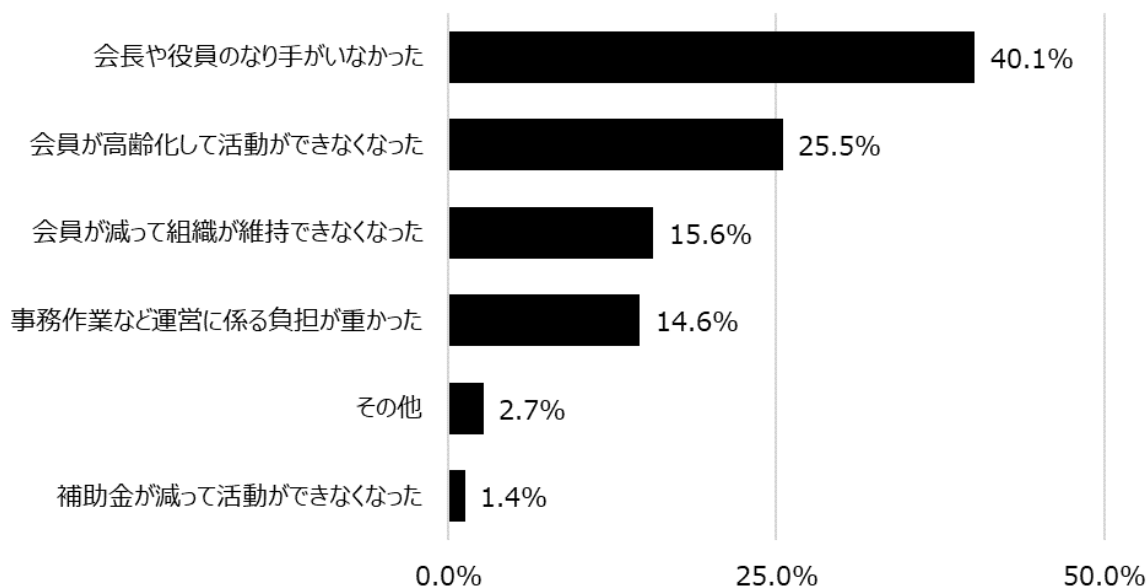
	連合会数	老人 クラブ数	新設 (A)	復活 (B)	休会 (C)	解散 (D)	増減
今回の調査	306	60.0	1.1	0.4	1.8	3.6	-4.0
H26年度調査	316	63.3	1.2	0.4	1.4	3.3	-3.1

※増減 = (A+B) - (C+D)

■ 1 連合会に所属する単位老人クラブ数の過去 3 年間の増減（N=306）

要因	1 クラブ以上の増減があっ た連合会の割合	内訳	
		1-2クラブ	3クラブ以上
新設	38.2%	26.8%	11.4%
復活	22.9%	19.6%	3.3%
休会	41.8%	21.6%	20.3%
解散	57.5%	22.2%	35.3%

■ 休会・解散の理由



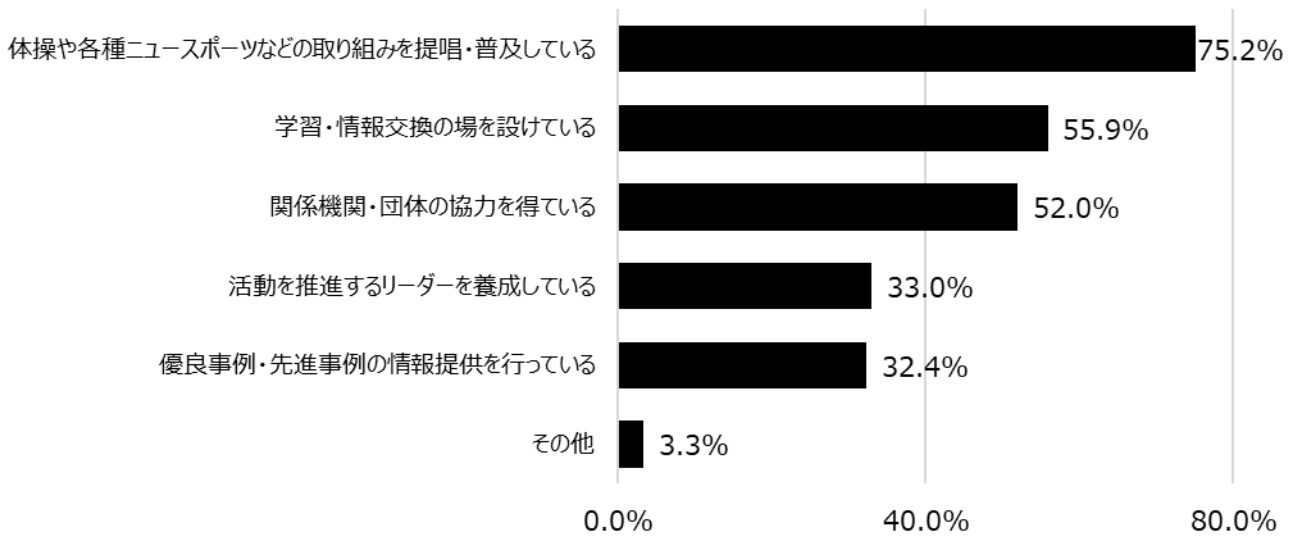
■ 休会・解散の理由 その他の記載内容（抜粋）

休会・解散の理由
補助金申請・報告書作成等の手続が複雑になり、高齢役員では対応できない
定年延長や、趣味・サークル活動の多様化等の要因による新規加入者の減少
単位老人クラブの会長同士の意思疎通の悪化による退会
高齢者サロンへの移行（老人クラブよりも負担が少なく、助成も多い）
会長の突然の死亡で次期会長候補が不在であったため

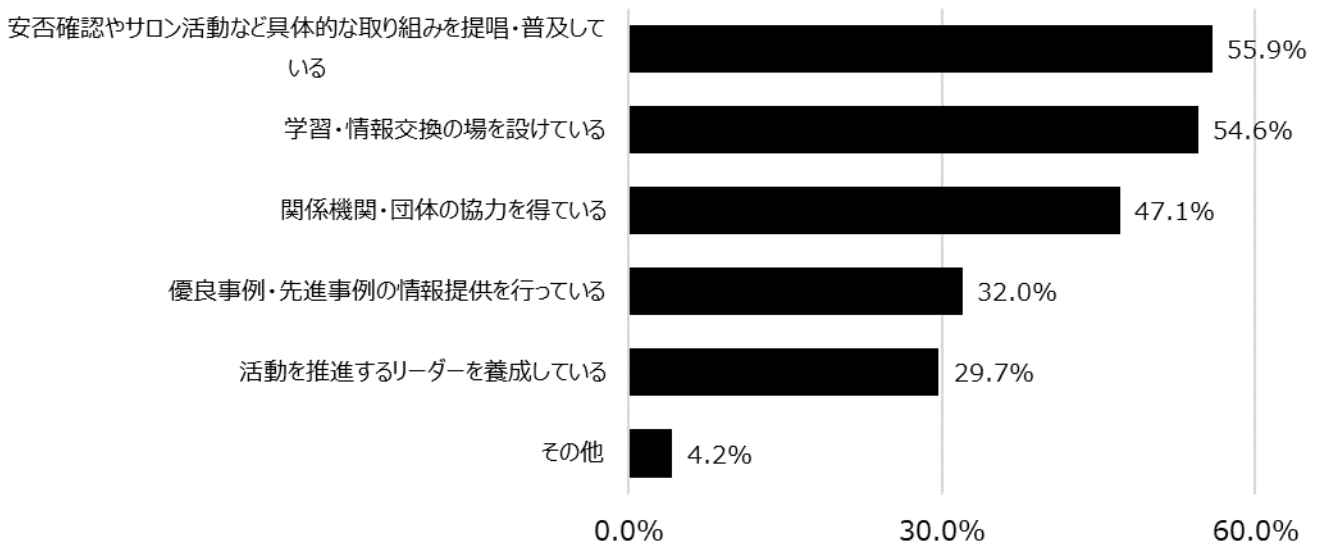
(4) 単位クラブに対する活動支援

- 健康づくり活動に対する支援としては、「体操やウォーキング、各種ニュースポーツなど具体的な取り組みを提唱・普及している」「学習・情報交換の場を設けている」「関係機関・団体の協力を得ている」等の実施が多く、全体の半数以上の市区町村老人クラブ連合会で実施されていた。
- 友愛活動に対する支援としては、「安否確認やサロン活動など具体的な取り組みを提唱・普及している」「学習・情報交換の場を設けている」等の実施が多く、全体の半数以上の市区町村老人クラブ連合会で実施されていた。

■ 健康づくり活動に対する支援（複数回答、N=306）



■ 友愛活動に対する支援（複数回答、N=306）



(5) クラブ活動維持・発展のために重要なこと(抜粋)

クラブ活動維持・発展のために重要なこと
未加入の高齢者に対する加入促進活動
定年延長が言われているなか、現役世代にも活動に参加していただく取組(仕掛け)
行政(国、県、市)による老人クラブ加入に係るPR
補助金申請手続き業務の簡素化
活動の手助けとして区役所の職員による支援
自治区や福祉委員・民主委員との調和や協力
行事に気軽に参加出来るような環境づくり
会員が自主的に活動できるようなサポート体制を充実すること
老人クラブの原点である「高齢者」同士の御茶飲み会的組織の構築
活動を推進するリーダーの養成
会長・役員のみならずの育成、女性会長の育成
第2老人クラブの創設(65歳~75歳の方と85歳以上の方(親と同年齢)と一緒にカラオケや誕生会等参加しない)
地域コミュニティへの参加、世代間交流の充実
新規会員の積極的な勧誘と会員増強を達成したクラブの成功事例の共有
「老人クラブ」という名称に抵抗を感じて加入しない方がいるため、名称変更の検討

V. 実態調査3（モデル地域を対象としたヒアリング調査）

1. 調査概要

（1）調査方法

対面での聞き取りにより、調査を実施した。調査期間は、2019年12月3日から12月9日である。

（2）調査対象

座長ならびに検討委員会での助言を踏まえて、以下の調査対象先を選定した。選定にあたっては、人口規模の異なる市区町村が対象になるよう、また取り組み領域の異なる事例が対象になるよう留意した。

所属市区町村	住民組織名
東京都杉並区 人口：562,065人	NPO法人竹箒の会
広島県呉市 人口：228,030人	呉市老人クラブ連合会
岩手県花巻市 人口：94,127人	高松第三行政区ふるさと地域協議会
京都府笠置町 人口：1,284人	笠置町老人クラブ連合会

（3）調査項目

以下のヒアリングシートを用いて、調査を実施した。

ヒアリングシート（自治体職員向け）

1. 一人暮らし高齢者の生活支援に関する「課題」について

- ・どのような課題が存在しているか
- ・自治体として対応が必要と考えている課題は何か

2. 一人暮らし高齢者の生活支援に関する「取組み状況」について

- ・どのような主体が取組みの中心となっているか
- ・自治体は取組みにどのような関わりをしているか

3. 住民組織（町内会・自治会、NPO団体、老人クラブ）の組織状況について

- ・活動状況の推移について（過去から現在までの役割・規模等の変遷）
- ・住民組織間の役割分担、連携の状況について

4. 一人暮らし高齢者の生活支援に関する今後の「方針」について

- ・今後どのような対応が必要と考えているか
- ・住民組織に期待する役割はなにか

5. 仮説に対するご意見

ヒアリングシート（地域互助的な役割を担う住民組織向け）

1. これまでの経緯

- ・組織の成り立ち
- ・主要メンバーの参画のきっかけ
- ・地域互助的な取組みを開始した経緯

2. 現在の活動内容

- ・主たる活動内容
- ・一人暮らし高齢者等の生活支援に関する取組み状況
- ・地域の一人暮らし高齢者等のカバー率
- ・他の組織との連携体制
- ・活動の制度上の位置付け（総合事業との関わり等）

3. 活動の成果

- ・活動から派生する互助機能（仲間意識による日常生活の助け合い、緊急時の確認等）
- ・活動をとおした会員（支援側）の健康度や意欲の変化

4. 今後の展望・課題認識

5. 仮説に対するご意見

2. 調査結果

調査結果から得られた示唆を以下に整理する。

本調査のヒアリング先から得られた傾向であり、以下の記載以外のかたちでも取り組みが進められている事例があり得る点には、留意する必要がある。

① 取り組みの実施自体が地域内に活力を生み、更なる相互支援につながる等の波及を生んでいる

- ・呉市老人クラブ連合会では、「支え合いホームヘルプサービス」の支援員側からも「自分たちでできることはやっていきたい」「地域の中で頼られていると実感し、やりがいがある」等の声が上がっている
- ・花巻市 高松第三行政区のふるさと地域協議会では、活動を始めてから、行政区内の助け合い（支え合い）の意識が高まっている。また、他の地域の方から地域商材や活動について賞賛される等の経験が得られ「地域の可能性」を感じられることで、地域の方々に自信と誇りが生まれてきている。
- ・杉並区「ちょこっと支え合い」では、活動ボランティアメンバー間での相互支援（旅行等で長期不在時のペットの餌やり、植栽の水やり、粗大ごみ搬出、照明器具交換 等）が生まれている
- ・呉市の地区老人クラブ連合会では、生活支援の取り組みを推進していく中で、会員数の減少に歯止めがかかっている

② 取り組みの主要メンバーは、人のつながりの中から直接の声掛けにより参画していること

- ・花巻市 高松第三行政区のふるさと地域協議会の設立にあたっては、あて職では活動を継続できないとの考えのもと、地域課題の解決の必要性を感じている有志に直接声をかけている
- ・杉並区「ちょこっと支え合い」の代表は、企業活動を通して出会った人の声掛けがきっかけで、地域の取り組みに参画するようになっている

③ 自発的に会合に参加した方々（会費を自己負担 等）の議論から取り組みが生まれている

- ・呉市の地区老人クラブ連合会では、会費自己負担の会合で議論を重ねた結果、多くの生活支援の取り組みが生まれている
- ・花巻市 高松第三行政区ふるさと地域協議会では、地域課題の解決の必要性を感じている有志が会費自己負担で始めた意見交換会にて問題意識が共有され、取り組みにつながっている

④ ビジョンの明確化から取り組みの担い手が生まれている

- ・呉市老人クラブ連合会では、2014 年から地域包括ケアシステムについての勉強会や視察を実施してきた。先行した情報共有によって、地区老連、単位老人クラブから自発的な取り組みが生まれている
- ・花巻市 高松第三行政区ふるさと地域協議会では、大学教授の指導を得ながらボトムアップで『自分たちの地域のビジョン』の策定に取り組んだ。農業・福祉・交流をテーマにした住民手づくりの『ふるさと交流福祉計画』は、地域づくりの大きな一歩となった

⑤ 土台となる既存の活動が継続的な取り組みを支えている

- ・杉並区「ちょこっと支え合い」では、支援料金の低さが普及の要因の一つとなっており、「ゆうゆう館」と

いう既存の施設活動を土台とした取り組みであることから低い料金設定が可能となっている

- ・杉並区「ちょこっと支え合い」で事務局を担う取り組みの主要メンバーの一人は、母体となる NPO 法人の就労支援講座を通して取り組みに参画するようになっている
- ・花巻市 高松第三行政区ふるさと地域協議会では、6 次産業化の収益をもって生活支援サービスが展開されている

⑥ 生活支援の継続にあたっては、マッチング等を担う事務局の負担をいかに軽減できるかが重要となる

- ・杉並区「ちょこっと支え合い」では、マッチングを担う事務局の役割が非常に重要である一方で、善意の無償ボランティアに頼るかたちにならざるを得ないのが現状である
- ・笠置町老人クラブ連合会では、社協の執務時間を申込時間として、社協に申し込み窓口を担ってもらっている。また、利用料金の集金、協力員への支払い等の金銭授受の部分も社協に担ってもらっている

⑦ 地縁関係が希薄な地域では、制度間のギャップを埋める取り組みが互助組織に期待されている可能性がある

- ・杉並区「ちょこっと支え合い」では、介護認定の申請期間中の生活を支えるために地域包括ケアセンターから紹介を受けるケースが多く、制度間のギャップを埋める取り組みが期待されている

⑧ サービス資源の乏しい地域では組織間の連携が強く求められているが、個人情報共有の問題が大きな壁となっている

- ・呉市老人クラブ連合会、花巻市 高松第三行政区ふるさと地域協議会、笠置町老人クラブ連合会では、民生委員等との連携が重要と考えている一方で、個人情報保護の観点から情報共有等の連携が難しいと感じている

(1) NPO 法人竹箒の会

住民組織	NPO 法人竹箒の会（東京都杉並区）
ヒアリング対象者	NPO 法人竹箒の会 副理事長 橋詰信子 様 ちよこつと支え合い 事務局 井田俊雄 様
実施日時・場所	2019 年 12 月 3 日（火） 14:00～15:30 @ゆうゆう高井戸西館
ヒアリングのポイント・得られた示唆	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちよこつと支え合い」を進める団体の代表は、企業活動をとした人のつながりがきっかけで、地域の取り組みに参画するようになった。 ・事務局を担う取り組みの主要メンバーの一人は、母体となる NPO 法人の就労支援講座を通して取り組みに参画するようになった。 ・支援料金の低さが普及の要因の一つとなっており、「ゆうゆう館」という既存の施設活動を土台とした取り組みであることから低い料金設定が可能となっている。 ・介護認定の申請期間中の生活を支えるために地域包括ケアセンターから紹介を受けるケースが多く、制度間のギャップを埋める取り組みが期待されている。 ・活動ボランティアメンバー間での相互支援（旅行等で長期不在時のペットの餌やり、植栽の水やり、粗大ごみ搬出、照明器具交換 等）が生まれている。 ・マッチングを担う事務局の役割が非常に重要である一方で、善意の無償ボランティアに頼るかたちにならざるを得ないのが現状である。
ヒアリング概要	<p>1. これまでの経緯</p> <p><組織の成り立ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹箒の会は、2000 年に設立された NPO 法人であり、高齢者の就業支援やパソコン・スマートホンの講習会の開催等を行っている。また、杉並区から委託を受けて、高齢者施設「ゆうゆう館」の管理運営を行っている。 ・地域互助活動「ちよこつと支え合い」は、NPO 法人とは別に任意団体を設立して取り組みを行っており、その代表は NPO 法人竹箒の会の副理事長である橋詰様である。 <p><主要メンバー参画のきっかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人竹箒の会は理事長が退職のタイミングで設立されており、橋詰様は理事長と企業在職中から企業活動を通しての知り合いであった。NPO 法人化されてから、橋詰様は企業勤務の傍らで法人の活動の手伝いをしていた。そして、退職を契機に地域活動に多くの時間を使うようになり、現在は NPO 法人の副理事長を務めるようになっている。 ・現在「ちよこつと支え合い」の事務局を担っている井田様は、「ゆうゆう館」で開催された就労支援講座の受講者であった。地域互助活動の立ち上げを考えていた橋詰様から誘われる形で取り組みに参画し、中核的な役割を担うようになっている。 <p><地域互助的な取り組みを開始した経緯></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアセンターに協力員として登録している方々に対して、活躍の機会

を提供できないかと考え始めたことがきっかけである。地域内の団地の自治会や町会、高齢者クラブ等が前向きで協力が得られる目途が立ったことから杉並区のささえあい活動助成（長寿応援ファンド）に申請を行い、助成が得られたため、地域包括ケアセンターも交えて具体的な話し合いを行うようになった。

2. 現在の活動状況

<主たる活動内容>

- ・高齢者のちょっとしたお困り事に対して、依頼を受けて支援する活動「ちょっとした支え合い」を行っている。現在は月100件程度の支援件数であり、同行作業（通院や買い物）、室内軽作業（電球取り換え等）、室外軽作業（雑草取り等）等を行っている。
- ・事務局では、支援依頼を受けて登録ボランティアとのマッチングを行っている。機械的なマッチングではなく、人となりを踏まえて適切なボランティアの方をお願いをしており、マッチングが叶わない際は事務局自らが支援を行うこともある。また、「ゆうゆう館」等での交流を通して支援が必要に思われる方に対しては事務局側から声掛けを行うこともある。
- ・依頼者は30分200円を料金として支払うこととしている（パソコン指導以外の諸作業のケース、遠隔地の場合は別途交通費）。料金のうち、100円は支援を行ったボランティアの方にお支払いし、残りの100円を運営諸経費に充当している。「ゆうゆう館」という既存の施設活動を土台とした取り組みであることから低い料金設定が可能となっており、事務局スタッフは善意の無償ボランティアではあるものの活動としては収支均衡に至っている。
- ・登録ボランティアは地域にお住いの方々であり、「ゆうゆう館」を日頃から利用してくれて顔の見える関係を築けている方が多い。

<一人暮らし高齢者等の生活支援に関する取り組み状況>

- ・直近支援実施の92人のうち一人暮らしの方は72人であり、78%を占めている。また、72人のほかにも同居家族の支援が受けられていないケースは多い。

<他の組織との連携体制>

- ・地域包括ケアセンターからの紹介で支援を行うケースが非常に多い。介護認定の申請期間中の生活を支える役割を期待されて、介護保険サービスが提供されはじめるまでの間をつなぐことが多い。

<活動の制度上の位置付け（総合事業との関わり等）>

- ・立ち上げ時にささえあい活動助成（長寿応援ファンド）の支援を受けた他、パンフレット作成等では杉並区社会福祉協議会助成金の支援を受けたことがあ

る。

3. 活動の成果

＜活動から派生する互助機能（仲間意識による日常生活の助け合い等）＞

- ・活動ボランティアメンバー間での相互支援（旅行等で長期不在時のペットの餌やり、植栽の水やり、粗大ごみ搬出、照明器具交換 等）が生まれている。
- ・活動当初から「ちょこっと支え合い（助けられた側も自分にできる小さなことで助ける側に）」をコンセプトとしており、軽度認知症で外出支援を受けた方が得意とされている裁縫で支援側にまわったケース等もある。マッチングを担う事務局が地道にコミュニケーションを取り、それぞれの得手不得手を把握していることが重要となる。

＜活動をとおした会員（支援側）の健康度や意欲の変化＞

- ・活動を継続する中では、ボランティアメンバーも高齢化に伴い、健康障害が見受けられるようになってきている。また、メンバー家族の疾病により、活動中止あるいは制限となるケースもある。

4. 今後の展望・課題認識

- ・親身な支援を低料金で行っていることから口コミで支援件数が増え、支援体制（ボランティアメンバー及び事務局）の観点からこれ以上支援件数を増やすことは難しい状況となっている。区内で同様の取り組み拠点が増えていくことが重要だと考えている。
- ・マッチングを担う事務局の役割が非常に重要である一方で、善意の無償ボランティアに頼るかたちにならざるを得ないのが現状である。取り組み拠点が増えていくためには、事務局の担っている役割に対して行政からの支援が必要なのではないかと考えている。

以上

(2) 呉市老人クラブ連合会

住民組織	呉市老人クラブ連合会（広島県呉市）
ヒアリング対象者	呉市老人クラブ連合会 会長 鈴木孝雄 様 呉市 福祉保健部 介護保険課 課長 多田有紀 様 呉市 福祉保健部 介護保険課 主事 森野秀昭 様
実施日時・場所	2019年12月4日（水）13:00～14:30 @呉市役所
ヒアリングのポイント・得られた示唆	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合い活動の強化にあたって、2014年から呉市老人クラブ連合会として地域包括ケアシステムについての勉強会や視察を実施してきた。先行した情報共有によって、地区老連、単位老人クラブから自発的な取り組みが生まれている。 ・よきリーダーをどう育てていくかが最大の課題となっている。老人クラブの中で次のリーダーが見つかるかどうか分からない。どこの地域にも潜在的にはいるはずなので、シルバー人材センター等と連携して人材をプールするような仕組みを作れないかと考えている。 ・活動から派生するかたちで、支援員側からも「自分たちでできることはやっていきたい」「地域の中で頼られていると実感し、やりがいがある」等の声が上がっている。 ・「このままでは老人クラブが消滅する」と危機意識を持ち、会費持ち寄りの自発的な研修会を重ねてきた地区老連がある。そこでは、各単位老人クラブにて多数の「ついで支援（本来の友愛活動や奉仕活動の延長での生活支援）」が実績として上がってきている。また、これまで会員数減少に悩んでいたのだが、活動開始とともに減少が止まっている。 ・地域の民生委員の方が老人クラブの会員でもあり、活発に動いてくれている場合は、スムーズに取り組みが進んでいる。一方で、民生委員だから老人クラブに入れないと言う人もいる。個人情報の観点から情報共有が難しいことが、取り組みの阻害要因となっている場合がある。 ・活動が地域ぐるみになって行われるようになっていかないといけないと感じている。地域では全ての主体がつながって取り組みを推進していく必要がある中で、自治会、民生委員、老人クラブを所管する行政側の課が異なっており、縦割りの所管体制のままでは問題があると感じている。
ヒアリング概要 (地域互助的な役割を担う住民組織向け)	<p><u>1. これまでの経緯</u></p> <p><組織の成り立ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原点は「老後の幸せは自らの手で切り開こう」という考えである。全国的な動きと同じ時期に、呉市においても自発的に設立が進められていった。老人クラブがない地域では、民生委員が支援をしながらつくり上げていった経緯がある。 <p><地域互助的な取り組みを開始した経緯></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所のつながりが希薄な時代となっている中で、平均年齢が伸び、元気でない高齢者も増えてきた。一方で、総合事業の推進と共に介護保険要支援認定

者を互助で支える必要性が増してきている。そのような世の中の流れのなかで、「元気な高齢者が元気を維持する」「元気な高齢者が困っている仲間を支援する」ということが老人クラブの本来の目的であったとの考えのもと、支え合い活動の強化を進めることとした。

- ・支え合い活動の強化にあたって、2014年から呉市老人クラブ連合会として地域包括ケアシステムについての勉強会を開始してきた。行政や他の関係者（民生委員等）の関心が徐々に高まってきたのを受けて、2016年には神戸市に行政とともに視察を行い、その上で、全単位クラブ及び地区老連に生活支援サービスの実施に係る意向調査アンケートを実施した。アンケート結果にて前向きな反応を示した地区老連にて、現在活動が開始されている状況である。
- ・上記のほかにも、地区老連単位ではなく、単位老人クラブレベルで自治会等と一体となって自発的な取り組みが進んでいる地域もある。

2. 現在の活動状況

<主たる活動内容>

- ・日常生活の困り事を抱える高齢者宅を訪問し、話し相手、見守り、ごみ出し等の支援を行う活動を、「支え合いホームヘルプサービス」として仕組み化して実施している。
- ・支援の流れとしては、困っている人から直接（または地域包括ケアセンターを通して）地区老連へ支援依頼が入り、地区老連にて支援員をコーディネートし、被支援者とマッチングするかたちとなっている。しかし、実際の地域では、困っている人から身近な支援員や単位老人クラブの会長等に依頼があることも多い。
- ・支援内容及び利用料金の設定は実施主体（地区老連や単位老人クラブ）に任せている。現在は無料で支援を行っている主体が多いが、謝礼の贈呈品等のやり取りが増えることを避ける意味合いで有料対応も可能な制度設計としてある。利用料金は、支援を受けた人が支援をした人に渡す「謝礼金」という扱いである。
- ・支援実績は年々増加しており、2017年度から活動を始めている地区老人クラブでは、205～374件/年（2018年度）の支援が行われている。支援内容は、話し相手、見守り、ごみ出しから、外出同行、草取り、用務代行等と幅広い。
- ・支援対象は老人クラブ会員に限っていないが、個人の自宅内に入っただけの支援となるため既に関係性が築けている会員間での支援から始まることが多い。ケアマネジャー等からの相談を受けて、会員外へ支援を行うこともある。
- ・支援依頼は本人からであることが多く、友愛訪問時のコミュニケーションがきっかけとなって支援に結び付くことも多い。

<他の組織との連携体制>

・各地域で具体的な連携状況は異なるが、自治会等の他の組織の役員等も入って連携して取り組みが進められている。

<活動の制度上の位置付け（総合事業との関わり等）>

・総合事業の訪問型サービスBとして行政からの補助金の対象になっており、立ち上げ補助（上限150,000円/3年）、運営補助（上限150,000円/年）の他、要支援認定者等に対してケアプランに位置付けられた支援を実施した場合に、加算補助（支援1回につき500円）が支払われることとなっている。

3. 活動の成果

<活動から派生する互助機能（仲間意識による日常生活の助け合い等）>

・利用者からは「ごみ出し等、本当に困っていたのでありがたい」「気に掛けてくれる人が地域にいるのは安心」等の声が上がっている。また、支援員側からも「自分たちでできることはやっていきたい」「地域の中で頼られていると実感し、やりがいがある」等の声が上がっている。

・呉市老連の勉強会を踏まえて、「このままでは老人クラブが消滅する」と危機意識を持ち、会費持ち寄りの自発的な研修会を重ねてきた地区老連がある。ここでは、地区老連全体としてはサービス設計が合意に至らなかったが、各単位老人クラブにて多数の「ついで支援（本来の友愛活動や奉仕活動の延長での生活支援）」が実績として上がってきている。また、これまで会員数減少に悩んでいたのだが、活動開始とともに減少が止まっている。

4. 今後の展望・課題認識

・よきリーダーをどう育てていくかが最大の課題である。老人クラブの中で次のリーダーが見つかるかどうか分からない。どこの地域にも潜在的にはいるはずなので、シルバー人材センター等と連携して人材をプールするような仕組みを作れないかと考えている。

・地域の民生委員の方が老人クラブの会員でもあり、活発に動いてくれている場合は、スムーズに取り組みが進んでいる。一方で、民生委員だから老人クラブに入れないと言う人もいる。個人情報の観点から情報共有が難しいことが、取り組みの阻害要因となっている場合がある。

・活動が地域ぐるみになって行われるようになっていかないといけないと感じている。地域では全ての主体がつながって取り組みを推進していく必要がある中で、自治会、民生委員、老人クラブを所管する行政側の課が異なっており、縦割りの所管体制のままでは問題があると感じている。

<p>ヒアリング概要 (市区町村職員向け)</p>	<p><u>1. 一人暮らし高齢者の生活支援に関する課題</u> <どのような課題が存在しているか> ・閉じこもり防止や健康促進のため社会参加を促すも、社会的な関わりを拒み生活支援につながらない高齢者が存在している（本人意識の問題）。仮に認知症が進行した場合、徘徊行動や近隣住民への迷惑行為に及ぶ可能性がある。 ・見守り活動等が活発でないために暮らしづらを知っている（確認している）人がおらず、困った時に頼る人が身近にいないために、孤独死に至ってしまう可能性を有した高齢者が存在している（人間関係の問題）。 ・提供できるサービスに地域格差があるため、特に島嶼部では適切な支援を受けられない可能性がある（サービス環境の問題）。</p> <p><自治体として対応が必要と考えている課題は何か> ・社会的な関わりを拒む閉じこもり高齢者等が、介護予防に資する活動に参加するきっかけの創出が必要だと考えている。 ・日常的に気軽に頼り頼られる人間関係を築くため、住民活動の活発化と助け合い意識の醸成が必要だと考えている。 ・地域特性に合わせた多様な生活支援（提供サービス）体制の構築と地域格差の是正が必要だと考えている。</p> <p><u>2. 一人暮らし高齢者の生活支援に関する取り組み状況</u> <どのような主体が取り組みの中心となっているか> ・老人クラブ連合会や自治会、地区社協等の地縁団体に所属する住民と、シルバー人材センターが主な中心となっている。</p> <p><自治体は取組みにどのような関わりをしているか> ・活動意識を高めるために事業説明や必要に応じて助言等を行い、事業によっては補助金を交付して住民活動を支援している（主な事業：訪問型サービスB, その他生活支援サービス（見守り）, ふれあいいきいきサロン, 協議体活動等）。 ・協議体を組織して住民とともに地域課題を考え、改善策について検討・実施している。</p> <p><u>3. 住民組織（町内会・自治会、NPO団体、老人クラブ）の組織状況</u> <活動状況の推移について（過去から現在までの役割・規模等の変遷）> ・かつては組織内活動の充実を進めることで地域の活性化に寄与していたが、現在は地域の生活支援活動の担い手としての役割が増えてきている。 ・住民同士のつながりが希薄になっていることもあり、各組織の人員及び地域で</p>

	<p>の加入率は減少傾向にある。</p> <p><住民組織間の役割分担、連携の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点では役割分担をしている状況ではない。まずは地域で何ができるかを検討し実施している段階であり、連携を含めて、より適切な状態へ移行する取り組みは次の段階であると考えている。 <p><u>4. 一人暮らし高齢者の生活支援に関する今後の方針</u></p> <p><今後どのような対応が必要と考えているか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、支え合いホームヘルプサービスは4地区（加えて枠外の取り組みが複数の地域）で実施されている。全地区は網羅できていないため、更に広がっていくよう行政としても支援をしていきたいと考えている。 <p><住民組織に期待する役割は何か></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の問題について検討し改善に向けた取り組みを進める中で、中核的な存在として住民を引っ張り、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに貢献してもらいたいと思っている。 ・また、行政や社協、地域包括支援センター等の各組織と連携して住民の生活支援に取り組み、地域情報を積極的に収集し共有してもらいたいと期待している。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

(3) 高松第三行政区ふるさと地域協議会

住民組織	高松第三行政区ふるさと地域協議会（岩手県花巻市）
ヒアリング対象者	高松第三行政区ふるさと地域協議会 会長 神山儀悦 様 高松第三行政区ふるさと地域協議会 事務局長 熊谷哲周 様 ※補足的に、花巻市 健康福祉部 長寿福祉課にもヒアリングを実施
実施日時・場所	2019年12月7日（土）9:30～12:30 @平良木公民館 ※花巻市へのヒアリングは12月6日（金）16:00～17:00@花巻市役所
ヒアリングのポイント・得られた示唆	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の将来を考え「なんとかしたい」という共通認識を持っている有志に対して、個別に声掛けを行っていった。全員があて職での選任でないことが、活動を継続していくために大きな効果があった。 ・地域課題に興味を持っている有志が集まり、会費自己負担で意見交換を重ねた。意見交換会にて有志は「何か対策をしなければ、本当に限界集落になってしまう」という思いを共有していった。 ・岩手県立大学社会福祉学部の宮城教授の指導により『自分たちの地域のビジョン』の策定に取り組んだ。初めて体験するワークショップや研修会に戸惑いながらも、地域コミュニティを重視しながら、農業・福祉・交流をテーマにした住民手づくりの『ふるさと交流福祉計画』は、地域づくりの大きな一歩となった。 ・生活支援の取り組みは、6次産業化の取り組みの成果であるガマズミゼリー等の商品化によって得られた利益の補填をもって成り立っている。また、人づくり（岩手県立大学社会福祉学部等と連携した各種講座、研修会、シンポジウムの開催）、6次産業化（足元にある資源と人材を活用して新たな収益の創出）、交流（地元出身者を中心としたふるさとネットワークづくり）等の取り組みを通して、「人材の掘り起こし」「住民の意識の変化（地域への自信と誇りの芽生え）」が実現されたことが、活動の継続に寄与している。 ・活動を始めてから、行政区内の助け合い（支え合い）の意識が高まったと感じている。また、他の地域の方から「最近の高松は元気がいい」という声をよく聞く。その内容は、活動を続ける中で「地域人材の掘り起こし」と「地域の可能性」を感じることで、自信と誇りが生まれてきたと推察している。
ヒアリング概要	<p>1. これまでの経緯</p> <p><組織の成り立ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年当時、マスコミ等で『限界集落』という言葉が流行り、「自分たちが住んでいる地域（高松第三行政区）でも高齢者が増えてきているため、「他人事ではない」という会話が集会等で飛び交っていた。そこで、地域課題に興味を持っている有志（6人）が集まり意見交換（1,000円会費の飲み会）を始めた。住宅地図を拡大コピーして公民館のホワイトボードに貼り、一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯を自らでマーキングしたところ、予想を超える（全世帯の40%）表示に驚いた。有志は「何か対策をしなければ、本当に限界集落になってしまう」という思いを共有した。3回おこなった意見交換会で、「何か地域

づくりのために活用できる補助事業はないか」という話になり、農林水産省の「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」への申請をしてみても、という話になったことで、地域協議会設立へと動き出していくことになった。

<主要メンバー参画のきっかけ>

・地域の将来を考え「なんとかしたい」という共通認識を持っている有志に対して、個別に声掛けを行っていった。結果的には、前行政区長、元JA職員、市議会議員（当時）、自治公民館長等が集うかたちとなった。全員があて職での選任でないことが、活動を継続していくために大きな効果があった。

<地域互助的な取組みを開始した経緯>

・平成23年に、その後の活動の大きなきっかけとなる岩手県立大学社会福祉学部の宮城好郎教授との出会いがあり、宮城教授の指導により『自分たちの地域のビジョン』の策定に取り組んだ。初めて体験するワークショップや研修会に戸惑いながらも、地域コミュニティを重視しながら、農業・福祉・交流をテーマにした住民手づくりの『ふるさと交流福祉計画』は、地域づくりの大きな一歩となった。

2. 現在の活動状況

<主たる活動内容>

・地域共生社会を目指した「高齢者、障がい者、子ども」の交流や、高齢者の「知恵と技を活かして、おこずかいを稼ぐ」農園を中心に、下記の活動を行っている。

- ①人づくり（岩手県立大学社会福祉学部等と連携した各種講座、研修会、シンポジウムの開催）
- ②6次産業化（足元にある資源と人材を活用して新たな収益の創出）
- ③交流（地元出身者を中心としたふるさとネットワークづくり）
- ④暮らし（一人暮らし世帯や高齢者世帯、免許返納者の外出支援、生活支援、配食サービス）

・上記④の生活支援の取組みは、②の取組みの成果であるガマズミゼリー等の商品化によって得られた利益の補填をもって成り立っている。また、①～③の活動を通して、「人材の掘り起こし」「住民の意識の変化（地域への自信と誇りの芽生え）」が実現されたことが、活動の継続に寄与している。

<一人暮らし高齢者等の生活支援に関する取組み状況>

・①「困ったときの連絡先一覧」の製作・配布、②生活支援（ゴミ出し）ボランティア、③花巻市介護予防・日常生活支援総合事業の「ご近所サポーター事

業」、「訪問型サービスB」の実施等の取り組みを行っている。

<地域の一人暮らし高齢者等のカバー率>

・協議会としては、全てカバーできていると考えている。

<他の組織との連携体制>

・以下の7団体と密接に連携の上、取り組みを進めている。

①花巻市（農政課、長寿福祉課、障がい福祉課、地域福祉課）

：活動への指導・助言等

②花巻中央地域包括支援センター

：生活支援活動、ケアファームの社会実験等の指導・助言

③花巻市社会福祉協議会

：生活支援活動、ケアファームの社会実験等の指導・助言

④岩手県立大学社会福祉学部

：ビジョン策定指導、生活支援活動、ケアファーム社会実験の指導・助言

⑤やさわの園（障がい者施設）

：福祉農園の運営協力（交流・作業体験）

⑥やさわこども園

：福祉農園の運営協力（交流・作業体験）

⑦JAいわて花巻

：福祉農園の運営協力（交流・作業体験）、活動資金の融資

<活動の制度上の位置付け（総合事業との関わり等）>

・ゴミ出し等の生活支援については、花巻市介護予防・日常生活支援総合事業の「ご近所サポーター事業」を受託して実施している。自動車による買い物・病院の付き添いや配食サービスは、花巻市介護予防・日常生活支援総合事業の「訪問型サービスB」として市からの補助を受けている。

3. 活動の成果

<活動から派生する互助機能（仲間意識による日常生活の助け合い等）>

・行政区全体の行事（6月のグランドゴルフ大会、1月の合同研修会）で、地元在住看護師（行政区内に5人）による「健康相談コーナー」の設置や日常の健康管理等の相談が行われている。

・毎年4月に「困ったときの連絡先一覧」を制作・配布している。「個人情報保護法の関係で連絡先も分からない状態だ。これがあると助かる」との声が出ている。各世帯では固定電話の脇に掲示している。

・他の地区では「移住者が地域になじめないでいる」との声を聞くが、当行政区では移住者が積極的に景観形成活動や交流事業、郷土芸能（神楽）の伝

	<p>承、消防団活動に積極的に参加してくれている。</p> <p><活動をととした会員（支援側）の健康度や意欲の変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を始めてから、明らかに行政区内の助け合い（支え合い）の意識が高まったと感じている。ボランティアの要請に、快く「いいですよ」という返事が返ってくる。 ・他の地域の方から「最近の高松は元気がいい」という声をよく聞く。その内容は、活動を続ける中で「地域人材の掘り起こし」と「地域の可能性」を感じることで、自信と誇りが生まれてきたと推察している。 <p><u>4. 今後の展望・課題認識</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019.9に『ふるさと交流福祉計画』を更新するかたちで、2025年度を目標年次とした『農村版地域包括ケアシステムの構築』を住民主体で策定した。その達成に向けて下記の取り組みを行っていきたいと考えている。 <ul style="list-style-type: none"> ①既存の福祉農園を活用したケアファーム（総合事業の通所型サービス Aとして実施予定）の立ち上げ ②既存の福祉農園を活用した『多世代共生の居場所づくり』活動の実施 ③住民の拠りどころとなる施設（小規模多機能介護支援事業所を想定）の設置 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

(4) 笠置町老人クラブ連合会

住民組織	笠置町老人クラブ連合会（京都府笠置町）
ヒアリング対象者	笠置町老人クラブ連合会 会長 和田栄雄 様 絆ネット構築支援事業 ほのぼのサービス 代表 中尾和廣 様 笠置町社会福祉協議会 事務局長 松本佳恵子 様 笠置町社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター 中美幸 様
実施日時・場所	2019年12月9日（月）13:00～14:00 @笠置町社会福祉協議会
ヒアリングのポイント・得られた示唆	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした困り事を手伝い合うことが笠置町には必要なのではと考え、社協に相談を持ち込むと、タイミングよく社協としても絆ネットワーク（京都府としての事業）の立ち上げを進めているところであった。 ・社協の執務時間を申込時間として、社協に申し込み窓口を担ってもらっている。また、利用料金の集金、協力員への支払い等の金銭授受の部分も社協に担ってもらっている。 ・町内各種団体との連携について検討したが個人情報保護の観点から、把握することは困難で断念した経緯がある、困っていても声を上げられない対象者をどうするか検討した結果、老人クラブ独自で見守り活動を行うべく老人クラブ女性部で見守り隊を結成している。 ・協力会員自身の高齢化が進んでいることが課題である。老人クラブ以外の若い方々の協力員への参加をより推進していきたいと考えている。
ヒアリング概要	<p>1. これまでの経緯</p> <p><地域互助的な取組みを開始した経緯></p> <p>・もともと老人クラブでは女性部員が見守りの役割を担っており、ある日老人クラブ女性部員から暗がりですべて生活している高齢女性の方がいるとの相談があった。行ってみると、照明器具の紐が切れてしまっており、自分で点灯することができない状態であった。この女性は、大阪の息子夫婦のマンションと一緒に暮らしていたものの「やっぱり笠置がよい」と戻ってきた方であったため、日常生活のちょっとした困り事を頼める人がいなかったようであった。とても喜ばれた姿を見て、「住み慣れた地域で安全に暮らせる」ためにちょっとした困り事を手伝い合うことが笠置町には必要なのではと考え、社協に相談を持ち込むと、タイミングよく社協としても絆ネットワーク（京都府としての事業）の立ち上げを進めているところであった。そのため、並行して老人クラブとしても取り組みを進めるかたちになり、ほのぼのサービスの組織を立ち上げるに至った。</p> <p><主要メンバー参画のきっかけ></p> <p>・当初は2,3名の協力会員による作業実施であったが、老人クラブ会員の活動や広報チラシを通して参画者が増え、現在は29人（うち老人クラブ会員は18人）になっている。</p>

2. 現在の活動状況

<主たる活動内容>

- ・「困ったときは、お互いさま」を合言葉にして、日常生活でのちょっとした困り事を、できる範囲で住民同士が支え合っている。笠置町在住の独居、高齢者世帯を対象としており、1時間600円（30分300円）で支援を行い合っている。
- ・サービス利用の流れとしては、利用者は社協に申し込みを行うこととなっている。社協は、老人クラブのほのぼの事業部に依頼を行い、ほのぼの事業部は協力会員に作業の依頼を行っている。作業終了後、利用者は社協に利用料を支払い、社協は協力会員に「実費弁償費」を支払っている。
- ・当初は利用料1時間800円で実費弁償費を1時間700円で運営していたが、令和元年度より京都府の補助金を受けられるようになり、利用料を1時間600円として実費弁償費を1時間800円に設定した。
- ・協力会員、活動件数ともに口コミで年々増加しており、平成30年度の活動件数は124件にまで増えている。
- ・活動内容は様々であり、草刈り、草引き、庭木の剪定、電球の交換、室内の清掃、話し相手、衣類の整理、家具の移動等を行っている。

<地域の一人暮らし高齢者等のカバー率>

- ・入院者・要介護者を除き、対象者は全てカバーできている。老人クラブとして地区別に女性部員を配置して、訪問・見守り活動を実施している。

<他の組織との連携体制>

- ・町内の各種団体との連携を検討したが、個人情報の問題で断念した経緯がある。そのため老人クラブ独自で女性部で構成された見守り隊が見守り活動を行っている。活動中気付いた内容の一部は社協を通して関係機関につなぎ住民の安心した暮らしにつながるものとする。
- ・新聞社からの取材を受けて記事にしている。

<活動の制度上の位置付け（総合事業との関わり等）>

- ・社協の執務時間を申込時間として、社協に申し込み窓口を担ってもらっている。また、利用料金の集金、協力員への支払い等の金銭授受の部分も社協に担ってもらっている。

3. 活動の成果

<活動から派生する互助機能（仲間意識による日常生活の助け合い等）>

- ・活動を通じて高齢者と協力員との関わりがより深められたと感じている。また、

	<p>現在協力員として活動している人にとっては、いずれ自分も世話になるものとして活動に取り組んでいる。</p> <p><u>4. 今後の展望・課題認識</u></p> <p>・協力会員自身の高齢化が進んでいることが課題である。老人クラブ以外の若い方々の協力員への参加をより推進していきたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

VI. 地域における一人暮らし高齢者等の支え合いのあり方に関する検討

1. 検討委員会の設置と協議

地域における一人暮らし高齢者等の支え合いのありかたを考察することを目的として、官民のステークホルダーによる検討会を設置し、計2回の検討委員会を開催し、協議を行った。

■ 検討委員会委員の構成

役割	氏名（敬称略）	所属及び肩書
座長	藤原 佳典	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム チームリーダー（研究部長）
委員	齊藤 秀樹	公益財団法人 全国老人クラブ連合会 常務理事
委員	菅野 智宏	川崎市 健康福祉局 長寿社会部 高齢者在宅サービス課 課長
委員	中沢 豊	松戸市 福祉長寿部 高齢者支援課 参事
委員	若佐 智弘	北海道 松前町 副町長
オブザーバー	川島 英紀	厚生労働省 老健局 振興課 課長補佐
オブザーバー	山田 大輔	厚生労働省 老健局 振興課 予算係長

■ 検討委員会の開催状況

検討委員会	開催日時・会場	主要議題
第1回	日時：2019年9月25日（水） 10:00～11:30 会場：NTT データ経営研究所 永田町オフィス会議室	・先行研究、統計資料調査の報告 ・アンケート調査票、ヒアリングシートの確認 ・ヒアリング対象地域の確認
第2回	日時：2019年12月20日（金） 10:00～12:00 会場：NTT データ経営研究所 永田町オフィス会議室	・アンケート調査の結果報告 ・ヒアリング調査の結果報告 ・課題及び提言内容に関する検討

2. 検討委員会における主な意見

(1) 第1回検討委員会

● 議題：先行研究、統計資料調査の報告

- 互助組織の担える役割は個々の組織によって異なるのが現状である。個々の組織のできる内容に応じて期待される役割は異なる。
- サービス資源の量的な充足度や提供対象者数等には違いがあるものの、全国的にサービス資源自体が存在しない地域はないため、「つなぎ」の役割は地域を問わずどこでも求められているのではないか。
- 都市だからといって NPO 等の互助組織が多いとは限らないし、住民に対するサービス供給が十分であるとも限らない。一方で、地方には利用可能なサービスは少ないかもしれないが、地縁に基づく関係が構築されているために、生活には支障がない可能性もある。以上から、地域による違いはないという結果になる可能性がある。

● 議題：アンケート調査票、ヒアリングシートの確認

- 老人クラブは、本来、互助組織というよりも自助組織である。全国には、自治会等と協働で地域活動を行っている団体もあると思うが、老人クラブの基本的な性質を鑑みると、全ての団体にそのような活動を期待するのは難しいのではないか。単位老人クラブによって取組の深さが異なるため、深くまで取り組みを行っているクラブに対して、どのようなきっかけで現在の活動を実施しているのかを聞けるとよいと思う。互助組織の得意領域を伸ばすような施策の実施に結びつく調査になると有意義であると感じた。
- 老人クラブの会員は、自治会と同様、地域のつながりから参加する人が多い。そのため、病院への見舞いや施設への慰問等、日ごろから付き合いのある人を気遣い、サポートすることは自然な流れで発生する。日常生活支援を行っている老人クラブもあるが、個々のクラブによって実施状況は異なる。住民の自主的な活動であるため、過度な期待に基づき活動方針を上から示すことは会員の反感を買う恐れもある。一方で、学校や子どもとの交流を通して地域を支援するような活動は得意領域であると考えられる。老人クラブの会員も積極的に実施したいと感じているように思う。地域共生という広い視点を持ち、その中でどのように関わってもらえるかを考えるのが望ましい。
- 単位クラブの活動状況を把握するだけでなく、活動に参加することによる会員の意欲の向上や生きがい等を聞いてはどうか。また、地域の状況に対する老人クラブの関心や理解の度合いを聞いてはどうか。回答者は老人クラブの会長を想定しているので、会長としてどのようなモチベーションで活動しているかを尋ねてはどうだろうか。
- 単位クラブの多様な活動状況を把握した上で、老人クラブの可能性を検討できるような設計にしてほしい。
- 今後の活動方針についても尋ねるのがよいのではないだろうか。生活支援等の支え合い活動に対する意向を把握する必要があると思う。
- 活動資金についても把握するのが望ましい。市区町村からの老人クラブの活動費で活動しているのか、他の財源があるのかを尋ねてはどうだろうか。

- 議題：ヒアリング対象地域の確認

- 互助組織の担える役割は個々の組織によって異なるのが現状である。個々の組織のできる内容に応じて期待される役割は異なる。

(2) 第2回検討委員会

- 議題：アンケート調査の結果報告

- サービス資源の豊富さについて、都市と地方という区分では分けられないのではないか。互助組織があるか、ないかではなく、互助活動が機能しているか、いないかを見るべきであると感じる。例えば川崎市では、サービス資源はあるものの、条件が合わずサービスを活用できない場合がある。そのような時、互助活動が機能している場合は、サービス資源を活用できずとも近隣住民との支え合いで乗り越えているが、サービス資源を活用できず、互助活動も機能していない場合は、市区町村が介入する必要があると考えている。現状、市区町村も互助組織も関わっていない空白地帯があるのか。あるならば、市区町村はどこまで施策としてカバーできるかを把握できるような調査になるとよいのではないか。
- 老人クラブについて、活動しているだけで介護予防になっているのであれば十分なのではないか。ボランティアをやりたい老人クラブの会員は少数派であり、強制はできない。地方では、お互いをサポートし合う機能が弱くなっていることもあり、他人のためにボランティアを求めることは難しいと思う。
- 関わっている単位老人クラブでは、自主的に様々な活動を行っている。現状と比較した上で、老人クラブにどのような機能が期待されているかをまとめてはどうか。
- NPO 法人の増減について、大規模市区町村では代表者を抽選等で選定することにより活動を継続することがある一方で、小規模市区町村では後継者問題で継続できない可能性があるという状況を見聞きする。
- 小規模市区町村では担い手がいない。今いる人や外から来る人がどうやったら活躍できるかを検討している。小規模市区町村は関係人口も含めた人材が活躍できる体制整備が肝である。
- 市区町村の担当者は主観で回答しているのかもしれないものの、人口規模が大きく、人口密度の高い市区町村では担い手が分散する傾向があるという点について、普段の業務を行う中で同様に感じているため興味深い。川崎市全体を網羅できる担い手はおらず、地区ごとに主となる担い手が異なるという現状がある。傾向としてみる分には示唆に富むが、特定の団体に注目してみるの難しいのではないか。
- 小規模市区町村では担い手がいないため、期待する担い手が限定されるのであろう。
- 大規模市区町村は情報を把握するのが大変になるため、期待する担い手が分散するのであろう。
- 高齢者の生活実態として、ちょっとした困り事であれば、知人に頼む等インフォーマル資源に頼っている部分があるようだ。地縁が薄いと言われる都市部であっても、車移動が必要な少し離れたまちに時々なら頼ることのできる人がいるかもしれない。過疎地と都市部は条件が違ってくると思うが、高齢者のネットワークはなかなか強固である。
- 過疎地では、困った時にシルバー人材センターに電話して来てもらうという感覚がない。困った時は親戚縁者や隣近所に助けを求めている。人口規模が大きくなるにつれて、困り事は金銭

で解決するという選択肢が優位になる。また、老人クラブによるボランティア開始のきっかけは、シルバー人材センターに頼むほどではない困り事への対処が多いようである。

- 現状の担い手に対して、新たに期待する領域がわかるよう分析してはどうか。
- 課題として挙げられているのは外出支援が突出して多いものの、地域によって回答の背景は大きく異なるのではないか。都市部では公共交通機関が一人で利用できなくなったため付き添いの支援が必要である一方、地方では交通機関そのものがない。期待する担い手として NPO 法人と民間企業が挙げられているが、おそらく地域によって何を期待するかが異なるのではないか。例えば、NPO 法人であれば地方における交通機関としての役割を、民間企業であれば都市部におけるタクシー会社等との提携による新サービス創出の役割をそれぞれ期待されているのではないか。
- 川崎市では、徒歩 1km 圏内にバス停や駅があることから交通不便地域がないことになっている。交通網には問題がないものの、バス停まで 1km 歩く必要があるため、買い物に行けない高齢者が発生してしまう。また、エレベーターのない団地に住んでおり、近隣のスーパーが撤退したため買い物難民になる高齢者もいる。同じ外出支援であっても、都市と地方では施策として求められていることが異なる。
- 大都市である横浜市でも公共交通機関がないために困っている地域がある。高度経済成長期に山を切り開いてつくられた団地のある地域だ。住民はリタイアした高齢者がほとんどで、以前はバスが通っていたが、利用者が減ったために廃線になったため、住民によるバス運行をはじめた。人口 350 万人の大規模市である横浜市であっても課題を抱えていることから、外出支援は複雑な問題であると言える。
- 社会参加という観点でみると、足腰よりも認知機能の問題で外出できない人もいる。道に迷ったり、意欲が低下したりすることによって、自宅にこもりがちになる人もいる。徒歩でよいので同伴者がいると外出できる人はたくさんいる。車による送迎に限らず、外出支援に付き添いも含めるのが望ましいと感じる。実際に、有償・無償の付き添いボランティアを実施している社会福祉協議会もある。地域のニーズ別に外出支援をどのように分析するかが大切だと思う。
- 社会福祉法人が空いているバスを貸している事例がある。企業による住民との互助として、地域にある余剰資源を活用させてもらうこともありうるのではないか。外出支援については、多様なステークホルダーと関わっていく必要があるというようなまとめ方をするとよいのではないか。
- オートロックの集合住宅はゆるやかな見守りが難しいという声が老人クラブからも出ている。中には集合住宅の中で老人クラブを組成した事例もあるものの、地域の老人クラブへの勧誘もづらい。管理組合等集合住宅の内部で完結しており、地域とのつながりがないという点で、集合住宅ならではの問題というのは指摘されている。
- マンションの管理組合と話を始めている行政もあるが、管理組合側が話し合いの場に出てこない。地域に起きている問題がマンション内で起きているということなのだろう。
- 地域で起きている課題と同様に、マンションの管理組合も認知症高齢者への対応に悩んでいるようだ。管理組合で解決できない問題は地域包括支援センター等との連携によって解決していくしかない。

● 議題：ヒアリング調査の結果報告

- 若い世代が介入した事例はあるのか。世代間交流が進んでいるというメッセージを入れることが

できたら望ましい。

- 企業等の他団体や地域との交流がきっかけで取組が進んだ事例についても示唆に富むのではないか。
 - 事務局機能が大変であることについてもよく言われることである。社協がボランティアをつないでいくことにも限界があるため、活動を広げるためにもボランティアが事務局を担うことも検討しなければならないのではないか。
 - ヒアリング調査は抽出事例への聞き取りなので、まとめ方としては事例から学ぶような考察がよいと思う。組成のきっかけが非自発的であっても、実施しているうちに意欲が高まり、うまくいっている事例もある。自発的でないとダメだという結論になってしまわないよう、このような事例もある、というまとめ方にしてほしい。
- 議題：課題及び提言内容に関する検討
 - 何を基準に一人暮らし高齢者を支援したらよいか定義はないのが現状である。生活支援によって自立を阻害することもある。どこまで支援すると一人で生活できる状況をつくることができるかの判断は難しい。
 - 一人暮らし高齢者に対して見守りは必要だと判断した場合であっても、ゆるやかな見守りから積極的に介入するような見守りまで見守りの程度は様々であり、どのレベルの見守りを行うかの判断は難しい。高齢者にも、他人には一切干渉されたくない方、介入はされたくないが自分の安否を周囲に知らせることは問題ない方等多様な価値観を持った方がいる。生活支援の定義を明確にする等の対応が必要である。
 - 「一人暮らし高齢者への生活支援」というバイアスがかかっている。高齢者の生活は老人クラブや自治会・町内会等環境によるところが大きいものの、市区町村担当者はそのような団体の活動状況まで把握できていないため、一人暮らし高齢者そのものに対する生活支援は充足していないように感じるのだろう。本調査の限界でもあるが、そのような環境要因は生活支援の充足度という設問に反映されていない。
 - 多世代共生の視点を入れるのは重要だと思う。報告書としてメッセージを伝えられるとよい。

Ⅶ. 総括

1. 調査結果のまとめ

○本調査事業では、一人暮らし高齢者等の生活課題と、地域互助的な役割を担う住民組織の役割に関する傾向が明らかになった。

<一人暮らし高齢者等の生活課題に関して>

○本調査事業のアンケート調査に回答した市区町村の過半数（58.5%）が、一人暮らし高齢者等の生活支援について不足していると感じており、人口規模が大きく、人口密度の高い市区町村の方が『充足している』、人口規模が小さく、人口密度の低い市区町村の方が『不足している』と回答する傾向にあることが明らかになった。

○充足が必要と感じている生活支援としては、「外出支援」「日常的家事」「非日常的家事」を回答する市区町村が多かった。また、それらに加え、人口規模の大きい市区町村は「地域交流活動の機会の提供」、人口密度の高い市区町村は「見守り」を挙げる傾向にあることが明らかになった。

<地域互助的な役割を担う住民組織の役割に関して>

○一人暮らし高齢者等の生活課題には、生活不安の解消を目的とした「生活支援」と、高齢期の生活をより豊かにする「生きがい創出」に大別することができることが分かった。地域の互助的な役割を担う住民組織のうち、老人クラブは、「生きがい創出」を得意領域としている傾向があると考えられる。

○本調査事業より明らかになった住民組織の現状の役割として、町内会・自治会や老人クラブは「ボランティア活動の機会の提供」「趣味・娯楽活動の機会の提供」「地域交流活動の機会の提供」「健康づくり・介護予防の場／機会の提供」「見守り」等の担い手として挙げられる傾向にあり、NPO 団体は「外出の支援」等の担い手として挙げられる傾向にあった。

○今後期待されている役割としては、町内会・自治会は「日常的家事」「非日常的家事」「健康づくり・介護予防の場／機会の提供」等が、老人クラブは「見守り」が、NPO 団体は「外出の支援」が、現状の役割に加えて期待される傾向にあった。

○老人クラブにおいては、学習・趣味・親睦活動等に加えて、「見守り」に類する「安否確認・声かけ活動・友愛訪問」に取り組むクラブが 69.9%に達しており、前述の期待に応えるかたちで、実施率が最も高い生活支援等の活動になっていることが明らかになった。また、未実施活動の中では、「外出支援」を実施したいと思っているクラブの割合が最も高かった。

<当初仮説>

○第1回検討委員会（調査開始前）にて整理した仮説は以下の内容であった（再掲）。

仮説①：一人暮らし高齢者等を支える上での互助組織の役割は、地域によって特徴がある。サービス資源が豊富な地域においては、生活支援サービスを提供する主体と支援を必要とする人の「つなぎ」を、サービス資源が比較的不足している地域においては、民生委員等と協力しながら地縁による互助の維持・継続を求められている可能性がある。

仮説②：互助組織が直接的に生活支援の活動を行っていない場合でも、それ以外の活動を通して、個人個人が相互に助け合う関係性をつくり出している。

仮説③：互助組織の中でも老人クラブは、一人暮らし高齢者等が抱える生活課題のうち、特に「生きがい創出」に寄与する取組を中心に活動を行っており、この関係を基に自然なかたちでクラブ内の支え合いや、地域の活動へと発展している。

<仮説の検証結果>

○一人暮らし高齢者等を支える上での互助組織の役割は、人口等の地域の状況に応じて特徴があることが確認された。

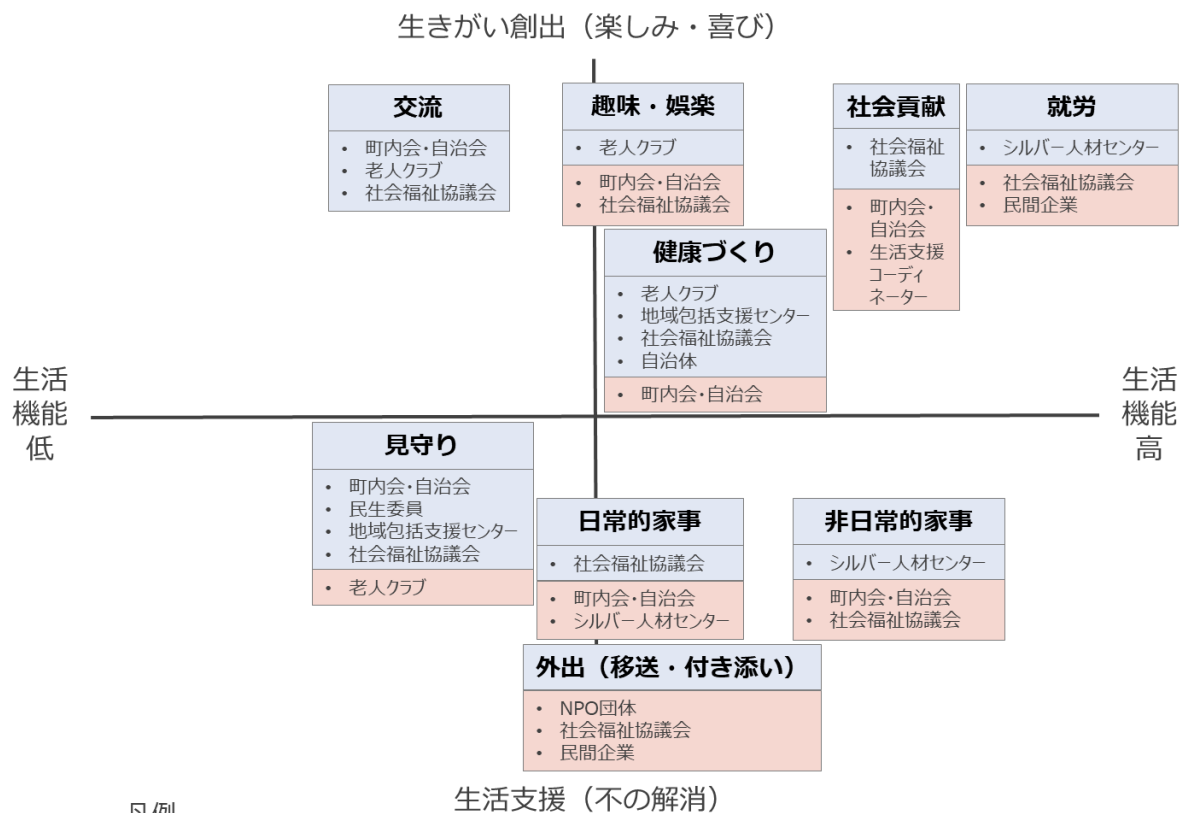
○人口規模の大きい市区町村では、町内会・自治会、NPO 団体、老人クラブ等の互助組織を含む様々な担い手が、各組織の得意領域を中心に取り組みを展開していることが見受けられた一方で、人口規模の小さい市区町村では、社会福祉協議会に役割が集中する傾向があった。今後の期待として、人口規模の大きい市区町村では、NPO 団体に役割の拡大が期待される傾向にあり、人口規模の小さい市区町村では、町内会・自治会に役割の拡大が期待される傾向にあった。

○ヒアリング調査より、地縁関係が希薄な地域では、制度間のギャップを埋める取り組みが互助組織に期待されている可能性が示唆されたとともに、サービス資源の乏しい地域では組織間の連携が強く求められているが、個人情報共有の問題が大きな壁となっていることが明らかになった。

○また、互助組織による取り組みの実施自体が地域内に活力を生み、更なる相互支援につながる等の波及を生んでいることも確認できた。

○老人クラブにおいては、学習・趣味・親睦活動、健康づくり活動等が高い割合で実施されている活動であることが確認された。加えて、「安否確認・声かけ活動・友愛訪問」についても高い割合で実施されており、活動を通して築かれた関係性が支え合いに発展していることが確認された。

○以上をふまえ、p.23「(1) 互助が得意とする領域に関する仮説」で示した高齢者の生活課題に、現状の担い手及び新たな役割が期待されている担い手をマッピングしたのが下図である。



凡例

太字：生活課題

■：現状の担い手

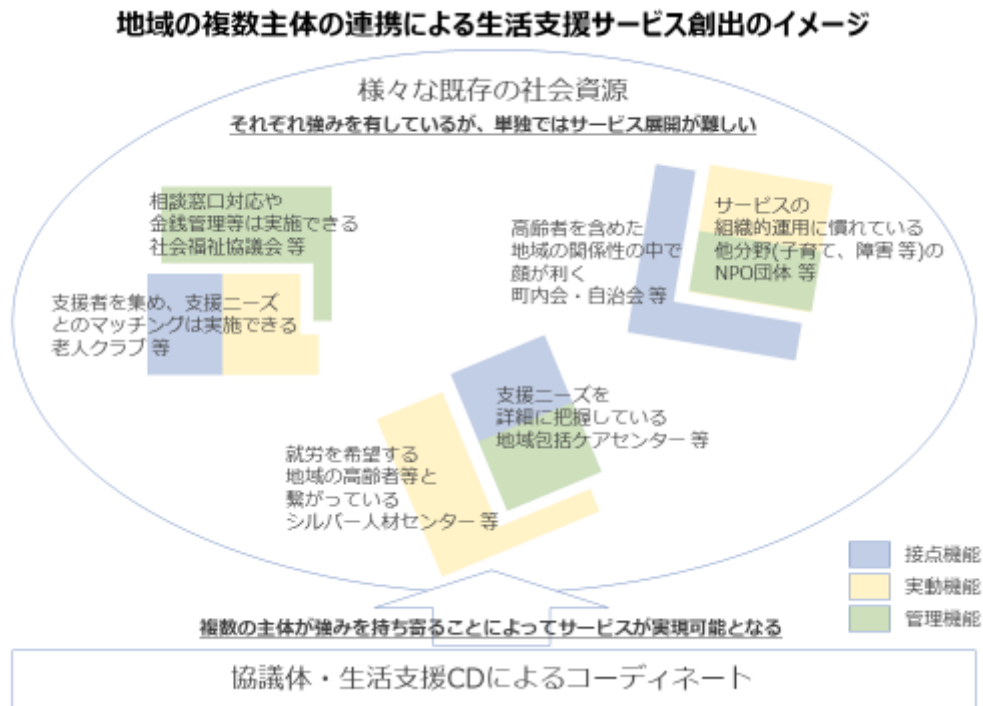
■：役割を期待されている担い手

※p.49 「(8) 現状の担い手との比較でみた各生活支援の充足に向けて期待する担い手」を基にマッピング

2. 生活支援の充足に向けて

- 公的保険外サービスを活用しながら生活支援を充足していくために、『地域にある「自助」の情報を把握・発信する』『キーパーソンに情報を伝える』『サービス提供主体同士のつながりを支援する』ことが市区町村の役割であるとされている。^{※1}
- 本調査事業では、一人暮らし高齢者等の生活課題と、地域互助的な役割を担う住民組織の役割に関して、全国的な傾向を明らかにすることができた。これらの結果は、各地域で生活支援の充足に向けて市区町村が上記の役割を果たす上で、基礎情報として参照されるものになったと考える。
- 一方で、検討委員会において意見があったように、一人暮らし高齢者等の支え合いのあり方は多様であり、地域の状況によってあるべき姿は変わってくる。
- 例えば、本調査結果から充足が必要とされている生活支援として示された「外出支援」に関して、目的地まで移動するための交通インフラの整備が求められている地域があれば、交通インフラを用いて目的地に到達するための同伴支援が求められている地域もあり、必要とされる支援のあり方は地域によって様々である。また、本調査結果にて示した生活支援の取り組みが期待される主体に関して、各主体の対応能力はそれぞれの組織によって大きく異なるのが実情であり、市区町村内でも地域によって異なるこれらの実態を踏まえて支え合いのあり方を考えていく必要がある。
- 各地域で生活支援の充足に向けた取り組みを進める上では、本調査で示した全国的な傾向を参考としながら地域の実態に応じた支え合いのあり方を考え、サービス開発を進めていくプロセスが重要となる。
- 上記を踏まえ、本稿の結びにあたって、生活支援サービス等の開発を進めていく上で有益と考えられる点に絞って本調査事業から得られた示唆を2点挙げたい。
- 生活支援サービス等の開発にあたっては、「既存の社会資源活用の可能性を探る」ことが重要とされている。^{※2} 今回ヒアリングを実施した笠置町老人クラブ連合会では、生活支援サービスの提供にあたって社協に申し込み窓口を担ってもらっており、また、利用料金の集金、協力員への支払い等の金銭授受の部分も社協に担ってもらっている。これは、協力員の巻き込みやサービスのマッチングを実施してくれる主体を求めていた社協と、電話窓口の開設や金銭授受の管理等の負担は大きいと考えていた老人クラブ連合会が、それぞれの強みを持ち寄るかたちで連携することによってサービス提供が可能になっている事例である。既存の社会資源の活用にあたって、単独の主体で完結することが難しい場合でも複数の主体が強みを持ち寄ることによって実現可能となるケースが存在することは重要な示唆であり、町内会・自治会、シルバー人材センター等の他の主体を含めて様々な連携のかたちが想定される。

下図はそのイメージである。サービス創出に必要な 3 要素（①利用者となる一人暮らし高齢者等との接点を有していること、②支援の実動を担えること(支援者の動員が可能なこと)、③サービスとして継続していくための事業管理体制を有していること）が揃うよう、各地域の状況に応じて組み合わせを考えていくことが重要ではないかと想定される。今後更なる調査研究と体系的な整理が必要であると考えられる。



○今回のアンケート調査では、回答市区町村の過半数が生活支援の不足を感じており、中でも人口規模が小さく、人口密度の低い市区町村の方が「不足している」と回答する傾向にあることが明らかになった。また、ヒアリング調査から生活課題に関する住民の方々の危機感の強さによって、生活支援サービスの創出過程に特徴があることが明らかになった。比較的危機意識が強い地域（人口規模が大きく、生活支援サービスの担い手が比較的豊富な地域を想定）においては、参加者及び担い手を巻き込んでサービス開発を進めていくためには、別のインセンティブを感じてもらえるような仕掛けが必要であると考えられる。具体的には、通いの場を活用して自らが健康になるという目的での参加から参加者間の生活支援につなげていくことや、楽しみながら参加することが地域内の交流・生活支援につながっていくよう多世代交流の場を設計すること等が有効と考えられる。

○今後、限られた資源の中で生活支援の充足を図るためには、既存の社会資源を活用して生活支援サービスを創出していく取り組みがますます重要になると考えられ、各地域の協議体・生活支援コーディネーターにかかる期待は非常に大きい。本調査事業で明らかになった傾向と示唆が、彼らのコーディネーターの一助となり、生活支援の充実につながることを期待したい。

※1 「地域包括ケアシステム構築に向けた公的介護保険外サービスの参考事例集（保険外サービス活用ガイドブック）」
平成 28 年 3 月 厚生労働省 農林水産省 経済産業省

※2 平成 27 年度生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）指導者養成研修テキスト